



Sun™ Management Center 3.5 バージョン 4 Sun Fire™ ハイエンドシステムの ための追補マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-6975-10
2004 年 5 月, Revision A

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Java、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Management Center 3.5 Version 4 Supplement for Sun Fire High-End Systems
Part No: 817-4035-10
Revision A



Adobe PostScript

目次

はじめに xxiii

1. 概要 1

2. インストールと設定 3

Sun Fire ハイエンドシステムに固有のパッケージ 4

ネットワークポートの設定 5

Sun Management Center の主な機能と対応する節 6

インストール作業の工程 8

既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアの更新 9

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンパッケージのアンインストール 9

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールと設定 9

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード 10

Sun Management Center 3.5 の新しいアドオンソフトウェアのインストールとセットアップ 10

サーバマシンの選択 12

サーバマシンのサーバ階層 12

システムコントローラと Sun Fire ハイエンドシステムドメインのエージェント階層 12

ワークステーションまたはネットワークに対するコンソール階層と基本ヘルプ 13

Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールする階層 13

Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール 14

Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定 15

- ▼ システムコントローラで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する 16
- ▼ ドメインで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する 25
- ▼ サーバマシンで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する 27

「エージェント更新」による複数ホストの更新 28

エージェント更新プロセスを起動する前に 28

- ▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する 29

エージェント更新プロセスの使用 29

エージェント更新でサポートされる構成 29

- ▼ Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する 29
- ▼ アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する 33

CLI によるソフトウェアのアンインストール 34

- ▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 34
- ▼ Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする 36

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動 38

- ▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する 38

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了 39

- ▼ サーバとエージェントを停止する 40
- ▼ コンソールを終了する 40

Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータの変更	41
▼ セットアップスクリプトを再実行する	41
Sun Management Center の Web インタフェース	43
インストールログファイルとセットアップログファイル	44
3. セキュリティーアクセス権の設定	45
グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項	45
スーパーユーザのアクセス権	46
ネームサービススイッチ	47
ネットワークネームサービス	47
Sun Management Center のグループ	48
▼ Sun Management Center ユーザグループにユーザを追加する	49
System Management Services のグループ	50
▼ /etc/group ファイルを使用して SMS グループにユーザを追加する	51
Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールの使用に必要な権限	53
PDSM 操作に必要な SMS グループ権限	53
プラットフォーム表示に対するアクセス権	54
ドメイン表示に対するアクセス権	54
1 つのユーザ ID に対するグループ ID 数の制限	55
4. Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクト	57
Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの複合オブジェクト	57
▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成する	60
▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを検出する	62
Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトの更新	62
▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した複合オブジェクトを更新する	63
▼ 検出で作成された複合オブジェクトを更新する	64

- ▼ 複合オブジェクトの障害追跡をする 64
- Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクト 66
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成する 66
- 5. Sun Fire ハイエンドシステムの詳細ウィンドウ 69
 - 「ハードウェア」タブの表示 70
 - ハードウェアの概要 70
 - 物理表示 70
 - 論理表示 71
 - Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ 71
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要を表示する 72
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示をする 74
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示をする 76
 - Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウ 78
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要を表示する 79
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示をする 80
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示をする 82
 - Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウ 83
 - ▼ システムコントローラのハードウェアの概要を表示する 84
 - ▼ システムコントローラの物理表示をする 85
 - ▼ システムコントローラの論理表示をする 89
- 6. Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュール 93
 - プラットフォーム用モジュールの使用不可 94
 - Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールの属性 95
 - Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールのアラーム規則 96
 - プラットフォーム構成リーダーモジュール 96

プラットフォーム構成リーダーモジュールの再表示機能	97
プラットフォーム構成リーダーの属性	98
システム	98
センタープレーン	100
拡張ボード	101
センタープレーンサポートボード	103
システムコントローラ	104
システムコントローラの周辺装置	105
ファントレー	106
電源装置	107
CPU ボード	108
HPCI ボード	110
HPCI+ ボード	112
WPCI ボード	115
MaxCPU ボード	117
HPCI カセット	120
Paroli カード	121
プロセッサ	122
メモリバンク	123
DIMM	124
ドメイン	125
不明なコンポーネント (構成部品)	127
障害イベントテーブル	127
検出オブジェクトテーブル	127
プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則	128
ボード電流規則 (scBCurrt)	129
ボード電源規則 (scBPower)	129
ボード温度規則 (scBTemp)	130

ボード電圧規則 (scBVolt)	130
ドメイン停止および記録停止規則 (scStop)	131
HPCI カセット規則 (scHPCId)	131
フェイルオーバー状態規則 (scFoStat)	132
OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 (scOBUrul)	133
OK/FAIL 規則 (scOkFail)	133
ON/OFF 規則 (scOnOff)	134
POST 状態規則 (scPOST)	134
電源装置遮断器規則 (scBreakr)	135
システムボード DR 状態規則 (scDrStat)	136
システムボードのテスト状態規則 (scBTest)	136
ドメインの状態のアラーム規則 (scDmnSt)	137
ドメインのバス構成規則 (scBusCfg)	139
障害イベント規則 (faultEventRuleProc)	139
ドメイン構成リーダーモジュール	140
構成が多数の外部ディスクからなる時の注意事項	141
▼ agent-stats-d.def ファイルを編集する	141
▼ ドメインのアラーム属性を変更する	141
ドメイン構成リーダーモジュールの再表示間隔	142
▼ ドメイン構成リーダーのデータを再表示する	142
ドメイン構成リーダーの属性	143
システム	143
CPU/ メモリボード	144
HPCI/HPCI+ ボード	145
WPCI ボード	145
MaxCPU ボード	146
HPCI カセット	147
Paroli カード	148

プロセッサ	149
メモリコントローラ	150
メモリバンク	151
DIMM	152
ディスクデバイス	153
テープデバイス	154
ネットワークインタフェース	154
WCI	155
ドメイン構成リーダーのアラーム規則	155
CPU 状態規則 (scCPUStatus)	156
DIMM エラー数規則 (scDimmErrCnt)	156
ディスクエラー数規則 (scDskErrCnt)	157
POST 状態規則 (scPOSTStatus)	157
状態検査規則 (scStateCheck)	158
テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)	158
リンクの状態規則 (scLnkSt)	159
リンクの妥当性規則 (scLnkVld)	159
SC 構成リーダーモジュール	160
SC 構成リーダーの属性	161
システム	161
SC ボード	162
プロセッサ	162
メモリモジュール	163
PCI デバイス	164
ディスクデバイス	165
テープデバイス	166
ネットワークインタフェース	166
SC 構成リーダーのアラーム規則	167

ボード電圧規則 (scBVolt)	167
CPU 状態規則 (cpCPUStatus)	168
CPU 温度規則 (cpCPUTemp)	168
ディスクエラー数規則 (cpDskErrCnt)	169
テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)	169
プラットフォーム/ドメインの状態管理モジュール	170
プラットフォーム表示	171
プラットフォーム情報	172
プラットフォームのスロット 0 のボード	172
プラットフォームのスロット 1 のボード	173
プラットフォームの空きスロット	174
拡張ボード	174
電源装置	175
ファントレー	175
ドメイン X 表示	175
ドメイン X の情報	176
ドメイン X のスロット 0 のボード	177
ドメイン X のスロット 1 のボード	177
ドメイン X の空きスロット	178
動的再構成 (DR) モジュール	178
SC 監視モジュール	179
SC 監視属性 - SC デーモンプロセス	180
SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)	182
SC 状態モジュール	182
SC 状態属性	183
SC 状態のアラーム規則 (rscstatus)	184
プラットフォームおよびドメインログファイルの表示	184

7. システムコントローラからのプラットフォーム/ドメインの状態管理 185

前提条件	185
PDSM がサポートする SMS のコマンド	186
システムコントローラからのプラットフォーム管理操作	187
プラットフォーム情報の表示	188
ボードの追加	188
▼ ボードを追加する	188
ボードの削除	189
▼ ボードを削除する	189
ボードの移動	189
▼ ボードを移動する	189
ボードまたは周辺装置の電源オン	190
▼ ボードまたは周辺装置の電源をオンにする	190
ボードまたは周辺装置の電源オフ	191
▼ ボードまたは周辺装置の電源をオフにする	191
状態の表示	191
▼ 状態を表示する	191
システムコントローラからのドメイン管理操作	192
システムコントローラからのドメイン情報の表示	193
ボードの追加	193
▼ ボードを追加する	193
ボードの削除	194
▼ ボードを削除する	194
ボードの移動	194
▼ ボードを移動する	195
ボードの電源オン	195
▼ ボードの電源をオンにする	195
ボードの電源オフ	196
▼ ボードの電源をオフにする	196

ボードのテスト	196
▼ ボードをテストする	196
ドメインのタグの追加/変更	197
▼ ドメインのタグを追加または変更する	197
タグの削除	198
▼ ドメインのタグを削除する	198
キースイッチ位置の変更	198
▼ キースイッチ位置を変更する	199
アクセス制御リスト (ACL) の設定/変更	199
▼ アクセス制御リストを設定または変更する	199
ドメインのリセット	200
▼ ドメインをリセットする	200
状態の表示	201
▼ 状態を表示する	201
DR 操作に失敗した場合の対処方法	201
8. ドメインからの動的再構成 (DR)	203
前提条件	203
DR モジュール	204
DR の属性	205
接続点	206
CPU/メモリ	206
PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボード	207
WPCI	208
cPCI/hPCI カード	209
SCSI	210
空きスロット	211
MaxCPU	212
動的接続点	212

CPU コンポーネント	213
メモリコンポーネント	214
入出力コンポーネント	215
SCSI コンポーネント	216
ドメインからの DR 操作	216
サポートされている <code>cfgadm</code> のオプション	217
ドメインからのドメイン情報の表示	218
ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認	218
ボードの割り当て	218
▼ ボードを割り当てる	218
ボードの割り当て解除	219
▼ ボードを割り当て解除する	219
システムボードのアタッチ	219
▼ システムボードをアタッチする	220
システムボードのデタッチ	220
▼ システムボードをデタッチする	221
ボードの接続	221
▼ システムボードを接続する	222
ボードの切断	222
▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する	222
▼ SCSI ボードを切断する	223
ボード、コンポーネント、メモリの構成	224
▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリを構成する	224
ボード、コンポーネント、メモリの構成解除	225
▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する	225
▼ メモリを構成解除する	226
ボードの電源オン	226
▼ ボードの電源をオンにする	227

ボードの電源オフ 227

▼ ボードの電源をオフにする 227

ボードのテスト 228

▼ ボードをテストする 228

状態の表示 229

▼ 状態を表示する 229

A. CLI によるインストールと設定 231

CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール 231

CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定 232

システムコントローラの設定 232

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定 235

用語集 237

索引 245

図目次

- 図 2-1 インストールの作業工程図 8
- 図 2-2 Sun Fire ハイエンドシステムでの新規インストールと設定 11
- 図 2-3 プラットフォームエージェントのポート番号の設定 17
- 図 2-4 予備のシステムコントローラに関する問い合わせ 19
- 図 2-5 CP1500 システムコントローラのエージェントの設定 22
- 図 2-6 CP2140 システムコントローラのエージェントの設定 23
- 図 2-7 サポートされていないシステムコントローラのエージェントの設定 24
- 図 2-8 ドメインのテープポーリングの無効に関する問い合わせ 26
- 図 2-9 「ジョブの管理」パネル 30
- 図 2-10 「新しいタスク」パネル 31
- 図 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの例 61
- 図 5-1 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要 72
- 図 5-2 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示 - 正面 75
- 図 5-3 プラットフォームの物理表示における CPU ボードの上面 76
- 図 5-4 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示 77
- 図 5-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要 79
- 図 5-6 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示 - 正面 81
- 図 5-7 ドメインの物理表示における HPCI ボードの上面 82
- 図 5-8 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示 83
- 図 5-9 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのハードウェアの概要 85

図 5-10	Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラの物理表示 - 正面	86
図 5-11	CP1500 システムコントローラ上面の物理表示	87
図 5-12	CP2140 システムコントローラ上面の物理表示	88
図 5-13	Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP1500) の論理表示	90
図 5-14	Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP2140) の論理表示	91
図 6-1	プラットフォーム構成リーダーモジュール	97
図 6-2	ドメイン構成リーダーモジュール	140
図 6-3	SC 構成リーダーモジュール	160
図 6-4	プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュール	171
図 6-5	SC 監視モジュール	179
図 6-6	SC 情報 (MAIN の状態であることが示されている)	183
図 8-1	DR の機能	205
図 8-2	「デタッチ」確認ボックス	221
図 8-3	「切断」パネル	223
図 8-4	「メモリの構成解除」パネル	226
図 8-5	「ボードのテスト」パネル	228
図 8-6	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)	230
図 8-7	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)	230

表目次

表 1-1	Sun Fire ハイエンドシステムエージェントモジュール	2
表 2-1	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center パッケージ	4
表 2-2	Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス	5
表 2-3	インストールと設定、アンインストール、更新作業	6
表 2-4	Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールする階層	13
表 3-1	デフォルトの Sun Management Center 管理グループ	48
表 3-2	デフォルトの SMS 管理グループ	50
表 3-3	Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールと管理グループ	53
表 3-4	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム表示で可能な管理操作とアクセス権	54
表 3-5	Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権	54
表 4-1	Sun Fire ハイエンドシステムのアイコン	58
表 5-1	詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントモジュール	69
表 5-2	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの情報	73
表 5-3	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源	73
表 5-4	Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要	80
表 5-5	Sun Fire ハイエンドシステムの SC のハードウェアの概要	85
表 6-1	Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュールの概要	93
表 6-2	プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモン	95
表 6-3	プラットフォーム構成リーダー - システム	98
表 6-4	プラットフォーム構成リーダー - センタープレーン	100

表 6-5	プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード	101
表 6-6	プラットフォーム構成リーダー - センタープレーンサポートボード	103
表 6-7	プラットフォーム構成リーダー - システムコントローラ	104
表 6-8	プラットフォーム構成リーダー - コントローラ周辺装置	105
表 6-9	プラットフォーム構成リーダー - ファントレー	106
表 6-10	プラットフォーム構成リーダー - 電源装置	107
表 6-11	プラットフォーム構成リーダー - CPU ボード	108
表 6-12	プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード	110
表 6-13	プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード	112
表 6-14	プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード	115
表 6-15	プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード	117
表 6-16	プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット	120
表 6-17	プラットフォーム構成リーダー - Paroli カード	121
表 6-18	プラットフォーム構成リーダー - プロセッサ	122
表 6-19	プラットフォーム構成リーダー - メモリバンク	123
表 6-20	プラットフォーム構成リーダー - DIMM	124
表 6-21	プラットフォーム構成リーダー - ドメイン	125
表 6-22	プラットフォーム構成リーダー - 不明なコンポーネント	127
表 6-23	プラットフォーム構成リーダー - 障害イベントテーブル	127
表 6-24	プラットフォーム構成リーダー - 検出オブジェクトテーブル	128
表 6-25	プラットフォーム構成リーダー - ボード電流規則	129
表 6-26	プラットフォーム構成リーダー - ボード電源規則	129
表 6-27	プラットフォーム構成リーダー - ボード温度規則	130
表 6-28	プラットフォーム構成リーダー - ボード電圧規則	130
表 6-29	プラットフォーム構成リーダー - ドメイン停止および記録停止規則	131
表 6-30	プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット規則	132
表 6-31	プラットフォーム構成リーダー - フェイルオーバー状態規則	132
表 6-32	プラットフォーム構成リーダー - OK/BAD/UNKNOWN 状態規則	133
表 6-33	プラットフォーム構成リーダー - OK/FAIL 規則	133
表 6-34	プラットフォーム構成リーダー - ON/OFF 規則	134

表 6-35	プラットフォーム構成リーダー - POST 状態規則	134
表 6-36	プラットフォーム構成リーダー - 電源装置遮断器規則	135
表 6-37	プラットフォーム構成リーダー - システムボードの DR 状態規則	136
表 6-38	プラットフォーム構成リーダー - システムボードのテスト状態規則	136
表 6-39	プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則	137
表 6-40	プラットフォーム構成リーダー - ドメインのバス構成規則	139
表 6-41	ドメイン構成リーダー - システム	143
表 6-42	ドメイン構成リーダー - CPU/メモリボード	144
表 6-43	ドメイン構成リーダー - HPCI/HPCI+ ボード	145
表 6-44	ドメイン構成リーダー - WPCI ボード	145
表 6-45	ドメイン構成リーダー - MaxCPU ボード	146
表 6-46	ドメイン構成リーダー - HPCI カセット	147
表 6-47	ドメイン構成リーダー - Paroli カード	148
表 6-48	ドメイン構成リーダー - プロセッサ	149
表 6-49	ドメイン構成リーダー - メモリコントローラ	150
表 6-50	ドメイン構成リーダー - メモリバンク	151
表 6-51	ドメイン構成リーダー - DIMM	152
表 6-52	ドメイン構成リーダー - ディスクデバイス	153
表 6-53	ドメイン構成リーダー - テープデバイス	154
表 6-54	ドメイン構成リーダー - ネットワークインタフェース	154
表 6-55	ドメイン構成リーダー - WCI	155
表 6-56	ドメイン構成リーダー - CPU 状態規則	156
表 6-57	ドメイン構成リーダー - DIMM エラー数規則	156
表 6-58	ドメイン構成リーダー - ディスクエラー数規則	157
表 6-59	ドメイン構成リーダー - POST 状態規則	157
表 6-60	ドメイン構成リーダー - 状態検査規則	158
表 6-61	ドメイン構成リーダー - テープエラー数規則	158
表 6-62	ドメイン構成リーダー - リンク 状態規則	159
表 6-63	ドメイン構成リーダー - リンクの妥当性規則	159
表 6-64	SC 構成 リーダー - システム	161

表 6-65	SC 構成リーダー - CP1500/CP2140 ボード	162
表 6-66	SC 構成リーダー - プロセッサ	162
表 6-67	SC 構成リーダー - メモリモジュール	163
表 6-68	SC 構成リーダー - PCI デバイス	164
表 6-69	SC 構成リーダー - ディスクデバイス	165
表 6-70	SC 構成リーダー - テープデバイス	166
表 6-71	SC 構成リーダー - ネットワークインタフェース	166
表 6-72	SC 構成リーダー - ボード電圧規則	167
表 6-73	SC 構成リーダー - CPU 状態規則	168
表 6-74	SC 構成リーダー - CPU 温度規則	168
表 6-75	SC 構成リーダー - ディスクエラー数規則	169
表 6-76	SC 構成リーダー - テープエラー数規則	169
表 6-77	PDSM モジュール - プラットフォーム情報	172
表 6-78	PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 0 のボード	172
表 6-79	PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 1 のボード	173
表 6-80	PDSM モジュール - プラットフォームの空きスロット	174
表 6-81	PDSM モジュール - 拡張ボード	174
表 6-82	PDSM モジュール - 電源装置	175
表 6-83	PDSM モジュール - ファントレー	175
表 6-84	PDSM モジュール - ドメイン X 情報	176
表 6-85	PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 0 のボード	177
表 6-86	PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 1 のボード	177
表 6-87	PDSM モジュール - ドメイン X の空きスロット	178
表 6-88	SC デーモンプロセス	180
表 7-1	PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド	186
表 8-1	CPU/メモリボードの接続点属性	206
表 8-2	PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性	207
表 8-3	WPCI ボードの接続点属性	208
表 8-4	cPCI/hPCI の接続点属性	209
表 8-5	SCSI の接続点属性	210

表 8-6	空きスロットの接続点属性	211
表 8-7	Sun Fire ハイエンドシステムの MaxCPU ボードの接続点属性	212
表 8-8	CPU コンポーネントの動的接続点属性	213
表 8-9	メモリコンポーネントの動的接続点属性	214
表 8-10	入出力コンポーネントの動的接続点属性	215
表 8-11	SCSI コンポーネントの動的接続点属性	216
表 8-12	DR がサポートする <code>cfgadm</code> のオプション	217

はじめに

このマニュアルでは、Sun Fire™ ハイエンドシステムに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法と、その使用方法を説明します。

- E25K
- E20K
- 15K
- 12K

このマニュアルは、Sun Fire ハイエンドシステムを監視、管理するために、Sun Management Center ソフトウェアをインストールして使用する Sun Fire ハイエンドシステムのシステム管理者向けです。

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 ソフトウェアおよびマニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版があります。ただし、このマニュアルの画面例はすべて英語で表記されています。

注 – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

お読みになる前に

このマニュアルは、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』および『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の後にお読みください。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールおよび設定方法、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』では、Sun Management Center の使用方法をそれぞれ説明しています。

注 – Sun Management Center の製品の最新情報については、Sun Management Center Web サイト (<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>) をご覧ください。

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center ソフトウェアの概要を説明しています。

第 2 章では、Sun Fire ハイエンドシステムに対する Sun Management Center ソフトウェアのインストール、セットアップ、起動、停止、アンインストール、再インストール、再構成方法を説明しています。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』と併せてお読みください。

第 3 章では、Sun Fire ハイエンドシステムで Sun Management Center を管理する際のセキュリティアクセス権の設定方法を説明しています。

第 4 章では、Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明しています。

第 5 章では、Sun Fire ハイエンドシステムに固有のプラットフォーム、システムコントローラ、ドメインデータについて説明しています。これらのデータは、それぞれの詳細ウィンドウに表示されます。

第 6 章では、Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントで使用される各属性とアラーム規則を簡単に説明しています。

第 7 章では、プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM) モジュールから 動的再構成 (DR) コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。PDSM モジュールは、SMS (System Management Services) のコマンドに依存しています。

第 8 章では、動的再構成 (DR) モジュールから DR コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。DR モジュールは、`cfgadm(1M)` コマンドに依存しています。

付録 A では、コマンド行インタフェース (CLI) を使用して Sun Management Center ソフトウェアをインストールし、セットアップする方法を説明しています。

用語集では、このマニュアル、および Sun Fire ハイエンドシステム専用のモジュール用の Sun Management Center のグラフィカルユーザインタフェース (GUI) で使用されている略語と頭字語をまとめています。

索引を利用すると、このマニュアルの説明箇所を簡単に見つけることができます。

今回のリリースに含まれているオープンソースソフトウェアのライセンス条件と帰属、著作権情報については、以下のパスのファイルを参照してください。

```
/cdrom/sunmc_3_5_sparc/image/Webserver/Solaris_9/SUNWtcatr  
\install/copyright
```

Solaris 8 ソフトウェアを使用している場合は、このパスの Solaris_9 の部分を Solaris_8 に置き換えてください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX[®]の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 本システムに付属している他のソフトウェアマニュアル
- 次のサイトにある Solaris[™] オペレーティング環境についてのマニュアル
<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザ (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参シェルプロンプトについて照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザ」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING '

関連マニュアル

用途分類	タイトル	Part No.
概要	Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要	817-4178
Sun Management Center のインストールと設定	Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド	817-3019
Sun Management Center の使用方法	Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド	817-3024
Sun Management Center に関する注意事項、制限事項、問題点	Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって	817-3049
Solaris 8 または 9 のリファレンス	Sun Solaris 8 または 9 Reference Manual Collection (docs.sun.com を参照)	なし
SMS および SMS DR に関する注意事項、制限事項、問題点	System Management Services (SMS) 1.4.1 ご使用にあたって	817-4183
SMS のインストールと設定	System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル	817-4171
SMS リファレンス	System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル	817-4176
SMS 管理	System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル	817-4175
Sun Fire ハイエンドシステムでの DR	Sun Fire ハイエンドシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	817-5311
SMS の DR	System Management Services (SMS) 1.4 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	817-4608
ハードウェア	Sun Fire E25K/E20K Systems Service Manual Sun Fire 15K/12K システムサービスマニュアル	817-4138 816-2194
luxadm	Platform Notes: Using luxadm Software	816-5074
Netra サーバ	Sun Management Center 3.5 Netra サーバのための追補マニュアル	817-3126
Sun Fire ミッドレンジシステム	Sun Management Center 3.5 バージョン 3 Sun Fire Midrange Systems ご使用にあたって	817-5584

用途分類	タイトル	Part No.
Sun Fire™ Link システムの管理	Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル	817-0746
Sun Fire™ Link システムの設置	Sun Fire Link ソフトウェアインストールマニュアル	817-2625-10
ワークグループサーバ	Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル	817-2931
ワークステーション	Sun Management Center 3.5 ワークステーションのための追補マニュアル	817-2893
Advanced System Monitoring (ASM)	SPARCengine™ ASM Reference Manual	805-7581

Sun のオンラインマニュアル

サン の各種マニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun のテクニカルサポート

この製品に関する技術的なご質問で、このマニュアルに記述されていない事項については、次のサイトからお問い合わせください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-4035-10) とタイトル (『Sun Management Center 3.5 Version 4 Supplement for Sun Fire High-End System』) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

概要

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアは、Java™ ソフトウェアプロトコルと SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用して、サンの製品とそのサブシステム、コンポーネント、周辺装置の統合および総合的な大規模の管理機能を提供する、拡張可能な開かれたシステム監視および管理アプリケーションです。

『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』には、Sun Management Center のアーキテクチャを理解するための定義と説明、および図が掲載されています。コンソール、サーバ、エージェント、ドメイン、モジュールの対話の仕組みについて不明な点がある場合には、適宜参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアは、Sun Fire ハイエンドプラットフォーム、システムコントローラ、ドメインに対するサポート機能を提供します。今回のリリースでサポートされている Sun Fire ハイエンドシステムのモデルは次のとおりです。

- E25K
- E20K
- 15K
- 12K

Sun Fire ハイエンドプラットフォームの場合、ハードウェアの構成情報は両方のシステムコントローラ (SC: 現在の CP1500 または CP2140) と各プラットフォームドメインに置かれます。Sun Fire ハイエンドシステムのハードウェア構成情報、プロセス監視、管理機能は、表 1-1 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントモジュールによって提供されます。

表 1-1 Sun Fire ハイエンドシステムエージェントモジュール

エージェントモジュール	説明
プラットフォーム構成リーダー (PCR)	Sun Fire ハイエンドシステムプラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します。
プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM)	プラットフォームおよびドメインの管理と、プラットフォーム全体のシステムボードの大域的な動的再構成 (DR) を可能にします。
ドメイン構成リーダー (DCR)	Sun Fire ハイエンドシステムドメインのハードウェア構成情報を提供します。
動的再構成 (DR)	1 つのドメインのボードを一度に動的に再構成することを可能にします。
SC 構成 リーダー	Sun Fire ハイエンドシステム内のシステムコントローラに関するハードウェア構成情報を提供します。
SC 監視 (SCM)	Sun Fire ハイエンドシステムのアクティブなシステムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。
SC の状態	Sun Fire ハイエンドシステム上のシステムコントローラがメインまたは予備のどちらであるかを判定します。

第2章

インストールと設定

この章では、Sun Management Center 3.5 のウィザードを使った、Sun Fire ハイエンドシステムに対する Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、再インストール、再構成方法を説明します。

Sun Management Center ソフトウェアは、以下で構成されています。

- Sun Management Center の基本部分と基本的なサポート機能を提供する主要パッケージ
- 特定のハードウェアプラットフォームに対するサポート機能を提供する追加コンポーネント
- 追加機能用のアドオン製品 (ライセンス契約の下に使用許可)

Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能を使用するには、Sun Management Center 3.5 の主要パッケージと Sun Fire ハイエンドシステム用のアドオンパッケージが必要です。Sun Management Center 3.5 の主要パッケージのインストールと設定、また Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの起動と停止に関する基本的な情報については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。この章では、Sun Fire ハイエンドシステムに固有の内容についてのみ説明します。



注意 – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアに付属しているインストールおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center 3.5 のスクリプトあるいはウィザードパネルによって表示されるメッセージの内容および順番が、このマニュアルで示す例と異なることがあります。この章で示す例は、実際に表示されるメッセージのおおよその内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトとセットアップスクリプトは、インストールする追加コンポーネントやその他の選択オプションによって異なります。

Sun Fire ハイエンドシステムに固有の パッケージ

表 2-1 は、Sun Management Center 3.5 の基本機能に付属している Sun Fire ハイエンドシステムに固有のパッケージとそのインストールに必要な最小ディスク容量 (キロバイト単位) をまとめたものです。Sun Management Center を使用する際に必要となる、最小ディスク容量などの一般的な条件については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

表 2-1 Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center パッケージ

パッケージ	説明	階層
SUNWesscp	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center プラットフォームエージェントサポート	エージェント
SUNWesscd	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center ドメインエージェントサポート	エージェント
SUNWscsca	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center コントローラエージェントサポート	エージェント
SUNWesadf	Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムでの動的再構成用 Sun Management Center エージェントサポート	エージェント
SUNWesscg	Sun Fire ハイエンドシステム共通の Sun Management Center サポート (マスタの設定およびアンインストールスクリプト)	エージェント、サーバ
SUNWensca	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 英語メッセージファイル	エージェント、サーバ
SUNWesscs	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center サーバサポート	サーバ
SUNWscscs	Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center コントローラサーバサポート	サーバ
SUNWessdf	Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムでの動的再構成用 Sun Management Center サーバサポート	サーバ
SUNWesscd	Sun Management Center の Sun Fire サポート - 動的再構成用のコンソールコンポーネント	サーバ、コンソール
SUNWesscdf	Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムでの動的再構成用 Sun Management Center コンソールサポート	サーバ、コンソール
SUNWensdr	Sun Management Center - Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステム用の英語 DR メッセージファイル	サーバ、コンソール

ネットワークポートの設定

Sun Management Center ソフトウェアは、ネットワークポートを介して、システムのさまざまなコンポーネントと通信します。各コンポーネントのデフォルトのポートアドレスは、表 2-2 に示すとおりです。

表 2-2 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

階層	コンポーネント	デフォルトのポート番号
エージェント	エージェント	161
サーバ	トラップハンドラ	162
サーバ	イベントマネージャー	163
サーバ	トポロジマネージャー	164
サーバ	構成サーバ	165
エージェント	プラットフォームエージェント	166
サーバ	メタデータ	168

このデフォルトのポート設定が、システムですでに動作中のソフトウェアと衝突することがあります。一部の **Sun Fire** ハイエンドシステムドメインでも、従来の **SMNP** エージェントがあるためにポート 161 で衝突することがあります。このような衝突を回避するには、**Sun Management Center** ソフトウェアの設定でかわりのネットワークポートを指定してください。ポートの衝突を解決する方法についての詳細は、『**Sun Management Center 3.5** インストールと構成ガイド』を参照してください。

トポロジオブジェクトの作成、アクセスの際、**Sun Management Center** のエージェント階層ソフトウェアはデフォルトではポート 161 を使用します。エージェントが別のポートを使用するように設定するには、トポロジオブジェクトが作成または検出されたときに、そのポートを指定する必要があります。**Sun Management Center** のネットワーク構成と管理を簡略化し、**Sun Management Center** エージェントをより効率的に検出できるようにするには、デフォルトのポート設定を使用できないすべてのエージェントのインストール先について、別のポート番号を選択して、その番号を使用してください。

Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムコントローラには、エージェントおよびプラットフォームエージェントの 2 つの **Sun Management Center** エージェントがあります。このうち、エージェントはシステムコントローラの情報、プラットフォームエージェントは **Sun Fire** ハイエンドシステムの情報を提供します。通常、プラットフォームエージェントについては、デフォルトのポート設定でポートの衝突が発生することはありません。プラットフォームトポロジオブジェクトが作成または検出されると、デフォルトで正しいポートが提供されるため、ユーザがポートを指定する必要はありません。

Sun Management Center の主な機能と対応する節

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアでは、いくつかの方法でインストール、設定、アンインストール、更新を行うことができます。表 2-3 は、それらの方法と、このマニュアルおよび『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』におけるその説明箇所をまとめています。

表 2-3 インストールと設定、アンインストール、更新作業

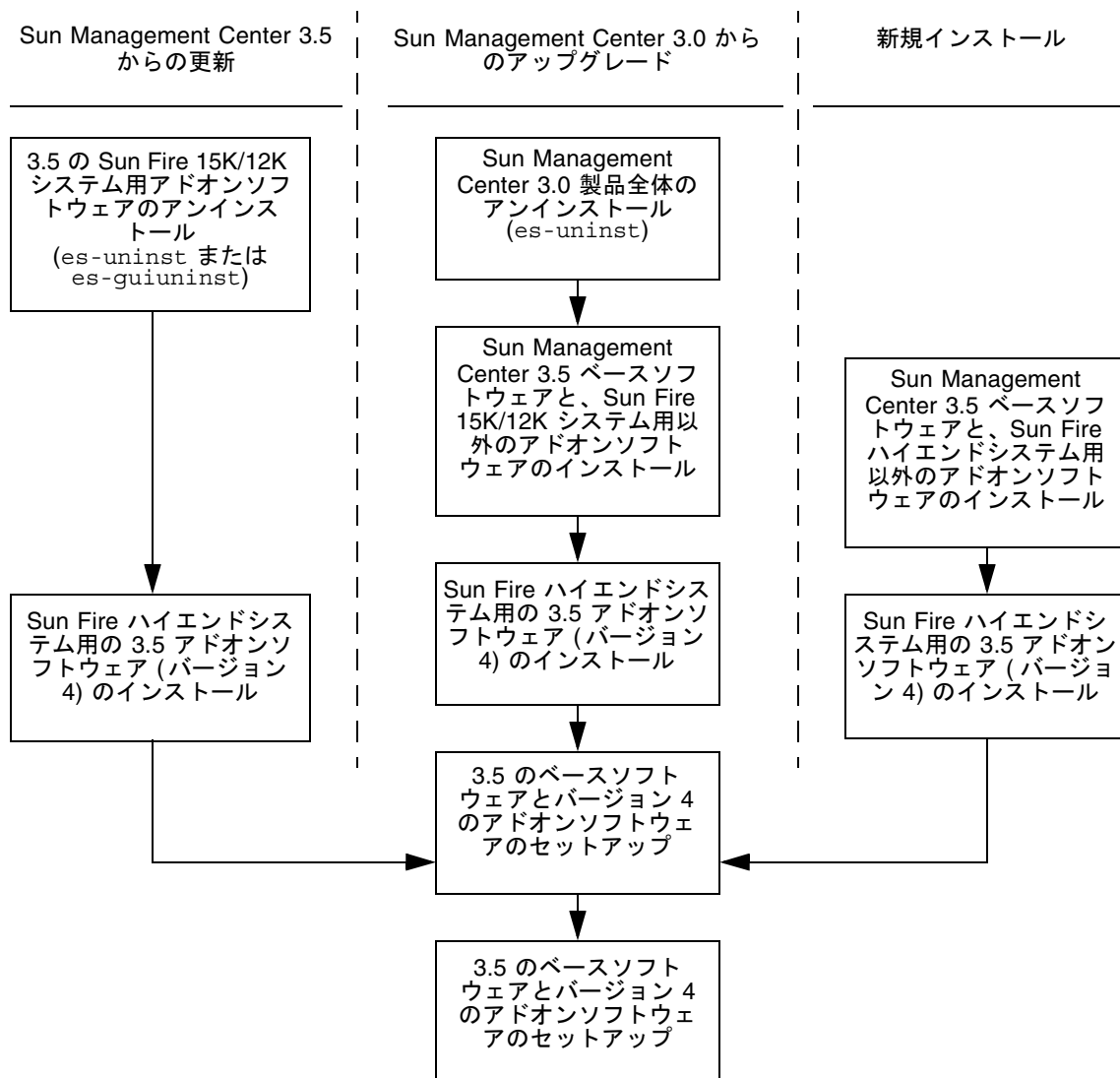
行う作業	説明している場所
CLI による主要およびアドオンソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンパッケージの設定	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
エージェント更新による複数ホストの更新	28 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「エージェント更新 (インストール) イメージの作成」
CLI によるアンインストール	34 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI によるソフトウェアの起動	38 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-start によるコンポーネントの起動」
CLI によるソフトウェアの停止	39 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-stop によるコンポーネントの停止」
Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによるソフトウェアのインストール	14 ページの「Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center 3.5 のインストール」
Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる設定	15 ページの「Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」

表 2-3 インストールと設定、アンインストール、更新作業 (続き)

行う作業	説明している場所
ウィザードによる起動	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistart によるコンポーネントの起動」
ウィザードによる停止	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistop によるコンポーネントの停止」
ウィザードによるアンインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」

インストール作業の工程

図 2-1 は、インストールの作業工程全体をまとめています。



注 - エージェント更新機能を使用して、複数のエージェントホストに 3.5 ソフトウェアをインストールすることができます。

図 2-1 インストールの作業工程図

既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアの更新

Sun Fire ハイエンドシステムから既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアを更新する場合は、以下のことを行う必要があります。

- Sun Fire ハイエンドシステム上のサーバ、システムコントローラ、ドメインから既存のアドオンソフトウェアを削除する。
- Sun Fire ハイエンドシステム上のサーバ、システムコントローラ、ドメインに新しいアドオンソフトウェアをインストールして設定する。

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンパッケージのアンインストール

- CLI コマンドの `es-uninst` を使って、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアをアンインストールする場合は、36 ページの「Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする」を参照してください。
- Sun Management Center 3.5 のアンインストールウィザードの `es-guiuninst` を使って、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアをアンインストールする場合は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールと設定

注 – インストール作業に入る前に、エージェント更新機能があることを忘れないでください。エージェント更新を利用して、複数のエージェントホストに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールできます。エージェント更新を使って複数ホストの更新方法については、28 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」を参照してください。

CLI あるいは GUI を使ったインストールおよび設定については、それぞれ以下の節または付録で説明しています。

- ウィザードによるインストールと設定 - 9 ページの「Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールと設定」
- CLI によるインストールと設定 - 付録 A

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレードの詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 5 章を参照してください。

Sun Management Center 3.5 の新しいアドオンソフトウェアのインストールとセットアップ

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムでの Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの新規インストールおよび設定手順の概略を説明します。図 2-2 は、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラおよびその他ホストにインストールする必要がある Sun Management Center ソフトウェアを表しています。

Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ



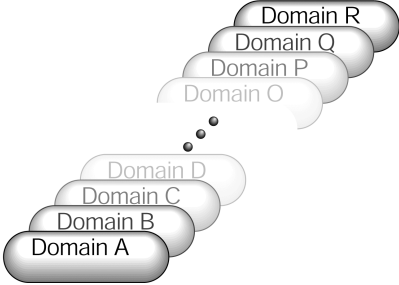
- Sun Management Center の主要エージェント階層
- Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェント、システムコントローラ、プラットフォームエージェントの DR、共通サポート

Sun Management Center サーバ
(512M バイトの RAM を搭載した任意のホスト)



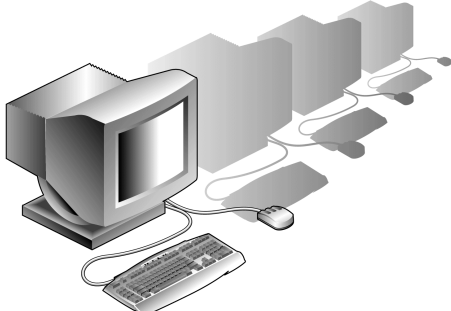
- Sun Management Center のサーバ階層とエージェント階層
- Sun Fire ハイエンドシステムのサーバ、システムコントローラサーバ、サーバの DR、共通サポート

Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン



- Sun Management Center の主要エージェント階層
- Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェント、ドメインエージェントの DR、共通サポート

ワークステーション
(またはネットワーク上の共通の場所)



- Sun Management Center の主要コンソール階層と基本ヘルプコンポーネント
- Sun Fire ハイエンドシステムコンソールの DR のサポート

図 2-2 Sun Fire ハイエンドシステムでの新規インストールと設定

サーバマシンの選択

Sun Management Center ソフトウェアをインストールする前に、**Sun Management Center** サーバマシンにするサーバを決定します。このサーバには、最小でも 512M バイトのメモリが必要です。使用可能なメモリが 512M バイト未満のサーバに主要サーバコンポーネントをインストールしようとする、エラーメッセージが表示され、インストールが停止します。

また、サーバは高可用性 (HA) システムである必要があります。HA システムでない場合、**Sun Management Center** サーバが停止したときに、**Sun Management Center** ソフトウェアを使ってシステムを管理できなくなります。サーバマシンの要件についての詳細は、『**Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド**』を参照してください。

サーバマシンのサーバ階層

サーバマシンに **Sun Management Center 3.5** ソフトウェアをインストールする手順の概要は、以下に示すとおりです。

- **Sun Management Center** サーバとして選択したマシンに **Sun Management Center 3.5** の主要サーバ階層と、**Sun Fire** ハイエンドシステムおよびシステムコントローラサーバ用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。**Sun Management Center 3.5** サーバマシンに、**Sun Management Center 3.5** の主要サーバ階層をインストールすると、主要エージェント階層が自動的にインストールされます。これで、サーバマシン自体を監視できるようになります。

システムコントローラと Sun Fire ハイエンドシステムドメインのエージェント階層

システムコントローラと **Sun Fire** ハイエンドシステムドメインに **Sun Management Center 3.5** ソフトウェアをインストールして、設定する手順の概要は、以下に示すとおりです。

1. メインおよび予備のシステムコントローラに **Sun Management Center 3.5** 主要エージェント階層と、**Sun Fire** ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントおよびシステムコントローラ用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。
2. 監視するすべての **Sun Fire** ハイエンドシステムのドメインに対して、**Sun Management Center 3.5** 主要エージェント階層と **Sun Fire** ハイエンドシステムのドメインエージェント用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。

ワークステーションまたはネットワークに対する コンソール階層と基本ヘルプ

ワークステーションまたはネットワークに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールする手順の概要は、以下に示すとおりです。

- GUI を使った監視に使用するネットワーク上の共通の場所またはすべてのワークステーションに Sun Management Center 3.5 の主要コンソール階層と基本ヘルプ、コンソールの DR サポートをインストールして、設定します。

Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールする階層

Sun Fire ハイエンドシステムをサポートするには、表 2-4 に示すように Sun Fire ハイエンドシステムに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールして、セットアップします。主要ソフトウェアのインストールとセットアップについては、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。このマニュアルではまた、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの起動および停止方法も説明しています。

表 2-4 Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールする階層

ホスト	階層	インストールするソフトウェア
Sun Management Center サーバマシン	サーバ	Sun Management Center の主要サーバ階層 Sun Management Center の主要エージェント階層 (自動) Sun Fire High ハイエンドシステムのサーバ用の追加コンポーネント Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラサーバ用の追加コンポーネント Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのサーバ用の DR サポート Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル
Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン	エージェント	Sun Management Center の主要エージェント階層 Sun Fire ハイエンドシステム用の監視コンポーネント Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル

表 2-4 Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールする階層 (続き)

ホスト	階層	インストールするソフトウェア
メイン SC	エージェント	<p>Sun Management Center の主要エージェント階層</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の監視コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ用の追加コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのエージェント用の DR サポート</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル</p> <p>このホストに、その他の Sun Management Center 階層をインストールしないでください。</p>
予備の SC	エージェント	<p>Sun Management Center の主要エージェント階層</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の監視コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ用の追加コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのエージェント用の DR サポート</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル</p> <p>このホストに、その他の Sun Management Center 階層をインストールしないでください。</p>
ワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	コンソール	<p>Sun Management Center の主要コンソール階層と基本ヘルプコンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのコンソール用の DR サポート</p>

Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール

ソフトウェア全体のインストール方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center 3.5 のインストール」に詳しい説明があります。ここでは、インストール手順の概略を示します。

1. 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」で説明しているように、スーパーユーザで Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードを実行します。

2. 以下のいずれかの操作をします。
 - a. 単体でリリースされたアドオンソフトウェアをインストールする場合は、Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアが存在するディレクトリに移動し、`es-guiinst` を再実行して、手順 3 に進みます。
 - b. Sun Management Center 3.5 CD からアドオンソフトウェアをインストールする場合は、手順 3 に進みます。
3. ベースソフトウェアをインストールすると、選択してインストールすることが可能なアドオン製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」画面が表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムに適用するアドオン製品を選択して、「次へ」をクリックします。
4. すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Management Center の設定ウィザードが自動的に起動します。



注意 – システムコントローラが CP2140 ボードの場合は、そのサポートのために、システムコントローラと Sun Management Center サーバの両方に システムコントローラ用エージェントソフトウェアを再インストールする必要があります。

Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定

この節では、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを使用して Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定をする方法を説明します。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (ボタンがグレー表示されていない場合)、ボタンをクリックして直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることはできません。

注 – Sun Management Center 3.5 ベースソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ システムコントローラで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する

1. システムコントローラで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別アドオン製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは「Sun Fire High-End Systems Monitoring」です。

```
The following add-on products are newly installed on this system
and will be set up.
```

```
- Sun Fire High-End Systems Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックしてプラットフォームエージェントのセットアップを開始します。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Checking configuration files...
```

```
Status:
```

```
Set the platform server: <SChostname>
```

```
Checking for default platform agent port...
```

```
Default platform agent port: 166
```

```
Checking of configuration files complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以前にデフォルトのプラットフォームポートが設定されていない場合は、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに以下が表示されます。

The default port for the Sun Management Center platform agent is 166

Would you like to use the default Sun Management Center platform agent port?

Yes

No

- プラットフォーム管理モジュールの設定を行う場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
- プラットフォーム管理モジュールの設定を行わない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

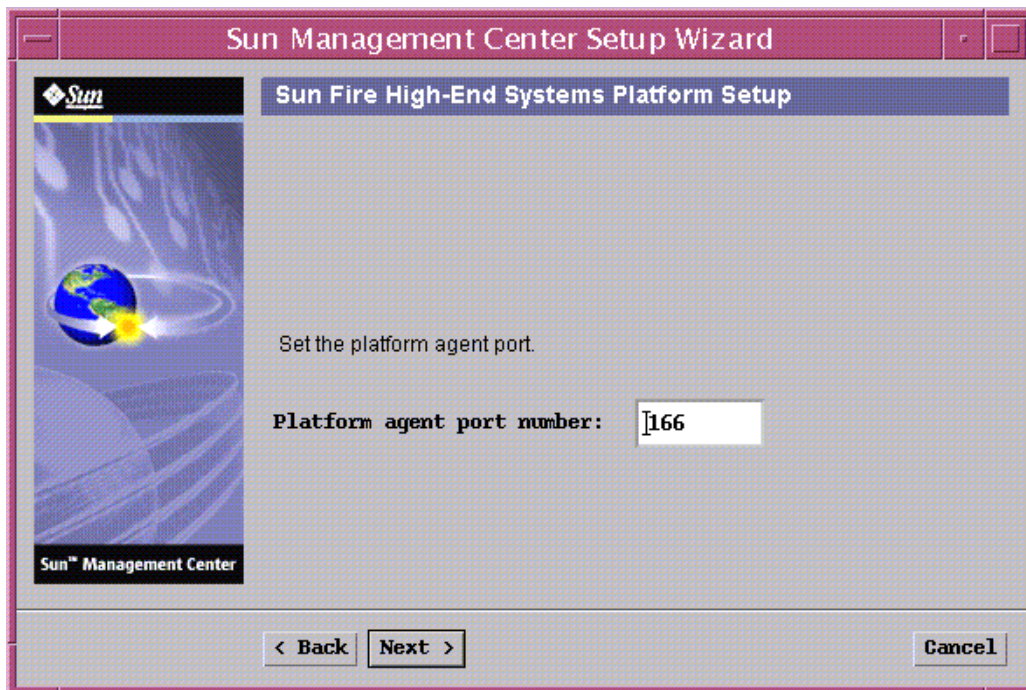


図 2-3 プラットフォームエージェントのポート番号の設定

- デフォルトのポート番号が表示された場合は、そのまま採用するか、変更します。
- デフォルトのポート番号が表示されない場合は、ポート番号を入力します。

5. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに、選択されたポート番号が確認表示されます。

```
Confirmation of the platform agent port.
```

```
Platform agent port: 166
```

6. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

ポート番号を追加または変更した場合は、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The Sun Management Center security keys must be regenerated because  
the platform agent port number has been changed.
```

```
Would you like to regenerate the security keys now?
```

```
 Yes
```

```
 No
```

- ここでセキュリティーキーを再生成する場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。

「はい」をクリックすると、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
This part of setup generates security keys used for communications  
between processes. A seed must be provided to initialize the  
keys. Make sure you use the same seed for all the machines you  
install. You may like to keep record of this seed for future use.
```

```
Enter the seed to generate keys:
```

```
Re-enter the seed to confirm:
```

注 – シードのパスワードは必ず安全な場所に保管してください。Sun Management Center のインストール内容に変更を加えた場合に必要になります。

- i. 初めてインストールした場合は、一意のシードのパスワードを入力します。初めてのインストールでない場合は、以前のバージョンの Sun Management Center で使用したのと同じシードを入力します。
- ii. 確認のためにシードを再度入力します。
 - ここでセキュリティーキーを再生成しない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

「いいえ」をクリックすると、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

The Sun Management Center security keys have not been regenerated.
Remember to regenerate them prior to starting Sun Management Center.

7. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-4 予備のシステムコントローラに関する問い合わせ

- Sun Fire ハイエンドシステムに予備の SC がある場合は、次のようにします。
 - i. 「はい」のラジオボタンをクリックします。

ii. 予備 SC のホスト名を入力します。

- Sun Fire ハイエンドシステムに予備の SC がない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

8. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The Platform Agent will create a composite object that includes
Sun Management Center agents loaded on Sun Fire High-End Systems
domains.
```

9. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに、Sun Fire ハイエンドシステムのデフォルトのドメインのポートが表示されます。

```
The default port to check for Sun Fire High-End Systems domains is
161.
```

Would you like to change the port to be checked?

Yes

No

Domain port number:

(なしの場合は何も入力しない)

- 検査する Sun Fire ハイエンドシステムのドメインポートを変更する場合は、次のようにします。
 - i. 「はい」のラジオボタンをクリックします。
 - ii. ポート番号を入力するか、空白のままにしてポートの検査を省略します。
- 検査するポートを変更しない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

10. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...

Status:

Updated Discovery Table information via es-dt
Creating Agent Update configuration file.

Update of configuration files complete.
```

11. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems platform setup is complete.
```

12. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

SC 用に使用されているマシンに従って、「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージのうちのいずれかが表示されます。

- CP1500 が使用されていることが検出された場合

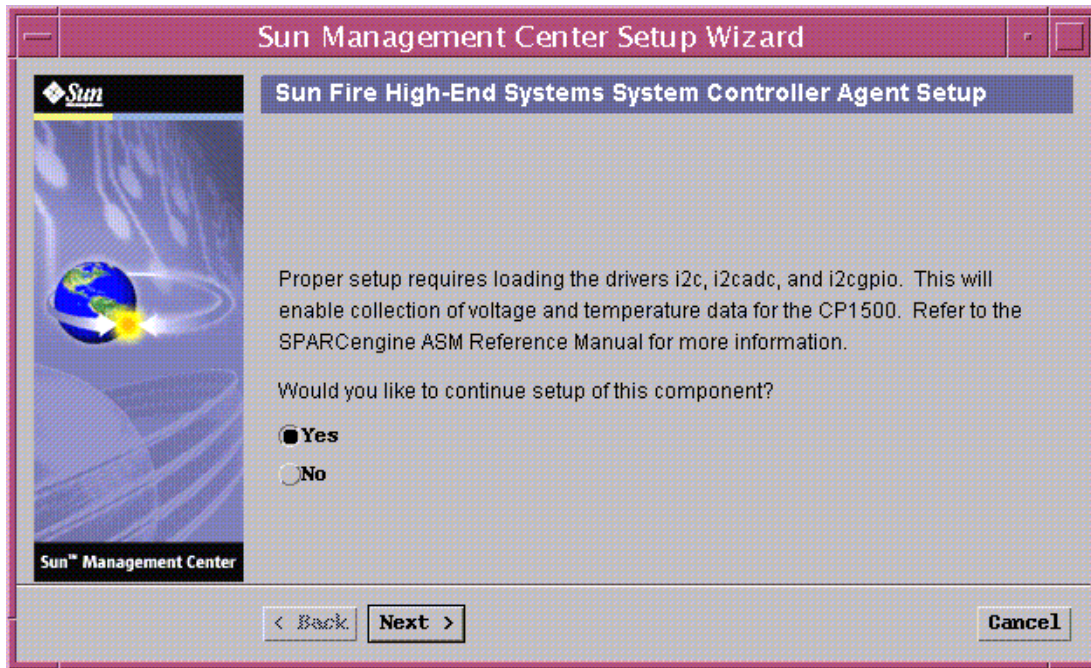


図 2-5 CP1500 システムコントローラのエージェントの設定

- ドライバの `i2c`、`i2cadc`、`i2cgpio` を読み込んで、システムコントローラのエージェントの設定を続ける場合は、「はい」のラジオボタンをクリックする。
- システムコントローラのエージェントの設定を続けない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
- CP2140 が使用されていることが検出された場合

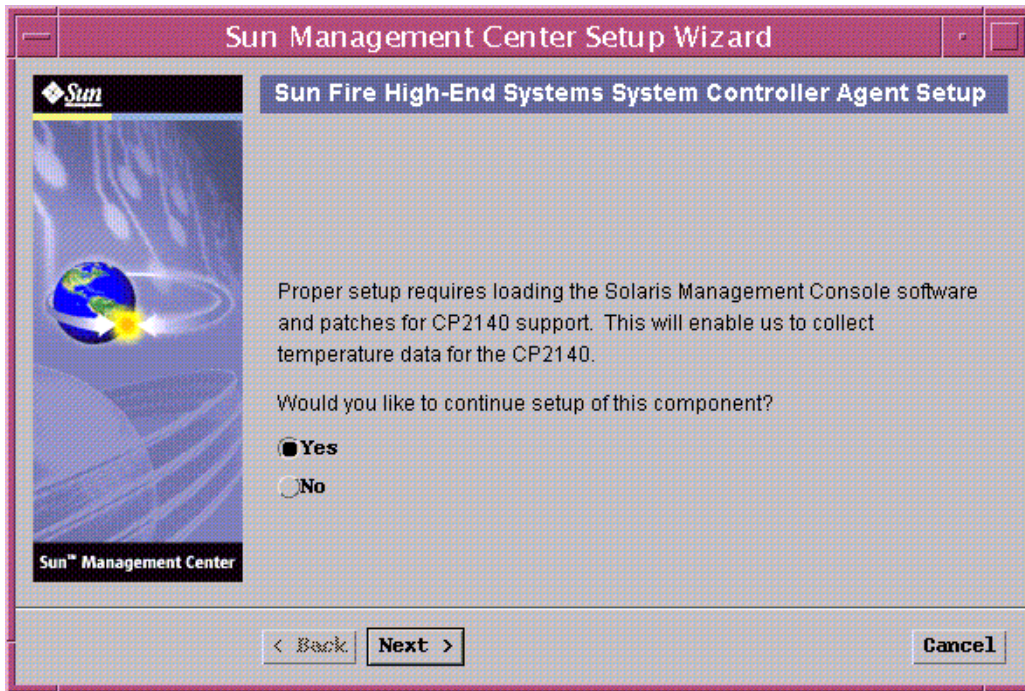


図 2-6 CP2140 システムコントローラのエージェントの設定

- **Solaris Management Console** ソフトウェアとパッチを読み込んで、システムコントローラのエージェントの設定を続ける場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
- システムコントローラのエージェントの設定を続けない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
- CP1500 と CP2140 のどちらも使用されていないことが検出された場合

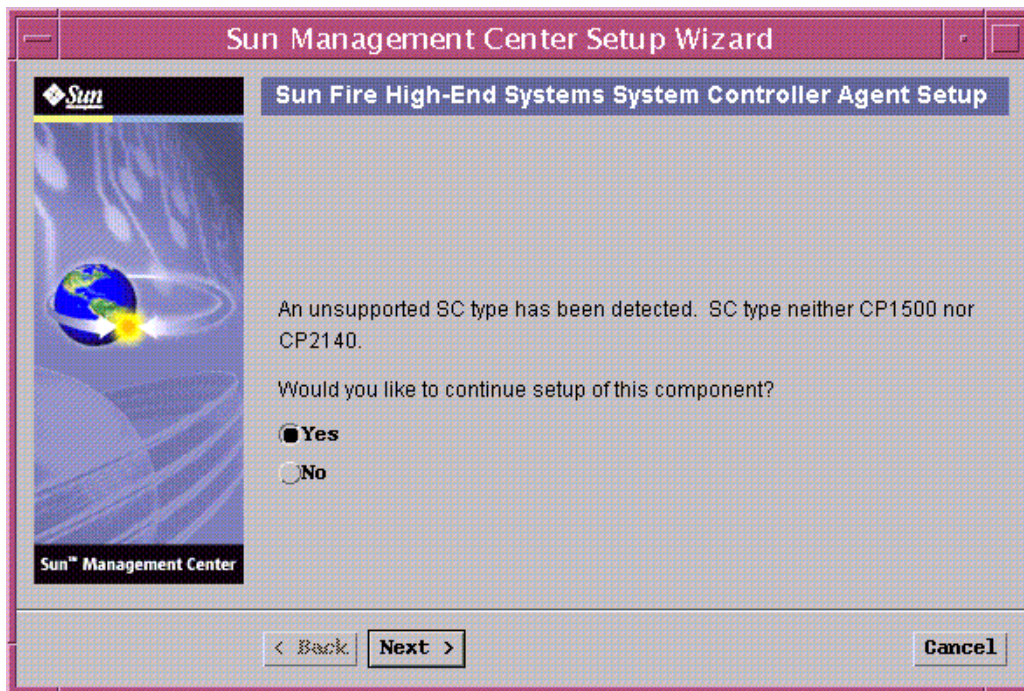


図 2-7 サポートされていないシステムコントローラのエージェントの設定

- システムコントローラのエージェントの設定を続ける場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。
- システムコントローラのエージェントの設定を続けない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

13. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...

Status:

Created deviceinfo.conf file
....

Update of configuration files complete.
```

14. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems SC agent setup is complete.
```

▼ ドメインで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは「Sun Fire High-End Systems Monitoring」です。

```
The following add-on products are newly installed on this system  
and will be set up.
```

```
- Sun Fire High-End Systems Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックしてドメインの設定を開始します。

「Sun Fire High-End Systems のドメインの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

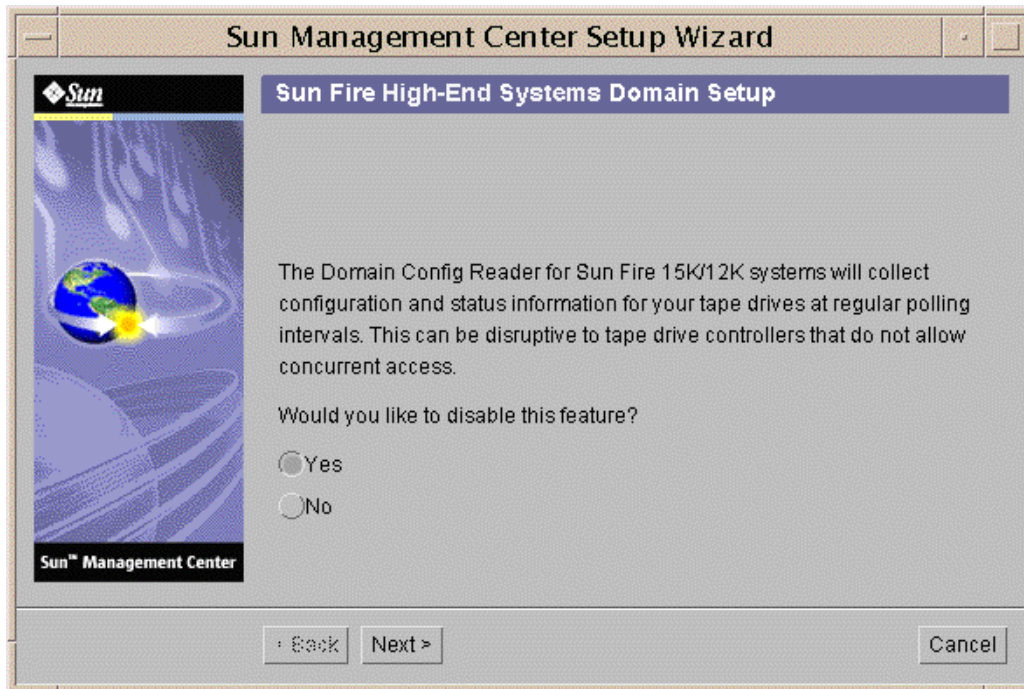


図 2-8 ドメインのテープポーリングの無効に関する問い合わせ

- テープドライブに対するポーリングを無効にする場合は「はい」のラジオボタンをクリックします。

テープドライブコントローラによって同時並行アクセスが禁止されている場合は、この機能を無効にできます。

- テープドライブのポーリングを有効にする場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のドメインの設定」パネルに、構成ファイルの更新状況が表示されます。

```
Updating configuration files...

Status
....
....

Update of configuration files complete.
```


4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のドメインの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems domain setup is complete.
```

▼ サーバマシンで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する

1. Sun Management Center サーバマシンで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは「Sun Fire High-End Systems Monitoring」です。

```
The following add-on products are newly installed on this system and will be set up.
```

```
- Sun Fire High-End Systems Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のサーバの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

「Sun Fire High-End Systems のサーバの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems server setup is complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

更新が完了すると、「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems SC server setup is complete.
```

「エージェント更新」による複数ホストの更新

この節では、エージェント更新を使用して一度に複数のホストを更新する方法を説明します。このエージェント更新プロセスそのものは、**Sun Management Center** サーバマシンで実行する必要があります。また、更新対象のすべてのホスト上で **Sun Management Center 3.5** エージェントを必ず動作させておく必要もあります。

エージェント更新プロセスを起動する前に

エージェント更新を使用して **Sun Fire** ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントモジュールを完全にインストールして設定するには、**Sun Management Center** サーバマシンでエージェント更新プロセスを実行する前に、更新対象のホスト上のモジュール用のエージェント更新用構成ファイルを作成しておく必要があります。

注 – Sun Management Center 3.5 ベースソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『**Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド**』の「**Solaris** プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントが更新対象のすべてのホストにインストールされていることを確認します。
2. es-setup スクリプトまたは es-guisetup ウィザードを使用して、更新対象のホスト上で Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントモジュールが設定されていることを確認します。

この確認を終えると、最初に提供されたホスト別の情報を利用した、エージェント更新による以降のプラットフォームエージェント設定処理が自動的に機能します。

エージェント更新プロセスの使用

エージェント更新では、目的のマシンに配布するアドオンコンポーネントからなるイメージファイルを作成し、「ジョブの管理」タスクリストに新しいジョブを追加します。

エージェント更新でサポートされる構成

エージェント更新を使用して以下の構成を更新できます。

- 29 ページの「Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する」
- 33 ページの「アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する」

▼ Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成の更新にのみ使用できます。

1. es-gui-imagetool または es-imagetool (基本 Sun Management Center スクリプト) のいずれかを使用して目的のエージェントマシンに配布する、適切な Sun Fire ハイエンドシステム用追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成します。
ウィザードまたは CLI 形式のイメージツールの使用方法に関する詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 7 章「Sun Management Center のインストール後の作業」の参照してください。

2. Sun Management Center メインコンソールウィンドウの「ツール」メニューから「ジョブの管理...」オプションを選択します。

「ジョブの管理」パネルが表示され (図 2-9)、このパネルからイメージファイルを配布することができます。

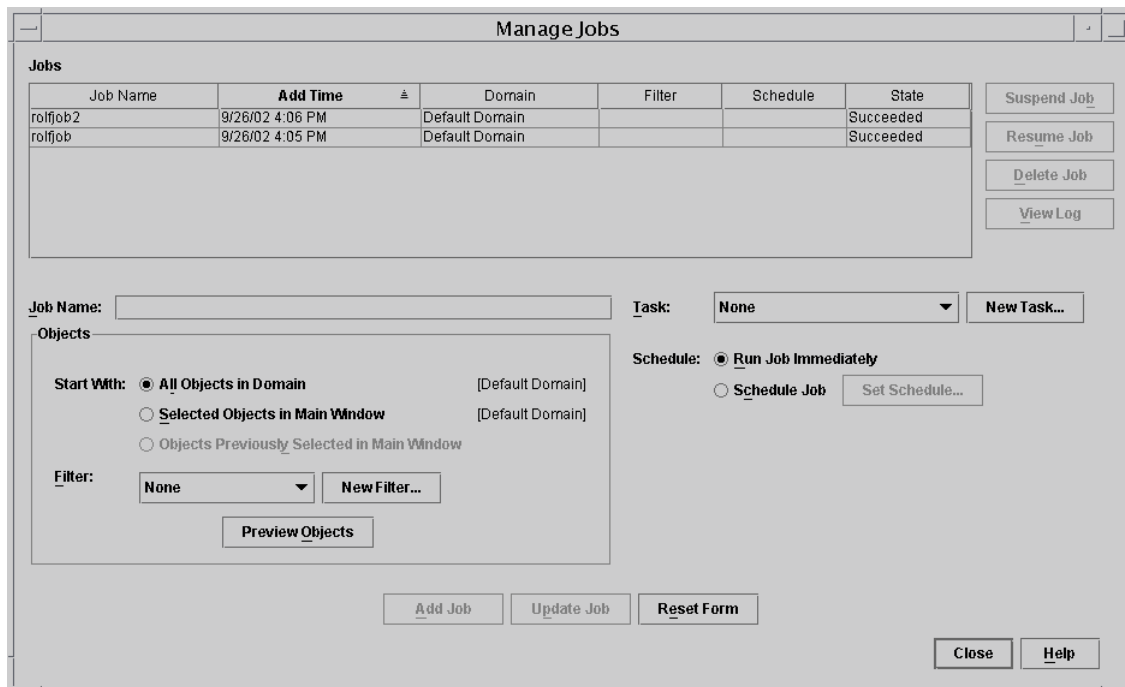


図 2-9 「ジョブの管理」パネル

3. 「ジョブの管理」パネルで「新しいタスク」ボタンを選択します。

「新しいタスク」パネルが表示され (図 2-10)、このパネルから配布するエージェント更新イメージファイルを指定することができます。

Tasks Show Task Type: All

Task Name	Task Type
xc addon for sc - s8	Agent Update
xc addon for sc - s9	Agent Update

Delete Task

Task Name:

Task Type: Agent Update Schedule agent updates from a previously-created Update Image file.

Image Files: v4-b7-sol9

Image Contents:

Description (Optional)

図 2-10 「新しいタスク」パネル

4. 「新しいタスク」パネル (図 2-10) で、以下のことを行います。
 - a. 「タスクタイプ」で「エージェント更新」を選択します。
 - b. 手順 1 で作成したイメージファイルを選択します。
 - c. タスク名を入力します。
 - d. 「タスクの追加」ボタンをクリックします。
 - e. 「閉じる」ボタンをクリックします。
5. 「ジョブの管理」パネル (図 2-9) で、以下のことを行います。
 - a. ジョブ名を入力します。

b. 手順 4 で作成したタスクを選択します。

c. 以下のいずれかを行って、タスクの実行予定を作成します。

- タスクをただちに実行する場合は、「直ちにジョブを実行」のラジオボタンをクリックします。
- タスクの実行予定を作成する場合は、「ジョブスケジュール」のラジオボタンをクリックして、実行時期を設定します。

注 – イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択する前に、すべてのエージェントマシンを含むグループオブジェクトを作成できます。これにより、1 つずつエージェントマシンを選択する必要はなくなります。オブジェクトグループの作成についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章「グループを作成する」を参照してください。

d. 以下のいずれかを行って、イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択します。

- 「ドメイン内のすべてのオブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトをさらに選別するためのフィルタを指定します。
- 「メインウィンドウ内の選択オブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトを 1 つずつ選択します。

e. 選択したオブジェクト (エージェントマシン) を確認し、選択内容に誤りがあれば、やり直します。

f. 「ジョブの追加」ボタンをクリックします。

ジョブが開始され、選択されたオブジェクト (エージェントマシン) にイメージファイルが配布されます。ジョブの実行中は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストにそのことが表示されます。ジョブのステータスとして、ジョブの実行中と完了が示されます。

注 – 複数ホストの更新中にあるホストで問題が発生すると、他の大部分のホストが正常に更新されたとしても、ステータスとして「Failed (失敗)」が返されます。その場合は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストの右側の「ログ表示」をクリックして、成功および失敗した更新の一覧を参照してください。エージェント更新が成功した場合、Sun Management Center エージェントは自動的に再起動します。配布先のホストのそれぞれについて、Sun Management Center コンソールのホストの詳細ウィンドウで、適切なモジュールが存在し、動作しているかを確認することができます。

▼ アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、以下のいずれかの構成の場合に行います。

- アドオンソフトウェアが存在しない構成から Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアへの更新
 - Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成から Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアへの更新
1. Sun Management Center サーバマシン上でスーパーユーザとしてログインします。
 2. イメージツールのいずれかを使用してエージェント更新イメージを作成します。
 - `es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「GUI イメージツールを使用する」の手順に従います。
 - `es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「コマンド行イメージツールを使用する」の手順に従います。
 3. 各更新対象マシンのルートディレクトリに
`/opt/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` ファイルをダウンロードします。
`/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center をインストールしている場合は、`/installldir/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` をダウンロードします。`installldir` はユーザ指定のインストールディレクトリです。
 4. 更新対象のマシン上でスーパーユーザとしてログインします。
 5. ダウンロードした `agent-update.bin` が存在するディレクトリに移動します。
 6. `./agent-update.bin -s server -r http-port -p image-name` と入力します。
 - `server` は手順 1 でログインしたサーバです。
 - `http-port` は Sun Management Center Web サーバポートです。
 - `image-name` は手順 2 で作成したエージェント専用イメージの名前です。
 7. セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティ文字列を指定します。
エージェント更新プロセスは、セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティ文字列を入力するよう求めます。
 - セキュリティーシードは、Sun Management Center サーバおよびエージェントの設定で指定したのと同じシードである必要があります。
 - SNMPv1 コミュニティ文字列は、Sun Management Center サーバおよびエージェントの設定で指定したのと同じ文字列である必要があります。

上記以外の情報を入力する必要はありません。更新プロセスがマシンに更新イメージを適用します。

更新プロセスが完了したら、サーバホスト上のログファイル `/var/opt/SUNWsymon/log/agent-update.log` を表示して更新状態を確認します。

注 – プラットフォームエージェントを設定するには、
`/installdir/SUNWsymon/sbin/es-setup -F` を再実行する必要があります。

CLI によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して以下をアンインストールすることができます。

- Sun Management Center ソフトウェア全体 (34 ページの「Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)
- Sun Fire ハイエンドシステム用のアドオンソフトウェア (36 ページの「Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする」を参照)

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザで以下を入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-uninst
```

この例では、ソフトウェアがデフォルトの `/opt/SUNWsymon/sbin` にあると仮定しています。デフォルト以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

以下のメッセージが表示されます。.

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.

Following Sun Management Center Products are installed:
-----
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
-----
Production Environment                  All Addons
Sun Fire High-End Systems Monitoring    None

Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 本稼働環境をアンインストールしてもよい場合は **y** を入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。

以下のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!

Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 以下のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data
is saved and can be restored when you re-install Sun Management
Center.
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - **y** (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

4. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、廃棄する場合は **n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールしてもよい場合は **y**、そうでない場合は **n** を入力します。
y を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

▼ Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする

1. スーパーユーザで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----
```

```
Production Environment                  All Addons
```

```
Sun Fire High-End Systems Monitoring    None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 本稼働環境をアンインストールしない場合は、**n** と入力します。
(本稼働環境をアンインストールすることを指示する **y** を入力すると、主要ソフトウェアを含む Sun Management Center ソフトウェア全体が削除されます。)
以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall Sun Fire High-End Systems Monitoring? [y|n|q]
```

3. Sun Fire ハイエンドシステム Monitoring をアンインストールする場合は、y を入力します。

削除される製品に続けて次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

4. 以下のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、y を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、n を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.  
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - y (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

5. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は y、廃棄する場合は n を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

6. アンインストールしてもよい場合は y、アンインストールしない場合は n を入力します。

y を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

es-start コマンドに指定する引数は、起動するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の es-start のオプション一覧を参照してください。この一覧は、es-start の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-start のオプションは、以下の手順に示すとおりです。

▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する

1. 起動するコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。
2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトの /opt にインストールされていると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

システムコントローラ上で Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# ./es-start -al
```

このコマンドによって主要およびプラットフォームエージェントが起動されます。プラットフォームエージェントは、あらゆる Sun Fire ハイエンドシステム情報を Sun Management Center ソフトウェアに提供します。

3. Sun Management Center のエージェント階層だけインストールされている Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの場合は、Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# ./es-start -a
```

- すべての階層がインストールされている Sun Management Center サーバホスト上のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-start -A
```

注 – 再起動すると、すべての Sun Management Center エージェントが自動的に起動します。

- コンソールを起動するには、以下を入力します。

```
# ./es-start -c
```

注 – コンソールの起動では、自分のユーザ ID を使ってログインすることもできます。スーパーユーザでログインする必要はありません。ただし、プラットフォームまたはドメイン構成リーダーにアクセスする場合は、適切なセキュリティーアクセスグループに属している必要があります。45 ページの「グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項」を参照してください。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了

ここでは、Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了について説明します。

- 適切なコマンド引数を指定して `es-stop` コマンドを入力することによるサーバとエージェントコンポーネントの停止
- メインコンソールウィンドウからのコンソールの終了

▼ サーバとエージェントを停止する

es-stop コマンドに指定するコマンド引数は、停止するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の es-stop のオプション一覧を参照してください。この一覧は、es-stop の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-stop のオプションは、以下の手順に示すとおりです。

1. 停止しようとするコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトの /opt にあると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. サーバマシン上のサーバとエージェントコンポーネントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

4. ドメインのホストマシン上のドメインエージェントコンポーネントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -a
```

5. SC を監視するホストエージェントとプラットフォームエージェントを停止するには、システムコントローラ上で次のコマンドを入力します。

```
# ./es-stop -al
```

▼ コンソールを終了する

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから「ファイル」->「終了」を選択します。
2. 「Sun Management Center の終了」パネルで「終了」ボタンをクリックします。

Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータの変更

Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータは、セットアップスクリプト (es-setup) を再実行することによっていつでも変更できます。次にあげるような変更を行った場合は、必ずその変更に合わせて Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータを適切な値に変更してください。

- Sun Fire ハイエンドシステムのシステム名を変更した場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインとプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェント用の Sun Management Center エージェントのポート設定を変更した場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- プラットフォーム構成にスペアのシステムコントローラを追加したり、構成から削除したりした場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- Sun Management Center サーバホストまたはトラップエージェントのポート設定を変更した場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームおよびドメインコンポーネントの再設定をします。
- ホストの IP アドレスを変更した場合は、ホスト上のコンポーネントの再設定をします。

主要コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照してください。

注 – SMS (System Management Services) の再インストール後にセットアップを再実行する必要はありませんが、Sun Management Center ソフトウェアを起動し直す必要があります。SMS ソフトウェアが起動する前に Sun Management Center ソフトウェアを再起動すると、「status is spare」状態であることを示すグレーの停止標識が表示されることがあります。また、SC 監視モジュールが読み込まれると、「Module is on the spare SC or required SMW daemon(s) is stopped」というメッセージが表示されることがあります。ただし、こうしたメッセージは SMS ソフトウェアが起動すると画面から消えます。何の操作も必要ありません。

▼ セットアップスクリプトを再実行する

1. 再設定するコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、デフォルトの /opt を使用していると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. 再設定するコンポーネントを停止します。

コンポーネントの停止に使用するコマンドは、再設定するコンポーネントによって異なります。

- サーバマシンで動作している Sun Fire ハイエンドシステムのサーバおよびエージェントコンポーネントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

- ドメインで動作している Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -a
```

- SC で動作しているホストエージェント (SC を監視) とプラットフォームエージェントを停止する場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -al
```

4. セットアップスクリプトを実行して、Sun Management Center 3.5 の主要およびアドオンソフトウェアを再構成します。

```
# ./es-setup -F
```

es-setup コマンドのその他の引数の使用法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

5. 以下の 2 つのプロンプトでは、対応するコンポーネントの設定手順に従います。

- Sun Management Center サーバの設定では、以下のメッセージが表示されません。

```
Do you want to preserve your existing data? [y|n|q]
```

注 - **y** (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

- a. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、廃棄する場合は **n** を入力します。
- **Sun Fire** ハイエンドシステムのドメインエージェントの設定では、以下のメッセージが表示されます。

サーバホスト名 appears to be configured as your Sun Management Center server. Is this correct? [y|n|q]

- b. これが Sun Management Center サーバの場合は **y** (はい)、Sun Management Center サーバでない場合は **n** (いいえ) を入力します。n を入力すると、サーバの正しいホスト名を入力するように求められます。
6. 停止したコンポーネントを再起動します。

Sun Management Center の Web インタフェース

Sun Management Center の Web インタフェースは、Java ベースの Sun Management Center コンソールに用意されている機能の大部分を提供する、ライセンス契約の下に使用許可される別売りの Sun Management Center コンポーネントです。Sun Management Center Web インタフェースについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 - Web インタフェースには、Sun Fire ハイエンドシステムの物理表示と論理表示機能がないことに注意してください。物理表示と論理表示については、このマニュアルの第 5 章を参照してください。

インストールログファイルとセットアップログファイル

ここでは、インストールおよびセットアップスクリプトの終了時に表示されるメッセージ例を示します。ログファイルを調べることによって、インストールおよび設定中に発生したすべての問題を確認することができます。また、これらのファイルは、エラーの診断にも利用できます。

次の例は、インストールスクリプトが終了したときのメッセージを示しています。*nnnnnnnnnnnnnn.nnnnnn* は、インストールログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/install.nnnnnnnnnnnnn.nnnnnn
```

次の例は、セットアップスクリプトが終了したときのメッセージを示しています。*nnnnnnnnnnnnnn.nnnnnn* は、セットアップログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/setup.nnnnnnnnnnnnn.nnnnn
```

セキュリティーアクセス権の設定

この章では、Sun Fire ハイエンドシステム上で Sun Management Center の管理業務を行うためのユーザ権限を設定する方法を説明します。Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップの終了後は、ユーザが行う業務に従って 2 通りのソフトウェア管理グループでユーザ権限を設定する必要があります。

- Sun Management Center のユーザグループ - 一般的な Sun Management Center のセキュリティーの詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 18 章「Sun Management Center のセキュリティー」を参照してください。
- System Management Services (SMS) ユーザグループ - Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラは、SMS によって管理されます。このため、システムコントローラから Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームおよびドメインを管理するには、Sun Management Center グループとともに、SMS グループでユーザ権限を設定する必要があります。一般的な SMS セキュリティーについては、『System Management Services (SMS) 1.4 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティーオプションと管理特権」を参照してください。

グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項

System Management Services 管理グループのメンバーであること (メンバーシップ) を必要とする Sun Management Center ツールやモジュールを使用するには、Sun Management Center および System Management Services の 2 つのソフトウェアパッケージのそれぞれによって利用されるグループ定義において、そのグループのメンバーとしてユーザ ID が登録されている必要があります。つまり、両方のソフトウェアによって、適切な管理グループのメンバーとしてユーザ ID が認識される必要があります。

Sun Management Center と System Management Services の両方のソフトウェアによって、ユーザ ID が適切な System Management Services 管理グループのメンバーとして認識されるようにする方法は 2 通りあります。

- Sun Management Center および System Management Services ソフトウェアの両方が利用する NIS (Network Information Service) などの一元化されたネットワークネームサービスでグループを定義して維持する。
- Sun Management Center サーバホストと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラそれぞれの /etc/groups ファイルでローカルにグループを定義して維持する。この場合、Sun Management Center サーバホスト上の System Management Services グループの定義は Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上の定義またはその一部と同じにします。つまり、Sun Management Center サーバホストで Sun Management Center 管理グループのメンバーとして登録したユーザ ID を、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上の同じグループのメンバーとしても登録する必要があります。

2 台の異なるマシン上で同じ情報からなる 2 つのファイルを維持するよりも、一元化されたネームサーバホスト上で単一のファイルを維持する方が便利で、エラーが起こりにくいことは明らかです。ただし、ここには、選択する方法とその実装方法に関すると考えられるセキュリティ上の問題点があります。

スーパーユーザのアクセス権

Sun Management Center と SMS 環境はともにいくつかの管理グループを提供します。このため、ユーザによって異なる管理権限を割り当てることができます。この方式は、そうしたグループに対するユーザの追加あるいは削除権限が厳重に管理されることを前提にしています。しかし、グループメンバーシップが定義されているマシン上でスーパーユーザ権限をもった場合は、その誰もがグループを作成・削除したり、グループのメンバーを追加・削除したりできます。不正なユーザがスーパーユーザ権限を持った場合、そのユーザは管理グループに自身 (または他の人) を追加することができ、そのことで、そうしたグループを持つことの目的が無意味になることは明らかです。

このため、セキュリティ上問題となるのは、何人のユーザ (そしてどのユーザ) が中央のネームサーバまたは Sun Management Center サーバと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上のいずれかでスーパーユーザ権限を持っているのか、ということです。ある環境では、システムコントローラ上のスーパーユーザ権限が厳重に管理されているのに対し、Sun Management Center サーバホスト上のスーパーユーザ権限は多数のユーザによって所有されています。その他のサイトでは、スーパーユーザ権限が厳密に制限されています。また、ネームサーバ上で多数のユーザにスーパーユーザ権限が付与されている環境もあれば、ネームサーバに対するスーパーユーザのアクセス権が厳密に制限されている環境もあります。

ネームサービススイッチ

グループメンバーシップのセキュリティーは、Sun Management Center サーバホストおよび Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ両方のネームサーバスイッチファイル (/etc/nsswitch.conf) の group の設定の影響を受けます。デフォルトでは、たいいていのスイッチファイルは、/etc/group ファイルなどのソースで必要なグループ情報を見つけられなかった場合は、アプリケーションが NIS ネームサーバなどの別のソースを調べるように、またその逆に NIS ネームサーバなどのソースで必要なグループ情報を見つけられなかった場合は、/etc/group ファイルなどのソースを調べるように作成されています。このため、セキュリティーが問題になる場合は、ネームサービススイッチファイル内の group の設定を編集して、単一のソースだけ指定する必要があります。

- グループメンバーシップのソースとして NIS サーバだけ指定するには、Sun Management Center サーバと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ両方の /etc/nsswitch.conf ファイルの group 行を以下のように編集します。

```
group nis
```

- グループメンバーシップのソースとしてローカルの /etc/group ファイルだけ指定するには、Sun Management Center サーバと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ両方の /etc/nsswitch.conf ファイルの group 行を以下のように編集します。

```
group files
```

ネットワークネームサービス

Sun Fire ハイエンドシステムが複数あり、中央の NIS ネームサーバでグループ定義を管理する場合は、System Management Services の管理グループのデフォルト名を変更することを推奨します。グループメンバーシップが中央のネームサーバで管理されていて、複数の Sun Fire ハイエンドシステムで 1 つの SMS 管理グループに同じ名前が使用されていた場合、そのグループのメンバーは両方のマシンで管理権限を持つこととなります。

たとえば、ドメイン B の管理グループのデフォルト名が dmnbadmn であると仮定します。複数のマシンでこの名前が使用されていた場合、そのグループのメンバーは、すべてのマシンのドメイン B 上で管理権限を持つこととなります。管理権限は、各マシンの管理グループ名を dmnbadmn1、dmnbadmn2 というように一意の値に変更することによって、単一のマシンに制限することができます。

Sun Management Center のグループ

表 3-1 は、デフォルトの Sun Management Center 管理グループをまとめています。

表 3-1 デフォルトの Sun Management Center 管理グループ

グループ名	グループ	説明
esadm	管理者グループ	モジュールの読み込みと読み込み解除、ユーザおよびグループのアクセス制御、管理ドメイン、ホスト、モジュールの操作などのあらゆる管理業務を行うことができます。
esops	オペレータグループ	esadm の権限の一部を持ちます。モジュールの使用の許可・禁止を行うことはできますが、読み込み・読み込み解除は行えません。監視業務は行うことができます。イベントの確認、削除、解決を行うことができます。
esdomadm	ドメイングループ	esadm 権限のうちの Sun Management Center ドメイン専用の権限を持ちます。管理ドメインの作成、管理ドメイン内でのグループの作成、グループまたは管理ドメインへのオブジェクトの追加を行うことができます。
ANYGROUP	一般ユーザグループ	グループ デフォルトでは、esusers ファイル内のユーザの誰もが ANYGROUP グループのメンバーとみなされます。管理ドメインやホスト、モジュール、イベントを表示したり、データのグラフを作成したり、手動更新を開始したりできます。また、アドホックコマンドを実行できます。

▼ Sun Management Center ユーザグループにユーザを追加する

- Sun Management Center サーバホスト上の `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイルに Sun Management Center ユーザ全員のユーザ ID を追加します。

ユーザ ID は正規の UNIX ユーザ ID である必要があります。

以下は、すべての Sun Management Center ユーザに対する `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイル内の一般的なユーザ ID リストの例です。

```
esmaster
espublic
root
user1
user2
user3
user4
user5
....
....
```

注 – Sun Management Center ユーザ ID の `esmaster` は、UNIX のスーパーユーザまたは `root` に相当し、管理権限を提供します。Sun Management Center ユーザ ID の `espublic` は、UNIX システムに `guest` としてログインすることに相当し、一般的なアクセス権限を提供します。これら 2 つのユーザ ID は、Sun Management Center ソフトウェアをサーバにインストールしたときにその `esusers` ファイルに追加され、変更することはできません。これら 2 つのユーザ ID を使って Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームまたはドメイン上で管理操作を行う場合は、適切な SMS グループにそれらの ID を追加する必要があります。

System Management Services のグループ

表 3-2 は、デフォルトの SMS 管理グループを説明しています。

表 3-2 デフォルトの SMS 管理グループ

グループ名	グループ	説明
platadmn	プラットフォーム管理者グループ	ボードやコンポーネントの電源の制御や、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインへのシステムボードの割り当てなどのあらゆるプラットフォーム管理権限を持ちます。プラットフォームサービス権限はありません。ボードが未使用 (割り当て解除状態) の場合にドメインにボードを割り当てたり、ボードが接続されていない場合にドメインからボードを削除 (割り当て解除) したりすることができます。ドメインに対するボードの接続、構成、構成解除、切断は行えません。
platooper	プラットフォームオペレータグループ	platadmn の権限の一部を持ちます。プラットフォームの状態を表示できます。
dmnxadmn ¹	ドメイン管理者グループ	Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのコンソールにアクセスして、そのドメインのドメイン制御、状態、アクセス制御業務を行うことができます。ドメインに対するボードの接続、構成、構成解除、切断を行うことができます。ボードがドメインの ACL に登録されていて、他のドメインに割り当てられていない場合は、そのドメインにボードを割り当てることができます。
dmnxrcfg ²	ドメイン再構成グループ	dmnxadmn の権限の一部を持ちます。Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン内のシステムボードを再構成したり、その電源を制御したりできます。

1. x は、特定の Sun Fire ハイエンドシステムのドメインを示す a から r の範囲の英字 1 字です。例 1 の $dmnbadmn$ は、ドメイン B の管理グループを表します。

2. x は、特定の Sun Fire ハイエンドシステムのドメインを示す a から r の範囲の英字 1 字です。例 2 の $dmnbcfg$ は、ドメイン B の再構成グループを表します。

次のいずれかを使用して、ユーザに割り当てようとする権限をもつ SMS グループにユーザ ID を追加する必要があります。

- Sun Management Center サーバと Sun Fire ハイエンドシステムの両方がアクセス可能な NIS (Network Information Service) などの中央のネームサービス。詳細は、NIS のマニュアルを参照してください。

- Sun Management Center サーバホストと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上の /etc/group ファイル。この方法については、この後の手順で説明します。

注 - ユーザ ID は正規の UNIX ユーザ ID である必要があります。

▼ /etc/group ファイルを使用して SMS グループにユーザを追加する

1. システムコントローラ上の /etc/group ファイルに一度に複数のユーザ ID を追加するには、`smsconfig(1M)` コマンドに `-a` オプションを付けて使用してください。

注 - グループ ID は、システムコントローラへの SMS のインストール中に /etc/group ファイルに自動的に作成されます。

`smsconfig(1M)` コマンドの使用方法の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4 リファレンスマニュアル』を参照してください。

2. Sun Management Center サーバ上では、システムコントローラの /etc/group ファイルに現れるのと完全に同じに /etc/group ファイルにグループ ID とユーザ ID を追加してください。

以下は、/etc/group ファイル内の一般的なグループおよびユーザ ID リストの例です。Sun Management Center のさまざまな機能に対して ID が定義されています。

```
root::0:root
other::1:
bin::2:root,bin,daemon
sys::3:root,bin,sys,adm
adm::4:root,adm,daemon
uucp::5:root,uucp
mail::6:root
tty::7:root,tty,adm
lp::8:root,lp,adm
nuucp::9:root,nuucp
staff::10:
daemon::12:root,daemon
sysadmin::14:
nobody::60001:
noaccess::60002:
nogroup::65534:
esadm::1000:root,guest,user1,user2
esdomadm::1001:root,guest,user3
esops::1002:guest,user4
platadm::118:root,guest,user1,user2
platoper::119:root,guest,user4
dmnaadm::121:user1, user3
dmnarcfg::122:user3
dmnbadm::123:user1, user5
dmnbrcfg::124:user5
....
....
....
dmnradm::155:
dmnrrcfg::156:
```

Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールの使用に必要な権限

表 3-3 は、Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールを使用するために必要な管理グループ権限をまとめています。

表 3-3 Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールと管理グループ

モジュール名	Sun Management Center のグループ	System Management Services のグループ
プラットフォーム構成リーダー	esadm	platadmn、platoper
プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM)	esadm	操作の内容による (「PDSM 操作に必要な SMS グループ権限」を参照)
ドメイン構成リーダー	esadm	dmnxadm
動的再構成 (DR)	esadm	dmnxadm または dmnxrcfg
SC 構成 リーダー	esadm	不要
SC の監視	esadm	不要
SC の状態	esadm	不要

サービス管理グループの設定と変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。Sun Management Center のグループのアクセス権の設定と変更、アクセス権の内容についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

PDSM 操作に必要な SMS グループ権限

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームおよびドメインの状態管理 (PDSM) 操作を行うには、その操作内容に従って、適切な SMS グループのメンバーになっている必要があります。

- プラットフォーム表示 (表 3-4)
- ドメイン表示 (表 3-5)

プラットフォーム表示に対するアクセス権

プラットフォーム表示は、プラットフォーム管理者 (platadm) およびプラットフォームオペレータ (platoper) のみが読み取ることができます。表 3-4 は、プラットフォーム表示で行うことができる管理操作と各操作に必要なアクセス権を示しています。

表 3-4 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム表示で可能な管理操作とアクセス権

プラットフォーム表示で可能な操作	アクセス権
システムコントローラの電源	platadm, platoper
電源装置の電源	platadm, platoper
ファントレイの速度	platadm, platoper
スロット 0 およびスロット 1 のボード電源	platadm, platoper
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する addboard	platadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する deleteboard	platadm
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する moveboard	platadm
状態の表示	platadm, platoper

ドメイン表示に対するアクセス権

18 ある Sun Fire 15K ドメイン (a から r)、および 9 つある Sun Fire 12K ドメインはすべて、それぞれの Sun Fire High-End ドメイン管理者 (dmnxadm) と Sun Fire 15K ドメイン再構成者 (dmnxrcfg) だけが見ることができます。また一部の業務については、プラットフォーム管理者 (platadm) とプラットフォームオペレータ (platoper) も見ることができます。表 3-5 は、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で行うことができる管理操作と各操作に必要なアクセス権を示しています。

表 3-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権

ドメイン表示で可能な操作	アクセス権
ドメインのタグ	platadm
キースイッチ	dmnxadm
ドメイン ACL	platadm

表 3-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権
(続き)

ドメイン表示で可能な操作	アクセス権
リセット	dmnxadmin
スロット 0 およびスロット 1 のボード電源	dmnxadmin、dmnxrcfg、 platadmin、platoper
スロット 0 および 1 のボードテスト	dmnxadmin
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する addboard	dmnxadmin、dmnxrcfg、 platadmin
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する deleteboard	dmnxadmin、dmnxrcfg、 platadmin
スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する moveboard	dmnxadmin、dmnxrcfg、 platadmin
状態の表示	dmnxadmin、dmnxrcfg、 platadmin、platoper

1 つのユーザ ID に対するグループ ID 数の制限



注意 - 1 つのユーザ ID には、16 個までグループ ID を割り当てることができます。17 番目以降のグループ ID はすべて無視され、そのユーザ ID によるアクセスで問題が発生します。言い替えれば、ユーザはあるグループに属しているように見えますが、16 個のグループ制限を超えた場合、その超えたグループのアクセス権限を持つことはできません。ユーザの持つグループ ID 数が 16 個を超えている場合のシステム処理についての詳細は、201 ページの「DR 操作に失敗した場合の対処方法」を参照してください。

第4章

Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクト

この章では、Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明します。Sun Management Center オブジェクトの作成および監視に関する一般的な情報については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの複合オブジェクト

Sun Fire ハイエンド (E25K ~ F12K) システムの複合オブジェクトは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関係するあらゆるホストからなる、Sun Management Center のグループオブジェクトです。この複合オブジェクトには、以下のアイコンが含まれます。

- Sun Fire E25K ~ F12K システムグループ
- メインの Sun Fire E25K ~ F12K システムプラットフォーム
- 予備の Sun Fire E25K ~ F12K システムプラットフォーム (右下に丸で囲った × が付いたアイコン)
- 個々の Sun Fire E25K ~ F12K システムドメイン
- Sun Fire E25K ~ F12K システムのメインのシステムコントローラ
- Sun Fire E25K ~ F12K システムの予備のシステムコントローラ (右下に丸で囲った × が付いたアイコン)

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのあらゆる構成要素を簡単に管理できるように、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトには、これらのすべてのオブジェクトが1つのグループとしてまとめられます。表 4-1 は、一般的な Sun Fire ハイエンド (E25K ~ F12K) システムのアイコンです。

表 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムのアイコン

アイコン	説明
	Sun Fire E25K ~ F12K システムグループのアイコン
	メインの Sun Fire E25K ~ F12K システムのプラットフォームのアイコン
	予備の Sun Fire E25K ~ F12K システムのプラットフォームのアイコン (または必須の SMS デーモンが停止している場合)
	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのアイコン (Sun Management Center が動作していない場合)
	Sun Fire E25K ~ F12K システムのドメインのアイコン

表 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムのアイコン (続き)

アイコン	説明
	Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのアイコン (Sun Management Center が動作していない場合)
	Sun Fire E25K ~ F12K システムのメインのシステムコントローラ
	Sun Fire ハイエンドシステムの予備のシステムコントローラ

注 – Sun Management Center エージェントの監視対象のホストのアイコンには、Sun Fire ハイエンドファミリのサーバであることを表す E25K ~ F12K のタグが付いています。Sun Management Center エージェントによって監視されていないホストのアイコンには、そうしたタグはありません。

Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラおよびドメインホストは、それぞれ専用の Solaris オペレーティング環境を実行する独立したホストです。このため、これらのホストは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトとは別に作成したり、検出したりできます。つまり、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラとドメインは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成しなくても個別に作成できます。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクト内のシステムコントローラおよびドメインホストは、Sun Management Center トポロジ内の複数のグループに含めることができます。このため、それらホストは、ネットワークグループ別ばかりでなく、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとの関係別に見ることができます。検出要求で Sun Fire ハイエンドシステムのホストが検出された場合、そのホストはそのネットワークグループに従ってトポロジ内に配置されます。

Sun Fire E52K または 15K プラットフォームは最高 18 個のドメインホスト、Sun Fire E20K または 12K プラットフォームは最高 9 つのドメインホストで構成することができます。複合オブジェクトに含まれるのは、そのうちの、アクティブで Solaris オペレーティング環境を実行しているドメインだけです。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインおよびプラットフォームを監視するには、「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウで Sun Management Center の Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成するか、Sun Management Center の検出要求を使用します。

▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成する

この手順についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、新しい複合オブジェクトを作成する階層を表示します。
2. メインコンソールウィンドウの「編集」メニューから「オブジェクトの作成」を選択します。
3. 「オブジェクトの作成」ウィンドウから「複合」タブを選択します。
4. 「オブジェクト」リストボックスから Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを選択します。
5. テキストボックスに適切な情報を入力します。
6. 「了解」をクリックします。

以下のメッセージが表示されます。

```
Creating composite object...Please Wait.
```

この処理に要する時間の長さは、動作している Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン数に依存します。

Sun Management Center ドメイントポロジ内の現在の場所に「Sun Fire High-End Systems」フォルダが表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが作成されない場合は、64 ページの「複合オブジェクトの障害追跡をする」を参照してください。

7. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関連するすべてのオブジェクトを表示するには、このフォルダを開きます。

8. 図 4-1 は、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの例です。

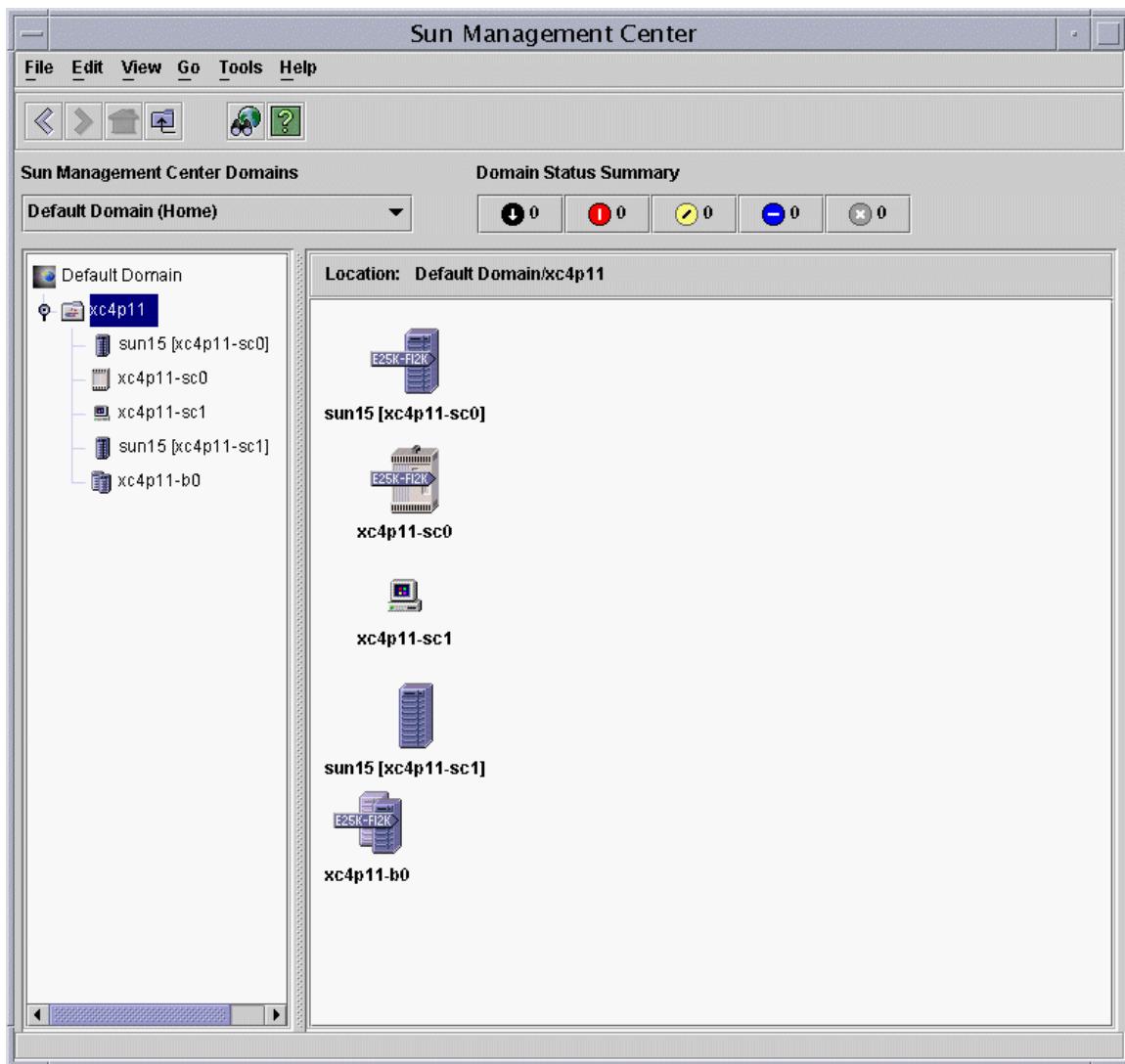


図 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの例

▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを検出する

この手順についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを検出する階層を表示します。
2. 「ツール」メニューから「オブジェクト検出」を選択します。
3. 「オブジェクトの検出」パネルで「追加」をクリックします。
4. 「新しい検出要求」パネルに適切な情報を入力して、「了解」をクリックします。
5. Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが作成されない場合は、64 ページの「複合オブジェクトの障害追跡をする」を参照してください。

注 - 検出要求を行ったときにシステムコントローラがビジーであった場合は、検出要求を再実行するか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてください。

検出要求の次のフィルタオプションを使用して、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの検出要求をカスタマイズできます。

- 「プラットフォームタイプ」フィルタ条件 - Sun Fire ハイエンドシステムのドメインやプラットフォームタイプを検出条件に含めたり、検出条件から除外したりできます。
- 「ホスト名」および「オペレーティング環境」フィルタ条件 - 複合オブジェクト内の Sun Fire ハイエンドシステムのドメインホストとシステムコントローラをホスト名またはオペレーティング環境別に選別できます。これらのフィルタ条件によって、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトが選別されることはありません。
- フィルタ条件によってシステムコントローラが検出対象から除外されても、検出マネージャは Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが Sun Management Center ドメインに含まれているかどうかを検査します。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトの更新

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成した後、Sun Management Center 複合トポロジオブジェクトの内容とタイプが変わることはありません。次の場合は、複合オブジェクトを更新する必要があります。

- Sun Fire ハイエンドシステムのドメインがアクティブになった (Solaris オペレーティング環境が実行された)。
- プラットフォーム構成に予備のシステムコントローラが追加されるか、構成から予備のシステムコントローラが削除された。
- Sun Management Center のオブジェクト監視機能によって、正しいモニタタイプが表示されなくなった。たとえば複合オブジェクトを作成したときに Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン上で Sun Management Center エージェントが動作していなかった場合、その Sun Fire ハイエンドシステムのドメインには ICMP (Internet Control Message Protocol) Ping 監視タイプのホストオブジェクトが作成されます。Sun Management Center エージェントが再び動作を開始した後で、そのドメインが「Sun Management Center エージェント - ホスト」タイプとして監視できるようにするには、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインホストオブジェクトを更新する必要があります。

注 – Sun Management Center エージェントの動作する Sun Fire ハイエンドシステムのドメインホストが、「Sun Management Center エージェント - ホスト」以外のタイプとして監視されている場合は、システムコントローラプラットフォームの設定で正しい Sun Fire ハイエンドシステムのドメインポートを指定したかどうかを確認してください。

▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した複合オブジェクトを更新する

- 以下のいずれかの操作をします。
 - 「オブジェクトの作成」ウィンドウを使用して Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合、複合オブジェクトの更新はすべて手動で行う必要があります。
 - Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを追加または削除した場合は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章の説明に従って、そのオブジェクトを作成または削除してください。
 - 監視タイプを変更した場合は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章の「オブジェクトの変更」の節の説明に従ってトポロジオブジェクトを変更してください。

注 – かなりの数の変更がある場合は、トポロジから現在の Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトをいったん削除して、再作成するほうが簡単なことがあります。その方法については、「Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成する」を参照してください。

▼ 検出で作成された複合オブジェクトを更新する

1. 検出マネージャーによって Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合は、メインのシステムコントローラに対する検出要求を実行することによって更新の多くを行うことができます。この検出要求は、手動で開始することも、予定を作成して定期的に開始することもできます。

検出要求を実行すると、次の変更が行われます。

- 予備のシステムコントローラなどの、Sun Fire ハイエンドシステムの新規のオブジェクトは、プラットフォーム複合オブジェクトに追加されます。
- オブジェクト監視タイプがより高度な監視機能レベルに変更されている場合は、監視タイプが更新されます。監視機能のレベルは、「ICMP Ping」監視タイプ、「SNMP Ping」監視タイプ、「Sun Management Center エージェント-ホスト」監視タイプの順に高くなります。

検出要求の実行に際しては、次のことに注意してください。

- トポロジオブジェクトはプラットフォーム複合オブジェクトから削除されません。
 - Sun Management Center のコンソールウィンドウからトポロジオブジェクトが変更されている場合、そのオブジェクトの監視タイプは更新されません。
2. トポロジから Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを削除して、検出要求を実行することによって、プラットフォーム複合オブジェクトを更新することもできます。

▼ 複合オブジェクトの障害追跡をする

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成できない場合は、次の問題がないか調べてください。

1. 「トポロジオブジェクトの作成」を使用した手順、または検出要求の際に、正しいシステムコントローラのホスト名および Sun Management Center エージェントポート番号を指定したかどうかを確認します。

注 - システムコントローラは、プラットフォームの予備のシステムコントローラではなく、メインのシステムコントローラである必要があります。

2. システムコントローラにログインし、2 つの Sun Management Center エージェントが動作しているかどうかを確認します。

```
SC# ps -ef | grep esd
root 21020 1 2 Mar 10 ?84:03 esd - init agent -dir
/var/opt/SUNWsymon
root 21858 1 3 Mar 10 ?103:07 esd - init platform -dir
/var/opt/SUNWsymon
```

3. 検出要求を再実行してみるか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてみます。
4. 66 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成する」の説明に従ってノードを作成することによって、直接 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成します。
5. プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブの内容を調べて、「ハードウェア」に「構成リーダー (Sun Fire High-End Systems)」モジュールが読み込まれていて、使用不可になっていないことを確認します。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトに含まれているオブジェクトは、このモジュールの提供する検出オブジェクトテーブルに定義されています。
6. システムコントローラ上で次のコマンドを実行して、検出テーブルが正しく作成されていることを確認します。

```
SC# /opt/SUNWsymon/sbin/es-dt -v
```

出力が得られないか、次の例に含まれている情報がない場合、検出テーブルは正しく作成されていません。

Label	Sun-Fire-High-End
Host	<ホスト名>
Port	<ポート番号>
OID	1.3.6.1.4.1.1.42.2.85.1.1.22
Node Object Type	Sun-Fire-High-End-platform-group

このような出力が表示されない場合は、手順 5 から作業を繰り返してください。それでも表示されない場合は、サンにお問い合わせください。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクト

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム情報は、メインのシステムコントローラ上で動作する Sun Management Center プラットフォームエージェントによって提供されます。予備のシステムコントローラが構成されている場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトに 2 つの Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトが存在することになります。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム情報は、メインのシステムコントローラのプラットフォームオブジェクトからのみ得ることができます。プラットフォームオブジェクトを複合オブジェクトの一部として作成した場合、そのプラットフォームオブジェクト名には、対応する SSP 名が角括弧付きで含まれます。予備のシステムコントローラオブジェクトと関係する予備の Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームトポロジオブジェクトには、メインのトポロジオブジェクトと区別するために、右下に丸で囲まれた X が表示されます (表 4-1)。

メインおよび予備のシステムコントローラに Sun Management Center をインストール・設定して、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成した後、予備のシステムコントローラが代理のメインシステムコントローラになったとしても、Sun Management Center の構成を変更する必要はありません。予備から代理のメインシステムコントローラへの切り替えが発生すると、代理のメインシステムコントローラ上のプラットフォームエージェントがアクティブになって、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関する最新の情報を収集します。

必ずしも、新たにアクティブになったプラットフォームエージェントから、この切り替えの前に入手可能であったすべての情報を入手できるわけではありません。ドメインの停止回数 (dstops) と記録の停止回数 (rstops) はゼロにリセットされます。高温などのエラーは、その状態が持続している場合にのみ報告されます。

予備およびメインのシステムコントローラ上の Sun Management Center エージェントの同期が自動的に取られることはありません。メインまたは予備のいずれかのシステムコントローラ上の Sun Management Center エージェントのデフォルトのしきい値、属性、読み込み済みモジュールを変更した場合は、もう一方のシステムコントローラ上で動作するエージェントも変更してください。

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成する

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトは、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの一部として作成されます。直接、プラットフォームオブジェクトを作成することもできます。

1. 『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章の「ノードを作成する」の手順に従って、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成します。
2. 上記手順の手順 3 で「監視ツール」プルダウンメニューから監視タイプとして「エージェント - プラットフォーム」を選択します。
3. 上記手順の手順 4 で必要な情報を入力します。

注 - プラットフォームエージェント用のデフォルトのポート番号は 166 です。Sun Management Center の設定で別のポートを割り当てたのでない限り、このポート番号を変更しないでください。

4. 「了解」をクリックします。

第5章

Sun Fire ハイエンドシステムの詳細 ウィンドウ

この章では、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム、ドメイン、およびシステムコントローラの詳細ウィンドウからハードウェアの概要や物理表示、論理表示を表示する方法を説明します。

注 - このマニュアルの画面例には、詳細ウィンドウのタブが「ブラウザ」や「モジュール」になっているものがあります。正しくは「モジュールブラウザ」と「モジュールマネージャ」です。

表 5-1 は、Sun Fire ハイエンドシステムの詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center エージェントモジュールの一覧です。

表 5-1 詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントモジュール

モジュール名	詳細ウィンドウ
プラットフォーム構成リーダー (PCR)	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム
プラットフォーム / ドメインの状態管理 (PDSM)	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム
SC 監視モジュール (SCM)	Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム
ドメイン構成リーダー (DCR)	Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン
動的再構成 (DR)	Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン
SC 構成 リーダー	Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ
SC の状態	Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ

これらのモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのハードウェアの監視および管理機能を提供するとともに、Sun Fire ハイエンドシステムの複合の構成に関する情報を提供します。これらのモジュールが提供するオブジェクトおよび属性の詳細は、このマニュアルの第 6 章を参照してください。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとドメインの再構成およびその他の管理操作についての詳細は、第 7 章と第 8 章を参照してください。

この章では、詳細ウィンドウに表示される Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとシステムコントローラ、ドメイン情報について詳しく説明します。Sun Management Center の詳細ウィンドウの使用方法に関する全般的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」を参照してください。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーモジュールは、プラットフォームに接続されている入出力装置の構成情報を提供しません。入出力装置の情報を見るには、調べようとする装置の存在する Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開いてください。

「ハードウェア」タブの表示

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム、ドメイン、SC の詳細ウィンドウの「ハードウェア」タブからは、以下の 3 種類の表示にアクセスできます。

- ハードウェアの概要
- 物理表示
- 論理表示

ハードウェアの概要

ハードウェアの概要は、そのエンティティからアクセス可能な資源を表にまとめたものです。

物理表示

物理表示は、Sun Fire ハイエンドシステムの写真画質の画像を提供します。物理表示には、プラットフォームのシャーシ内に見えるコンポーネントだけ表示されます。たとえばセンタープレーンボードや入出力装置は物理表示されません。このような装置の情報を表示するには、論理表示またはブラウザ表示を使用します。

論理表示

論理表示は、そのエンティティ内のボードおよびコンポーネントを階層表示します。シャーシ内で物理的に見ることができるボードとコンポーネントだけを表示する物理表示と異なり、論理表示では、センタープレーンや入出力装置などのあらゆるボードとコンポーネントが表示されます。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、プラットフォーム全体のハードウェア情報が表示されます。このウィンドウには、次のタブボタンが含まれます。これらのボタンについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」を参照してください。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- ハードウェア

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウにこれらのタブが表示されないということは、Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていないことを意味します。Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了していて、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスが再起動していることを確認してください。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームは、システムコントローラ上の Sun Management Center プラットフォームエージェントによって監視されます。プラットフォームエージェントは、このタスク専用です。

ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、プラットフォームのハードウェアに関する次のような最新情報を提供します。

- 電圧と温度
- すべてのボード
- 電源装置
- ファントレー
- 検出されたハードウェアエラー (ドメインの停止回数 (dstop) など)

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源の概要を表示するには、以下の操作をします (図 5-1)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。

sun15 [xc30p13-sc0] Details

sun15 [xc30p13-sc0]

Info Module Browser Alarms Hardware

Views Hardware Summary

Sun Fire High-End Systems Platform Information:

Property	Value
Platform Name	sun15
Main System Controller Hostname	xc30p13-sc0
Spare System Controller Hostname	--
Main System Controller	SC0
Number of Active Domains	0

Sun Fire High-End Systems Platform Hardware Resources:

Property	Value
Number of Expander Boards	7
Number of Slot0 System Boards	6
Number of Slot1 System Boards	6
Number of System Controllers	2
Number of System Controller Peripherals	2
Number of Centerplanes	1
Number of Centerplane Support Boards	2
Number of Fan Trays	8
Number of Bulk Power Supplies	6
Total Memory (MB)	12288
Total Processors	6

Close Help

図 5-1 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要

図 5-1 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの情報には、以下の属性が含まれています (表 5-2)。

表 5-2 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの情報

属性	説明
プラットフォーム名	SMS の設定中にプラットフォームに割り当てられた名前
メインシステムコントローラのホスト名	メインのシステムコントローラのホスト名
予備のシステムコントローラのホスト名	予備のシステムコントローラのホスト名
メインシステムコントローラ	メインのシステムコントローラの識別子 (SC0 か SC1)
アクティブなドメイン数	Sun Fire E25K/15K プラットフォームまたは Sun Fire E20K/12K プラットフォームのアクティブなドメイン数 (E25K/15K で最高 18 個、E20K/12K で最高 9 つ)

図 5-1 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源の表には、以下の属性が含まれています (表 5-3)。

表 5-3 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源

属性	説明
拡張ボード数	拡張ボード数
スロット 0 のシステムボード数	スロット 0 のシステムボード数
スロット 1 のシステムボード数	スロット 1 のシステムボード数
システムコントローラ数	システムコントローラ数
システムコントローラの周辺装置数	システムコントローラの周辺装置数
センタープレーン数	Sun TM Fireplane のインターコネクト (センタープレーンともいう) 数
センタープレーンのサポートボード数	センタープレーンサポートボード数
ファントレイ数	ファントレイ数
バルク電源装置数	バルク電源装置
総メモリ容量 (MB)	電源投入時セルフテスト (POST) で構成された総メモリ容量 (M バイト単位)
総プロセッサ数	POST で構成された総プロセッサ数

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの写真画質の画像を表示するには、以下の操作をします (図 5-2)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. プラットフォームの正面を表示するには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」-「正面」をクリックします。

図 5-2 は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームを正面から見たときの物理表示です。物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示には、存在していることが判明しているプロセッサだけ表示され、存在していることが判明していないプロセッサは表示されません。たとえば、「プロセッサ」テーブルで POST 状態が BLACKLISTED のプロセッサは、実際に存在していることもあれば、存在していないこともあります。プラットフォームの物理表示には表示されません。



図 5-2 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示 - 正面

5. CPU ボードの上面を物理表示するには、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム上のスロットの CPU ボードの 1 つをクリックします (図 5-3)。

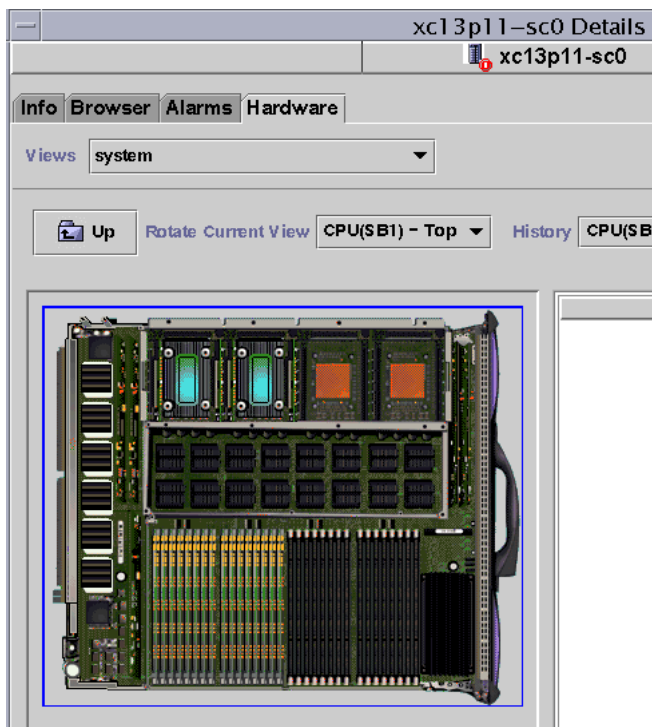


図 5-3 プラットフォームの物理表示における CPU ボードの上面

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示には、システムに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームを階層表示するには、以下の操作をします。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 図 5-4 に示すような論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

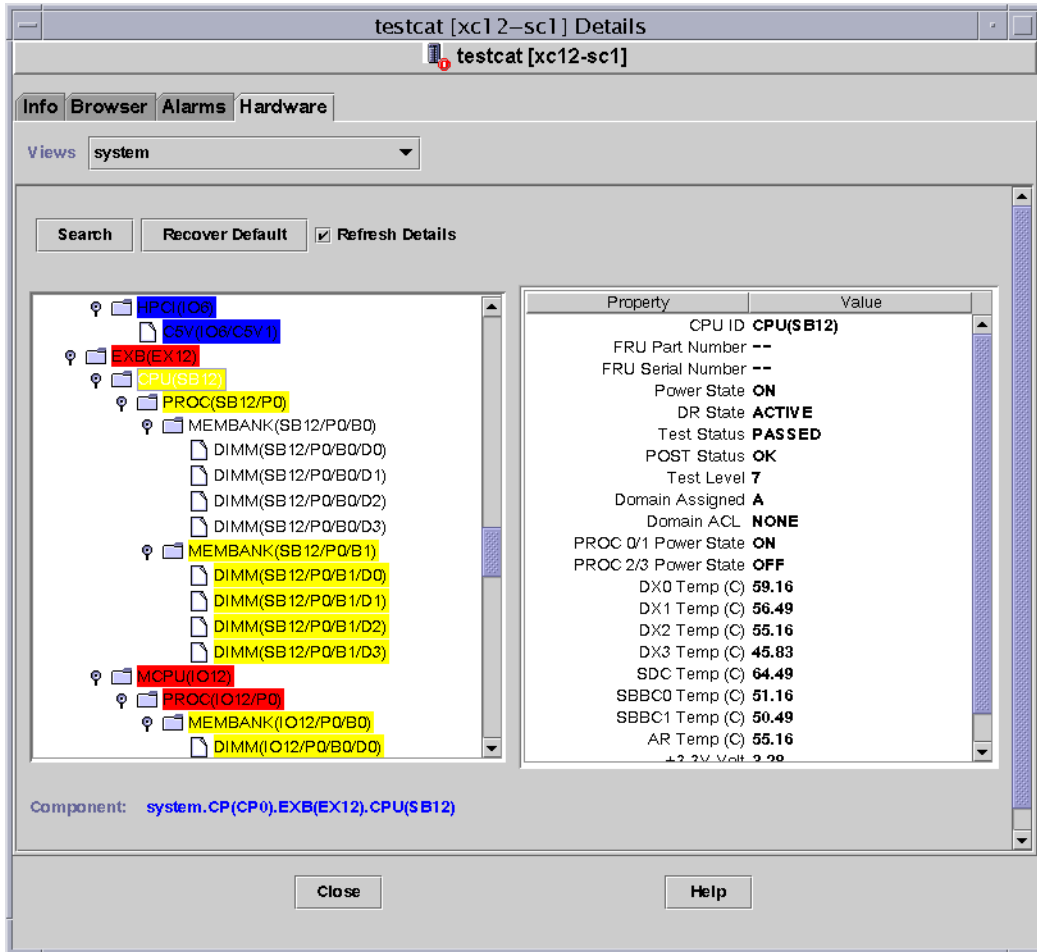


図 5-4 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウ

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインに関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、特定の 1 つのドメインのハードウェア情報が表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウは、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章で説明しているホストの詳細ウィンドウに似ています。

詳細ウィンドウで提供されるのは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインに割り当てられているボードとコンポーネントに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウで見ることができます。詳細は、71 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

ドメインの詳細ウィンドウには、次のタブボタンが含まれます。これらのボタンについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」を参照してください。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- モジュールマネージャ
- アプリケーション
- ハードウェア

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウに上記の 6 つのタブが表示されないということは、Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていないことを意味します。Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了していて、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスが再起動していることを確認してください。

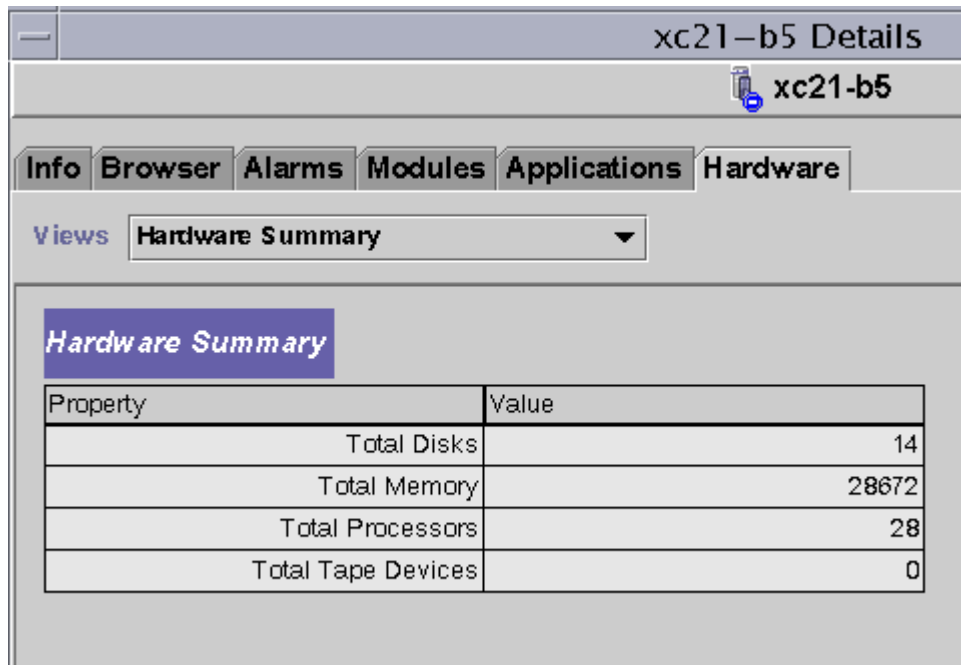
ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびそれらシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリ
- 接続されている入出力装置

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェア資源の概要を表示するには、以下の操作をします (図 5-5)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。



The screenshot shows a window titled "xc21-b5 Details". At the top right, there is a tab labeled "xc21-b5". Below this, there are several tabs: "Info", "Browser", "Alarms", "Modules", "Applications", and "Hardware". The "Hardware" tab is selected. Below the tabs, there is a "Views" dropdown menu set to "Hardware Summary". The main content area displays a table with the following data:

Property	Value
Total Disks	14
Total Memory	28672
Total Processors	28
Total Tape Devices	0

図 5-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要

図 5-5 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの情報は、以下の属性が含まれています (表 5-4)。

表 5-4 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要

属性	説明
総ディスク数	システムに存在するディスク数
総メモリ容量	総メモリ容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数	ドメインに割り当てられている全プロセッサを含むプロセッサ数
総テープデバイス数	システムに存在するテープデバイス数

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示の画像には、電源装置やファントレイ、システムコントローラ、システムコントローラの周辺装置の部分が選択不可能な部分として表示されます。物理表示からアクセスできるのは、ドメインのシステムボードの情報だけです。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのシステムボードの写真画質の画像を表示するには、以下の操作をします (図 5-6)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 実際にプラットフォームの正面に存在していて、ドメインに割り当てられているシステムボードを見るには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」-「正面」をクリックします。

図 5-6 は、実際に Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの正面に存在していて、ドメインに割り当てられているシステムボードの物理表示の例です。物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

注 - 物理表示されるドメインのシャシー画像は、ファントレイと電源装置が選択不可になったプラットフォームの画像と同じです。

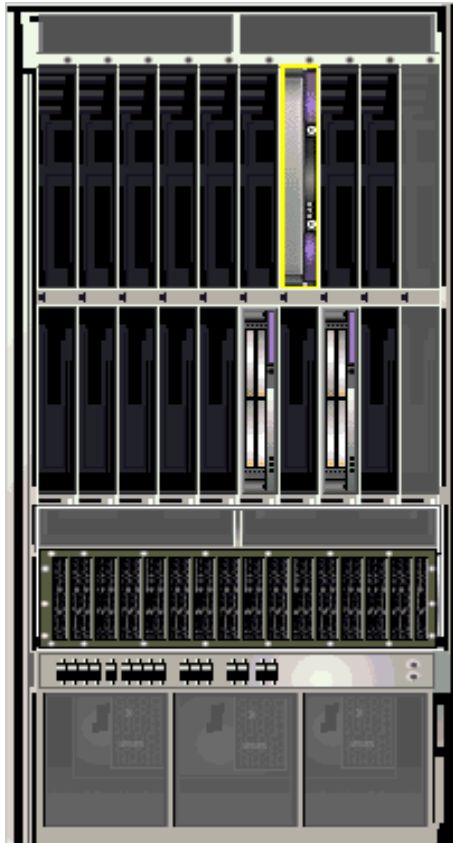


図 5-6 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示 - 正面

5. HPCI ボードの上面を物理表示するには、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの下のスロットの HPCI ボードの 1 つをクリックします (図 5-7)。

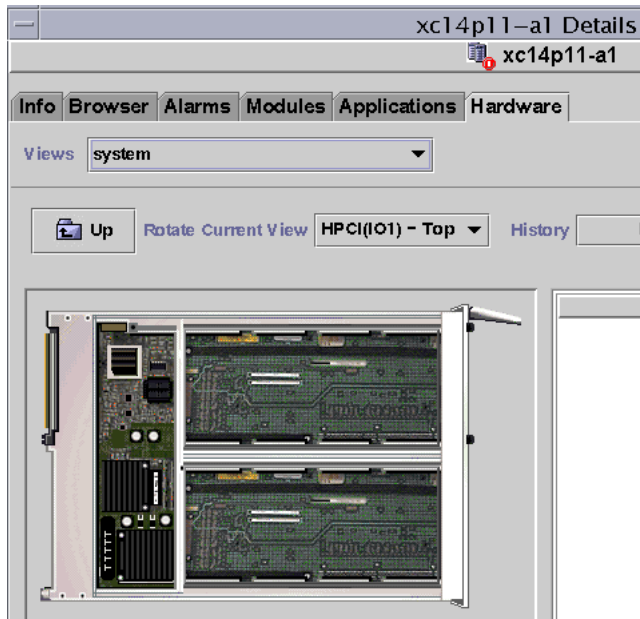


図 5-7 ドメインの物理表示における HPCI ボードの上面

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示には、ドメインに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムのドメインを階層表示するには、以下の操作をします。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 図 5-8 に示すような論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

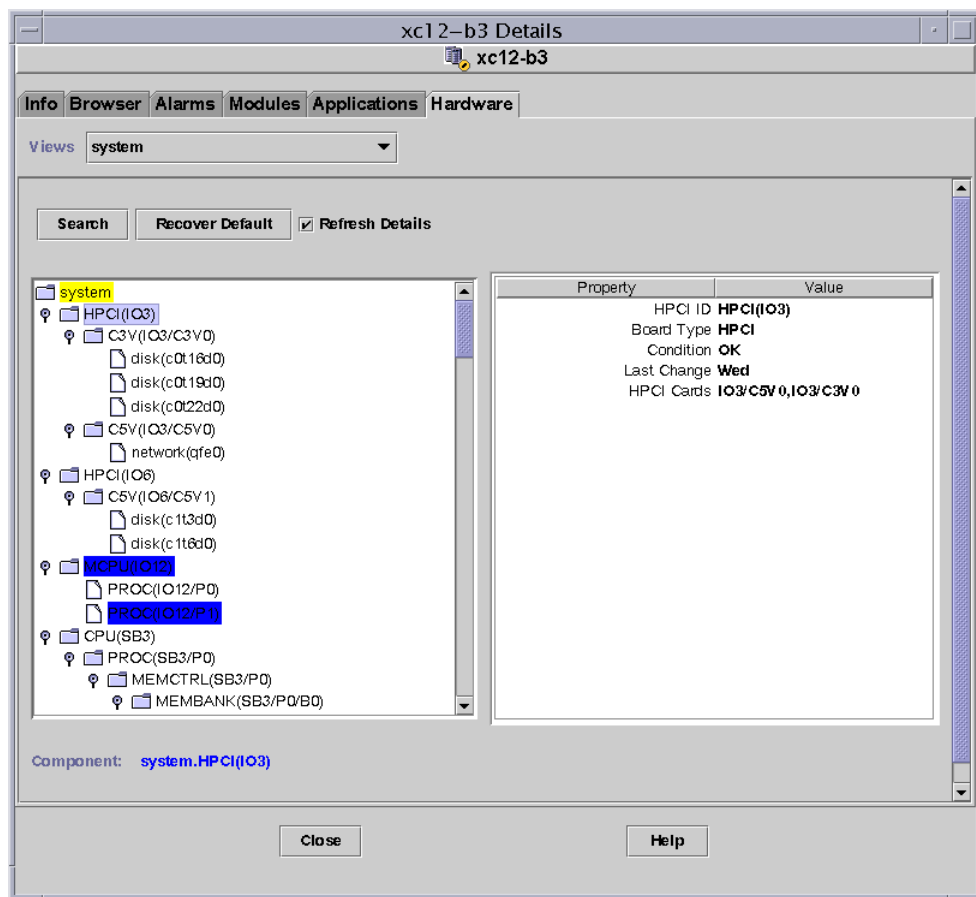


図 5-8 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウ

Sun Fire ハイエンドシステムの SC に関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、システムコントローラのハードウェア情報が表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウは、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』で説明しているホストの詳細ウィンドウに似ています。

詳細ウィンドウで提供されるのは、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラに割り当てられているボードとコンポーネントに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウで見ることができます。詳細は、71 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

このウィンドウには、次のタブボタンが含まれます。これらのボタンについての詳細は『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- モジュールマネージャ
- アプリケーション
- ハードウェア

注 – Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウに上記の 6 つのタブの 1 つでも表示されないということは、Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていないことを意味します。Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了していて、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスが再起動していることを確認してください。

ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびそれらシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリ
- 接続されている入出力装置

▼ システムコントローラのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのハードウェア資源の概要を表示するには、以下の操作をします (図 5-9)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。

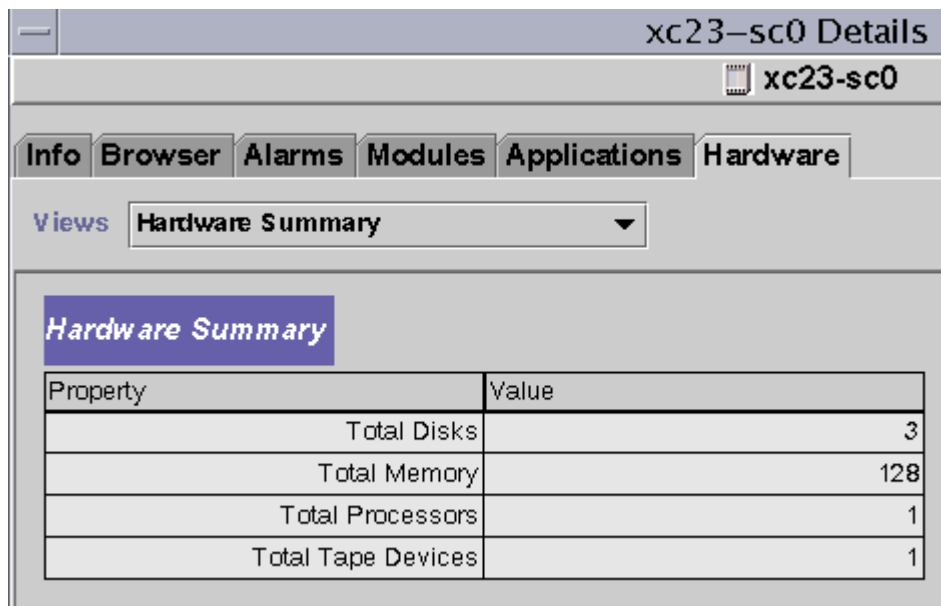


図 5-9 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのハードウェアの概要

図 5-9 に示す Sun Fire ハイエンドシステムの SC の情報には、以下の属性が含まれています (表 5-5)。

表 5-5 Sun Fire ハイエンドシステムの SC のハードウェアの概要

属性	説明
総ディスク数	システムに存在するディスク数
総メモリ容量	総メモリ容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数	システムコントローラに存在するプロセッサ数
総テープデバイス数	システムに存在するテープデバイス数

▼ システムコントローラの物理表示をする

システムコントローラは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの右上にあります。システムコントローラの写真画質の画像を表示するには、以下の操作をします (図 5-10)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。

3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. プラットフォームの正面からシステムコントローラを見るには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」->「正面」をクリックします。

注 - 物理表示されるシステムコントローラのシャーンシ画像は、システムコントローラのスロットが埋まっていることを除けば、プラットフォームの画像と同じです。

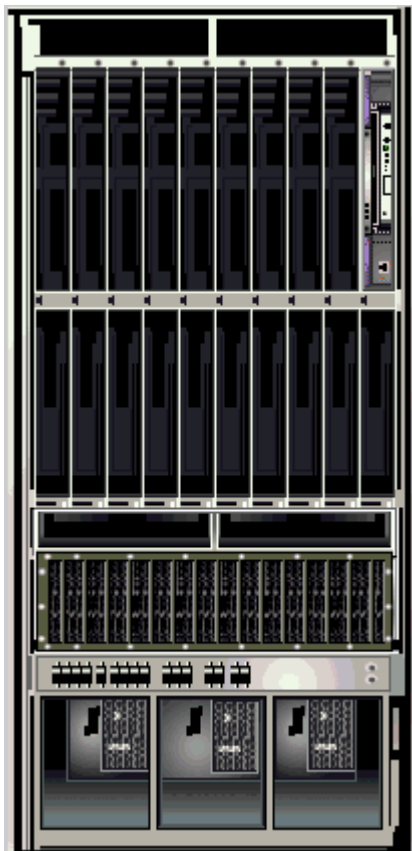


図 5-10 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラの物理表示 - 正面

5. システムコントローラの上面を物理表示するには、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの右上のシステムコントローラをクリックします (図 5-11)。

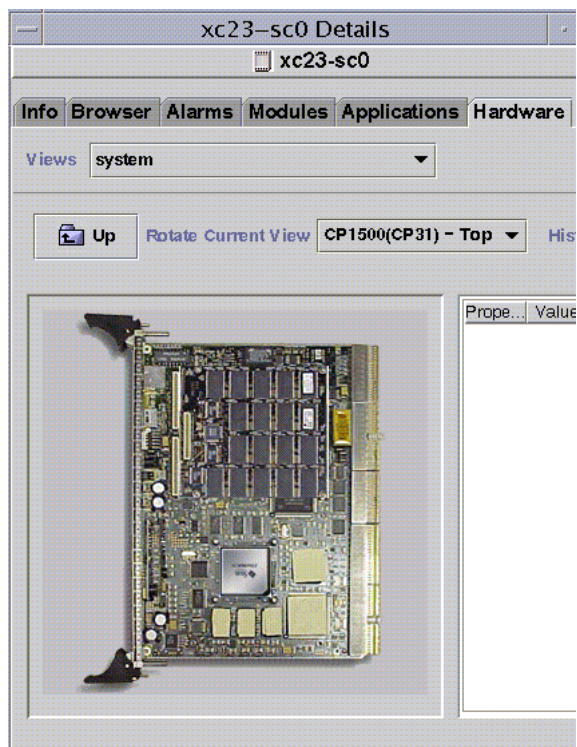


図 5-11 CP1500 システムコントローラ上面の物理表示

図 5-11 は、CP1500 システムコントローラの上面の物理表示です。

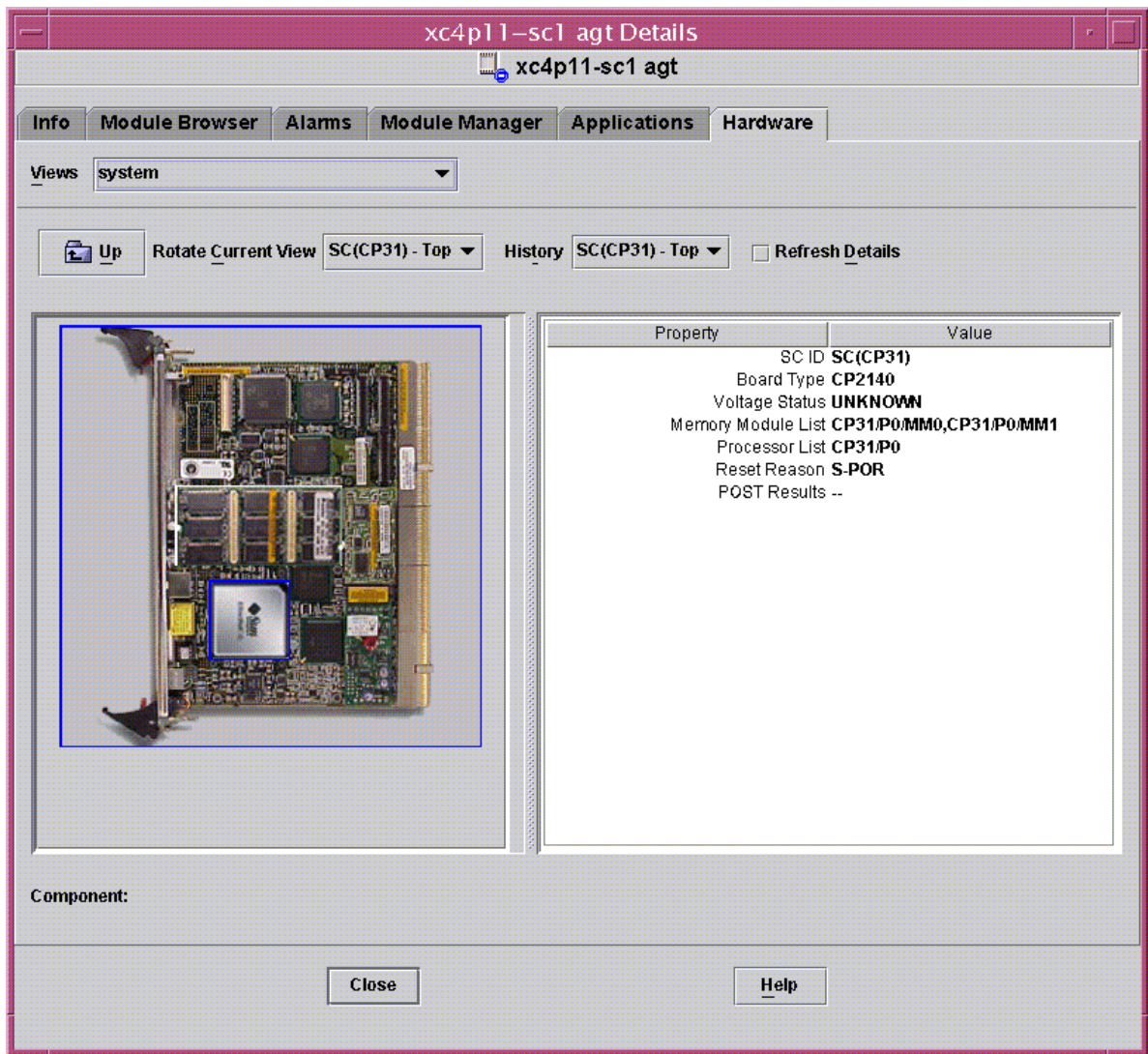


図 5-12 CP2140 システムコントローラ上面の物理表示

図 5-12 は、CP2140 システムコントローラの上面の物理表示です。

物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

▼ システムコントローラの論理表示をする

システムコントローラの論理表示には、システムコントローラに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。システムコントローラは、CP1500 または CP2140 のどちらかです。システムコントローラを階層表示するには、以下の操作をします。

1. Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」をクリックします。
4. 論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

図 5-13 は、CP1500 システムコントローラの論理表示を示しています。

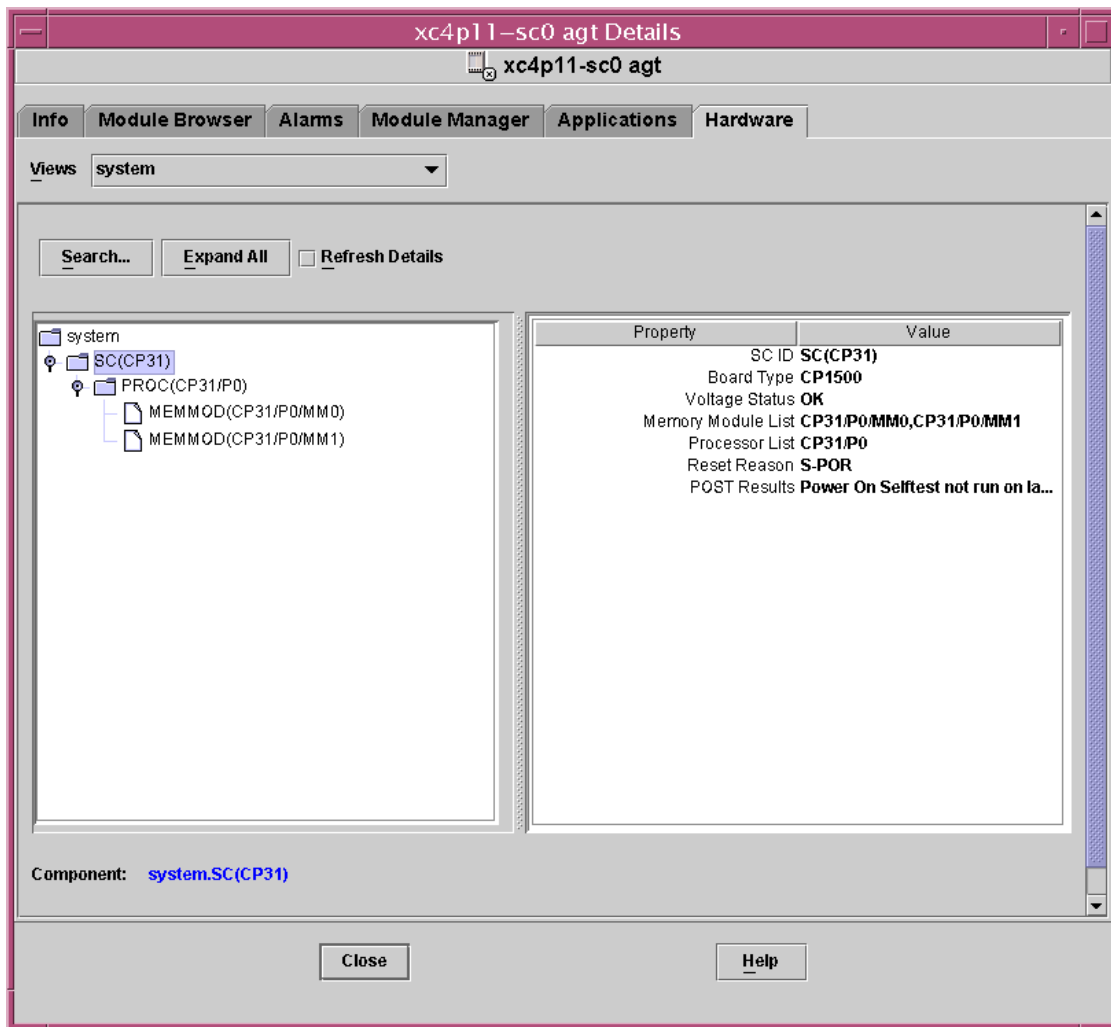


図 5-13 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP1500) の論理表示

図 5-14 は、CP1500 システムコントローラの論理表示を示しています。

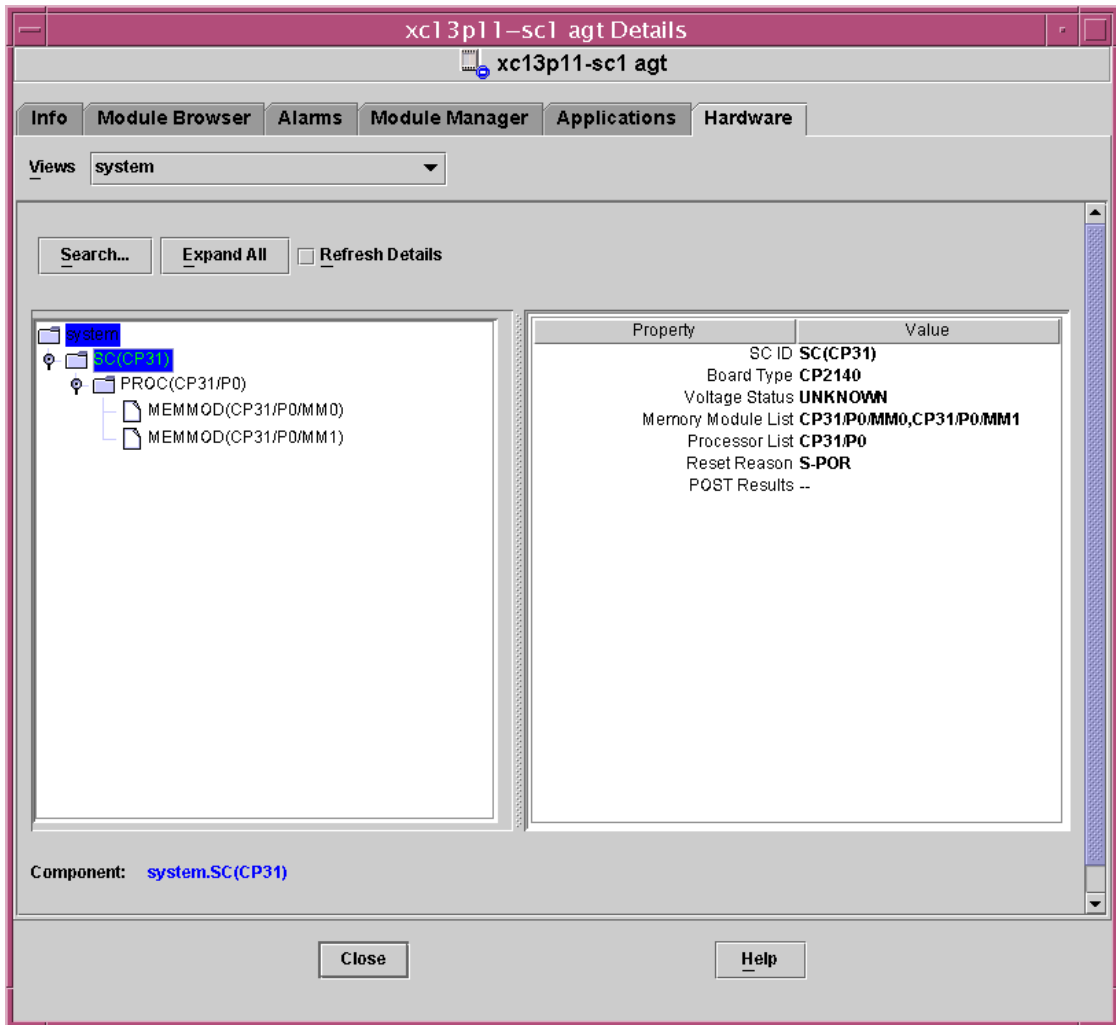


図 5-14 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP2140) の論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

第6章

Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュール

この章では、Sun Fire ハイエンドシステムに固有のエージェントモジュールを開く方法と、各モジュールのテーブル、属性、アラーム規則について説明します。

表 6-1 は、各 Sun Fire ハイエンドシステム専用のモジュールを示して、簡単に説明するとともに、モジュールがデフォルトで読み込まれるかどうか、読み込みまたは読み込み解除が可能であるかどうかを示しています。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

表 6-1 Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュールの概要

モジュール	説明	読み込まれる場所 ¹	デフォルトでの読み込み?	読み込み可能?	読み込み解除可能?
プラットフォーム構成リーダー	Sun Fire ハイエンドシステムプラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します。	SC 上のプラットフォームエージェント	可	不可	不可
ドメイン構成リーダー	Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェア構成情報を提供します。	ドメイン	可	可	可
SC 構成 リーダー	Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (SC) に関するハードウェア構成情報を提供します。	SC 上の主要エージェント	可	可	可
SC の状態	Sun Fire ハイエンドシステム上のシステムコントローラがメインまたは予備のどちらであるかを判定します。	SC 上の主要エージェント	可	可	可

表 6-1 Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュールの概要 (続き)

モジュール	説明	読み込まれる場所 ¹	デフォルトでの読み込み?	読み込み可能?	読み込み解除可能?
SC の監視	アクティブな Sun Fire ハイエンドシステムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。	SC 上のプラットフォームエージェント	可	可	可
プラットフォーム/ドメインの状態管理	プラットフォームおよびドメインの管理と、システムコントローラからのプラットフォーム全体のシステムボードの大域的な DR 構成を可能にします。	SC 上のプラットフォームエージェント	不可	可	可
動的再構成 (DR)	1 つの Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのボードを一度に DR 構成することを可能にします。	ドメイン	不可	可	可

1. SC 上のどのエージェントにどのモジュールが読み込まれるのかに特に注意してください。SC 上の適切なエージェントに適切なモジュールが読み込まれないと、コアダンプが発生します。

ハードウェア、オペレーティング環境、ローカルアプリケーション、遠隔システムなどのシステムの構成要素を監視する、Sun Management Center の主要モジュールについては、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の付録 C を参照してください。

プラットフォーム用モジュールの使用不可

以下のいずれかの条件が存在する場合、プラットフォーム用モジュール (プラットフォーム構成リーダー、プラットフォーム/ドメインの状態管理、SC 監視) は自動的に使用不可になります。

- アクティブなシステムコントローラが予備のコントローラである。

- プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモンのいずれかが動作していない (表 6-2)。

表 6-2 プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモン

プラットフォーム用モジュール	必須の SMS デーモン
プラットフォーム構成リーダー	Capacity-on-Demand デーモン (codd) イベントフロントエンドデーモン (efe) Error and Fault Handling デーモン (efhd) イベントログアクセスデーモン (elad) イベントレポートデーモン (erd) 環境状態監視デーモン (esmd) フェイルオーバー管理デーモン (fomd) ハードウェアアクセスデーモン (hwad) プラットフォーム構成デーモン (pcd)
プラットフォーム/ドメインの状態管理	Capacity-on-Demand デーモン (codd) イベントフロントエンドデーモン (efe) Error and Fault Handling デーモン (efhd) イベントログアクセスデーモン (elad) イベントレポートデーモン (erd) 環境状態監視デーモン (esmd) フェイルオーバー管理デーモン (fomd) ハードウェアアクセスデーモン (hwad) プラットフォーム構成デーモン (pcd)
SC の監視	イベントフロントエンドデーモン (efe)

プラットフォーム用モジュールが自動的に使用不可にされると、アラームが生成され、プラットフォームのアイコンの右下に丸で囲った × が付きます。

Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールの属性

この章では、各モジュールのすべての属性を表にまとめて、簡単な説明を付けています。グラフ表示可能な属性については、属性の説明中にそのことを記しています。グラフ表示属性についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 9 章を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールのアラーム規則

以下では、Sun Fire ハイエンドシステム用のアドオンソフトウェアに含まれているモジュールごとにそのアラーム規則をまとめています。アラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。属性が Sun Management Center の規則の監視対象になっている場合は、表にその規則名も示しています。

各モジュールのアラーム規則については、以下の節を参照してください。

- 128 ページの「プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則」
- 155 ページの「ドメイン構成リーダーのアラーム規則」
- 167 ページの「SC 構成リーダーのアラーム規則」
- 182 ページの「SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)」

アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

プラットフォーム構成リーダーモジュール

プラットフォーム構成リーダーモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム全体のハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム用のアドオンソフトウェアの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-1 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire High-End Systems) - を表しています。

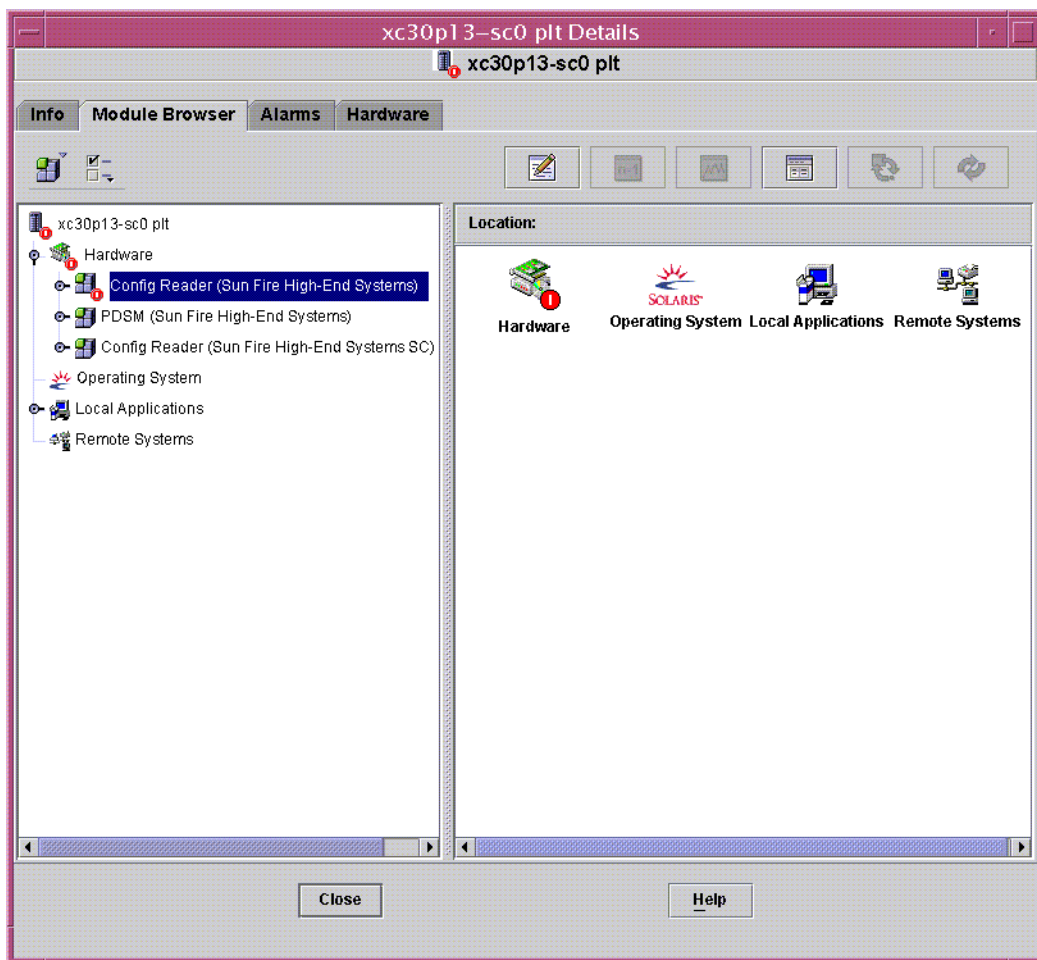


図 6-1 プラットフォーム構成リーダーモジュール

プラットフォーム構成リーダーモジュールの再表示機能

プラットフォーム構成リーダーモジュールは、内部キャッシュにプラットフォーム情報を格納します。この情報の収集、再表示方法は以下のいずれかです。

- 定期的な間隔 (現在は 60 分に設定) で SC 上の SMS デーモンと対話し、キャッシュの全内容を入れ替えます。再表示間隔を変更することはできません。
- 温度や電圧などのプラットフォーム属性に変化があると、SMS デーモンが必ずそのことを Sun Management Center ソフトウェアに通知し、プラットフォーム構成リーダーがブラウザ表示内の関係するハードウェアテーブルを更新します。

プラットフォームの詳細ウィンドウからブラウザを使用すると任意のモジュール属性を再表示できますが、この場合にプラットフォームエージェントから読み出されるのは、その属性の現在の値だけです。強制的にデータが再計算されることはありません。

プラットフォーム構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。プラットフォーム構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- または -1 のいずれかになります。

注 - 温度の単位はすべて摂氏 (°C) です。

システム

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのシステム属性をまとめています (表 6-3)。

表 6-3 プラットフォーム構成リーダー - システム

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		システム
プラットフォームタイプ		プラットフォームタイプの識別子
プラットフォーム名		SMS ソフトウェアの設定中にこの Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに割り当てられた名前
シャーシのホスト ID		シャーシのホスト識別子
フェイルオーバー状態	scFoStat	現在のフェイルオーバー状態: ACTIVATING、ACTIVE、DISABLED、 FAILED のいずれか
管理者グループ		管理者グループの識別子 (platadmn など)
オペレータグループ		オペレータグループの識別子 (platoper など)
サービスグループ		サービスグループの識別子 (platsvc など)

表 6-3 プラットフォーム構成リーダー - システム (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
メインシステムコントローラのホスト名		メインのシステムコントローラのホスト名
予備のシステムコントローラのホスト名		予備のシステムコントローラのホスト名
メインシステムコントローラ		現在メインのシステムコントローラの識別子 (SC0 か SC1)
システムコントローラの内部 IP アドレス		現在メインのシステムコントローラの内部 IP アドレス
クロック周波数 (MHz)		クロック周波数 (メガヘルツ単位)
クロックタイプ		使用されているクロックのタイプ
アクティブなドメイン数		Sun Fire E25K/15K プラットフォームまたは Sun Fire E20K/12K プラットフォームのアクティブなドメイン数 (E25K/15K で 1 ~ 18、E20K/12K で 1 ~ 9)
拡張ボード数		Sun Fire E25K/15K プラットフォームまたは Sun Fire E20K/12K プラットフォームの拡張ボード数 (E25K/15K で 1 ~ 18、E20K/12K で 1 ~ 9)
スロット 0 のシステムボード数		スロット 0 のシステムボード数 (1 ~ 18)
スロット 1 のシステムボード数		スロット 1 のシステムボード数 (1 ~ 18)
システムコントローラ数		システムコントローラ数 (1 ないし 2)
システムコントローラの周辺装置数		システムコントローラの周辺装置数 (1 ないし 2)
センタープレーン数		センタープレーン数 (1)
センタープレーンのサポートボード数		センタープレーンサポートボード数 (1 ないし 2)
ファントレイ数		ファントレイ数 (1 ~ 8)
バルク電源装置数		バルク電源装置数 (1 ~ 6)
総メモリ容量 (MB)		電源投入時セルフテスト (POST) で構成された総メモリ容量 (M バイト単位)
総プロセッサ数		POST で構成された総プロセッサ数
前回の完全再表示		内部キャッシュのデータが前回完全に更新された日時

センタープレーン

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの Sun Fireplane インターコネクト (センタープレーンともいう) の属性をまとめています (表 6-4)。

表 6-4 プラットフォーム構成リーダー - センタープレーン

属性	規則 (ある場合)	説明
CP ID		FRU ID(スロット ID) 形式のセンタープレーンの識別子 : CP (CP0)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
存在する CSB		存在するセンタープレーンサポートボード番号の、コンマ区切りのリスト
存在する EXB		存在する拡張ボード番号の、コンマ区切りのリスト
存在する SC		存在するシステムコントローラ番号の、コンマ区切りのリスト
存在する SCPER		存在するシステムコントローラ周辺装置番号の、コンマ区切りのリスト
DARB の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) センタープレーンのボード 0 上の DARB ASIC の温度
RMX の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の RMX ASIC の温度
AMX0 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の AMX0 ASIC の温度
AMX1 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の AMX1 ASIC の温度
DMX0 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX0 ASIC の温度

表 6-4 プラットフォーム構成リーダー - センタープレーン (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
DMX1 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX1 ASIC の温度
DMX3 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX3 ASIC の温度
DMX5 の温度 0	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX5 ASIC の温度
DARB の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DARB ASIC の温度
RMX の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の RMX ASIC の温度
AMX0 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の AMX0 ASIC の温度
AMX1 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の AMX1 ASIC の温度
DMX0 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX0 ASIC の温度
DMX1 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX1 ASIC の温度
DMX3 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX3 ASIC の温度
DMX5 の温度 1	scBTemp	(グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX5 ASIC の温度

拡張ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの拡張ボードの属性をまとめています (表 6-5)。

表 6-5 プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
EXB ID		FRU ID(スロット ID) 形式の拡張ボードの識別子 : EXB (EXx) の形式で、x は拡張ボード番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル

表 6-5 プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	拡張ボードの電源状態: ON か OFF
Slot 0 (スロット 1)		スロット 0 を占有しているシステムボードの識別子: CPU (SBx) か V3CPU (SBx) の形式、または NOT_PRESENT で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。
Slot 1 (スロット 1)		スロット 1 を占有しているシステムボードの識別子: HPCI (IOx), MCPU (IOx) の形式か NOT_PRESENT で、x は 0 ~ 17
PS0 の状態	scOBURul	電源装置 0 の状態: OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
PS1 の状態	scOBURul	電源装置 1 の状態: OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
上面温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 上面の周囲温度
底面温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 底面の周囲温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度
SDI5 Temp (°C) (SDI5 の温度 (°C))	scBTemp	(グラフ表示可能) SDI5 ASIC の温度
SDI0 Temp (°C) (SDI0 の温度 (°C))	scBTemp	(グラフ表示可能) SDI0 (マスター) ASIC の温度
SDI3 Temp (°C) (SDI3 の温度 (°C))	scBTemp	(グラフ表示可能) SDI3 ASIC の温度
AXQ Temp (AXQ の温度 (°C))	scBTemp	(グラフ表示可能) AXQ ASIC の温度
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル

表 6-5 プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
+3.3V の電圧	scBVo1t	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVo1t	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
+2.5V の電圧	scBVo1t	(グラフ表示可能) ボードの DC +2.5V 電源の電圧レベル

センタープレーンサポートボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのセンタープレーンサポートボードの属性をまとめています (表 6-6)。

表 6-6 プラットフォーム構成リーダー - センタープレーンサポートボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CSB ID		FRU ID(スロット ID) の形式のセンタープレーンサポートボード識別子: CSB (CS0) か CSB (CS1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	拡張ボードの電源の状態: ON か OFF
PS0 の状態	scOBUr1	電源装置 0 の状態: OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
PS1 の状態	scOBUr1	電源装置 1 の状態: OK、BAD、UNKNOWN のいずれか
上面温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 上面の周囲温度
底面温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 底面の周囲温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度

表 6-6 プラットフォーム構成リーダー - センターブレイクサポートボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V 電源の電圧レベル
+2.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +2.5V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル

システムコントローラ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラの属性をまとめています (表 6-7)。

表 6-7 プラットフォーム構成リーダー - システムコントローラ

属性	規則 (ある場合)	説明
SC ID		FRU ID(スロット ID) の形式のシステムコントローラ識別子: SC(SC0) か SC(SC1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	SC の電源状態: ON か OFF
RIO の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) RIO ボードの温度
IOA0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 入出力アダプタ (IOA0) ボードの温度
PS0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度
PS1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度

表 6-7 プラットフォーム構成リーダー - システムコントローラ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度予備 SC の場合、この属性値は 0.0 になる。
CBH の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) CBH ASIC の温度。予備 SC の場合、この属性値は 0.0 になる。
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +12V 電源装置の電圧レベル
-12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC -12V 電源装置の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源装置の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源装置の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源装置の電圧レベル
+5V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 0
+5V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 1
+3.3V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 0
+3.3V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 1

システムコントローラの周辺装置

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ周辺装置の属性をまとめています (表 6-8)。

表 6-8 プラットフォーム構成リーダー - コントローラ周辺装置

属性	規則 (ある場合)	説明
SCPER ID		FRU ID(スロット ID) の形式のシステムコントローラ周辺装置識別子: SCPER (SCPER0) か SCPER (SCPER1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名

表 6-8 プラットフォーム構成リーダー - コントローラ周辺装置 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	電源の状態 : ON か OFF
周囲温度 0 (°C)		(グラフ表示可能) プローブポイント 0 の周囲温度
周囲温度 1 (°C)		(グラフ表示可能) プローブポイント 1 の周囲温度
周囲温度 2 (°C)		(グラフ表示可能) プローブポイント 2 の周囲温度
平均周囲温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 3 つのプロブポイントの周囲温度の平均値
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +12V 電源の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +5V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル

ファントレー

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのファントレーの属性をまとめています (表 6-9)。

表 6-9 プラットフォーム構成リーダー - ファントレー

属性	規則 (ある場合)	説明
ファントレー ID		FRU ID(スロット ID) の形式のファントレー識別子 : FT (FT0) ~ FT (FT7)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地

表 6-9 プラットフォーム構成リーダー - ファントレイ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scOnOff	ファンの電源状態 : ON か OFF
速度		ファントレイの速度 : NORMAL、HIGH、FAILED のいずれか
ファン 0 の状態	scOkFail	ファン 0 の状態 : OK か FAIL
ファン 1 の状態	scOkFail	ファン 1 の状態 : OK か FAIL
ファン 2 の状態	scOkFail	ファン 2 の状態 : OK か FAIL
ファン 3 の状態	scOkFail	ファン 3 の状態 : OK か FAIL
ファン 4 の状態	scOkFail	ファン 4 の状態 : OK か FAIL
ファン 5 の状態	scOkFail	ファン 5 の状態 : OK か FAIL
ファン 6 の状態	scOkFail	ファン 6 の状態 : OK か FAIL

電源装置

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの電源装置の属性をまとめています (表 6-10)。

表 6-10 プラットフォーム構成リーダー - 電源装置

属性	規則 (ある場合)	説明
PS ID		FRU ID(スロット ID) の形式の電源装置識別子 : PS (PS0) ~ PS (PS5)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
状態	scOkFail	電源装置全体の状態 : OK か FAIL

表 6-10 プラットフォーム構成リーダー - 電源装置 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ファン 0 の状態	scOkFail	ファン 0 の状態 : OK か FAIL
ファン 1 の状態	scOkFail	ファン 1 の状態 : OK か FAIL
AC0 の状態	scOkFail	電源装置からの交流入力 (AC0) の状態 : OK か FAIL
AC1 の状態	scOkFail	電源装置からの交流入力 (AC1) の状態 : OK か FAIL
遮断器 0 の状態	scBreakr	遮断器 0 の状態 : OPEN か CLOSE
遮断器 1 の状態	scBreakr	遮断器 1 の状態 : OPEN か CLOSE
DC0 電源の状態	scOnOff	施設の電源からの直流 DC 0 の状態 : ON か OFF
DC1 電源の状態	scOnOff	施設の電源からの直流 DC 1 の状態 : ON か OFF
電流 0		(グラフ表示可能) 電流 0 のレベル
電流 1		(グラフ表示可能) 電流 1 のレベル
+48V の電圧		(グラフ表示可能) DC +48V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧		(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル

CPU ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの CPU ボードの属性をまとめています (表 6-11)。

表 6-11 プラットフォーム構成リーダー - CPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の CPU ボードの識別子 : CPU (SBx) か V3CPU (SBx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、v3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明

表 6-11 プラットフォーム構成リーダー - CPU ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	CPU ボードの電源状態 : ON か OFF
DR 状態	scDrStat	CPU ボードの再構成状態 : UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	CPU のテスト状態 : UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST 状態	scPOST	CPU ボードの POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン : A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト) : A ~ R か NONE
COD 有効		ボードが COD ボードであるか否か : COD、NONCOD、UNKNOWN のいずれか。最後は、SMS が初期化中で判定不能であることを示す。
DX0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
DX2 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX2 ASIC の温度
DX3 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX3 ASIC の温度
SDC の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBBC0 ASIC の温度
SBBC1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBBC1 ASIC の温度
AR の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル

HPCI ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのホットスワップ対応 PCI (HPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-12)。

表 6-12 プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
HPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	HPCI ボードの電源状態 : ON か OFF
DR 状態	scDrStat	HPCI ボードの再構成状態 : UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	HPCI のテスト状態 : UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST 状態	scPOST	HPCI ボードの POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン : A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト) : A ~ R か NONE
PS0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度
PS1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度

表 6-12 プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
IOA0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA0 ASIC の温度
IOA1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA1 ASIC の温度
DX0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
SDC の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +12V 電源の電圧レベル
-12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC -12V 電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル
+1.5V コンバータ 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +1.5V コンバータ 0 の電圧レベル
+1.5V コンバータ 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +1.5V コンバータ 1 の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電圧レベル
+5V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 0
+5V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 1
+3.3V の電流 0	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 0
+3.3V の電流 1	scBCurrt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 1

HPCI+ ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのホットスワップ対応 PCI プラス (HPCI+) ボードの属性をまとめています (表 6-13)。

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
HPCI+ ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI+ ボードの識別子: HPCI+ (IOx) の形式で、x はボードがあるセンターブレインスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	HPCI+ ボードの電源状態: ON か OFF
DR 状態	scDrStat	HPCI+ ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	HPCI+ ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST 状態	scPOST	HPCI+ ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト): A ~ R か NONE
PS0 の温度 0 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 0
PS0 の温度 1 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 1

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
PS0 の温度 2 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 2
PS1 の温度 0 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 0
PS1 の温度 1 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 1
PS1 の温度 2 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 2
IOA0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA0 ASIC の温度
IOA1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA1 ASIC の温度
DX0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
SDC の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
PS0 の +12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +12V の電圧レベル
PS1 の +12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +12V の電圧レベル
PS0 の -12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC -12V の電圧レベル
PS1 の -12V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC -12V の電圧レベル
PS0 の +3.3V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V の電圧レベル
PS1 の +3.3V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V の電圧レベル
PS0 の +3.3HK 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +3.3V ハウスキーピングの電圧レベル
PS1 の +3.3HK 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V ハウスキーピングの電圧レベル
PS0 の +1.5V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +1.5V の電圧レベル

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
PS1 の +1.5V 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +1.5V の電圧レベル
PS0 の +5.0 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +5V の電圧レベル
PS1 の +5.0 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +5V の電圧レベル
PS0 の +1.5/+2.5 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +1.5V または +2.5V の電圧レベル
PS1 の +1.5/+2.5 電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +1.5V または +2.5V の電圧レベル
PS0 の +12 電圧正常	scOkFail	+12V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +12 電圧正常	scOkFail	+12V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の -12 電圧正常	scOkFail	-12V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の -12 電圧正常	scOkFail	-12V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +5 電圧正常	scOkFail	+5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +5 電圧正常	scOkFail	+5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +3.3 電圧正常	scOkFail	+3.3V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +3.3 電圧正常	scOkFail	+3.3V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +1.5/2.5 電圧正常	scOkFail	+1.5/2.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +1.5/2.5 電圧正常	scOkFail	+1.5/2.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +1.5 電圧正常	scOkFail	+1.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +1.5 電圧正常	scOkFail	+1.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 の +3.3HK 電圧正常	scOkFail	+3.3V HK への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
PS1 の +3.3HK 電圧正常	scOkFail	+3.3V HK への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
PS0 正常	scOkFail	電源装置 0 の状態: OK か FAIL
PS1 正常	scOkFail	電源装置 1 の状態: OK か FAIL

WPCI ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの Sun Fire Link PCI (WPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-14)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-14 プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
WPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の WPCI ボードの識別子: WPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	WPCI ボードの電源状態: ON か OFF
DR 状態	scDrStat	WPCI ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	WPCI ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST 状態	scPOST	WPCI ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		(グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト): A ~ R か NONE
+1.5 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL

表 6-14 プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
+1.5 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+1.5 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+1.5 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+2.5 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 2 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+3.3 コンバータ 2 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 0 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 1 OK	scOkFail	コンバータの状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 0 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
+5.0 コンバータ 1 の PS 状態	scOkFail	コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL
IOA の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の IOA ASIC の温度
DX0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度
DX1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
SDC の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度

表 6-14 プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
WCI0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の WCI0 ASIC の温度
WCI1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の WCI1 ASIC の温度
+12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +12V 電源の電圧レベル
-12V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC -12V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル
+2.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +2.5V 電源の電圧レベル
+5.0V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +5V 電源の電圧レベル

MaxCPU ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの MaxCPU ボードの属性をまとめています (表 6-15)。

表 6-15 プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
MCPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの識別子 :MCPU (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明

表 6-15 プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scBPower	MaxCPU ボードの電源の状態: ON か OFF
DR 状態	scDrStat	MaxCPU ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか
テストの状態	scBTest	MaxCPU ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
POST 状態	scPOST	CPU ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
テストレベル		このボードに対する POST テストレベル
割当先ドメイン		このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED
ドメイン ACL		ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト): A ~ R か NONE
COD 有効		ボードが COD ボードであるか否か: COD、NONCOD、UNKNOWN のいずれか。最後は、SMS が初期化中で判定不能であることを示す。
コア 0 の電源 0 の状態	scOkFail	PROC 0 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
コア 0 の電源 1 の状態	scOkFail	PROC 1 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
コア 0 の電源 2 の状態	scOkFail	PROC 2 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
コア 1 の電源 0 の状態	scOkFail	PROC 0 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
コア 1 の電源 1 の状態	scOkFail	PROC 1 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
コア 1 の電源 2 の状態	scOkFail	PROC 2 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
+3.3V の電源 0 の状態	scOkFail	+3.3V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
+3.3V の電源 1 の状態	scOkFail	+3.3V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
+1.5V の電源 0 の状態	scOkFail	+1.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL
+1.5V の電源 1 の状態	scOkFail	+1.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL
DX0 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度

表 6-15 プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
DX1 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度
DX2 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX2 ASIC の温度
DX3 の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の DX3 ASIC の温度
SDC の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度
SBBC 温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度
AR の温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル
+3.3HK の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル

HPCI カセット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセットの属性をまとめています (表 6-16)。1 つのカセットに 2 枚の HPCI カードが収納されています。

注 – HPCI カセットの情報は、対応する HPCI ボードに電源が供給されている場合にのみ収集できます。HPCI ボードに電源が供給されていない場合、そのボード上の HPCI カセットの情報は収集できません。

表 6-16 プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット

属性	規則 (ある場合)	説明
カセット ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI カセットの識別子: FUI ID は 3.3V カードの場合は c3v、5V カードの場合は c5v。スロット ID は I0x/CyVz の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 または 5)、z はカードがある PCI コントローラ (0 か 1)。
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
スロットの電源状態	scOnOff	スロットの電源状態: ON か OFF
カードの有無		カセットにカードが装着されている場合 YES、装着されていない場合 NO
スロット周波数 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位で表したスロットの周波数: 33、66、132 のいずれか
スロットの状態	scHPCId	スロットの状態: GOOD、UNKNOWN、BAD SLOT、BAD CARD のいずれか
スロットの電源状態	scOkFail	スロットへの電源投入の成功/失敗: OK か FAIL
スロットの電源障害	scOkFail	スロットの電源障害の検出状態: OK か FAIL

Paroli カード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの並列光リンク (Paroli) カードの属性をまとめています (表 6-17)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの情報は、対応する WPCI ボードに電源が供給されている場合にのみ収集できます。WPCI ボードに電源が供給されていない場合、そのボード上の Paroli カードの情報は収集できません。

表 6-17 プラットフォーム構成リーダー - Paroli カード

属性	規則 (ある場合)	説明
Paroli ID		FRU ID(スロット ID) 形式の Paroli カードの識別子: PARS (IOx/PARy) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y は Paroli カード番号 (0 か 1)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
電源の状態	scOnOff	Paroli カードの電源状態: ON か OFF
+1.5V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル
+3.3V の電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル

プロセッサ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのプロセッサの属性をまとめています (表 6-18)。

注 - プロセッサの情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティング環境の実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインのプロセッサの情報は収集できません。

表 6-18 プラットフォーム構成リーダー - プロセッサ

属性	規則 (ある場合)	説明
プロセッサ ID		ID(スロット ID) 形式のプロセッサの識別子: PROC(SBx/Py) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
電源の状態	scOnOff	このプロセッサの電源状態: ON か OFF
POST 状態	scPOST	プロセッサの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED、NO_LICENSE のいずれか
クロック周波数 (MHz)		プロセッサの、メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
温度 (°C)	scBTemp	(グラフ表示可能) プロセッサの温度
電圧	scBVolt	(グラフ表示可能) プロセッサの電圧レベル
E キャッシュサイズ		(グラフ表示可能) 外部キャッシュサイズ (メガバイト単位)
メモリバンクリスト		このプロセッサが使用しているメモリバンクの、コンマ区切りのリスト (0、1)

メモリバンク

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのメモリバンクの属性をまとめています (表 6-19)。

注 – メモリバンクの情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティング環境の実行中) している場合のみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインのメモリバンクの情報は収集できません。

表 6-19 プラットフォーム構成リーダー - メモリバンク

属性	規則 (ある場合)	説明
MEMBANK ID		ID(スロット ID) 形式のメモリバンクの識別子: MEMBANK(SBx/Py/Bz) の形式で、 <i>x</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリバンク番号 (0 か 1)
論理バンク 0 の POST 状態	scPOST	論理メモリバンク 0 の POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
論理バンク 1 の POST 状態	scPOST	論理メモリバンク 1 の POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
メモリサイズ (M バイト)		(グラフ表示可能) メモリバンクのサイズ (M バイト単位)

DIMM

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの DIMM (Dual Inline Memory Module) の属性をまとめています (表 6-20)。

注 - DIMM の情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティング環境の実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインの DIMM の情報は収集できません。

表 6-20 プラットフォーム構成リーダー - DIMM

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM ID		FRU ID(スロット ID) 形式の DIMM の識別子: DIMM (SBw/Px/By/Dz) の形式で、 <i>w</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3)
FRU パーツ番号		この現場交換可能ユニットのパーツ番号
FRU シリアル番号		この現場交換可能ユニットのシリアル番号
ダッシュレベル		この現場交換可能ユニットのダッシュレベル
リビジョンレベル		この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル
略名		この現場交換可能ユニットの略名
説明		この現場交換可能ユニットの説明
製造地		この現場交換可能ユニットの製造地
製造日		この現場交換可能ユニットが製造された日時
ベンダー名		この現場交換可能ユニットのベンダー名
POST 状態	scPOST	DIMM の POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか

ドメイン

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの属性をまとめています (表 6-21)。

表 6-21 プラットフォーム構成リーダー - ドメイン

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの識別子: A ~ R
状態	scDmnSt	SMS の showplatform コマンドから報告されたドメインの状態: Running Solaris、Running Domain POST、Powered Off など。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の showplatform(1M) を参照。
ドメインの停止回数	scStop	プラットフォームエージェントの再起動後、またはアラームの確認後にこのドメインが停止した回数
記録の停止回数	scStop	プラットフォームエージェントの再起動後、またはアラームの確認後にこのドメインの記録が停止した回数
OS のバージョン		このドメインで動作しているオペレーティング環境のバージョン: Solaris 2.8 など
OS のタイプ		このドメインで動作しているオペレーティング環境の種類: Solaris、Trusted など
ドメインのタグ		ドメインのタグ名: domainA ~ domainR など
外部ホスト名		ドメインの外部ホスト名
内部ホスト名		ドメインの内部ホスト名
内部 IP アドレス		ドメインの内部 IP アドレス
スロット 0 の使用可能ボード		このドメインで使用可能なスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 1 の使用可能ボード		このドメインで使用可能なスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 0 の割り当て済みボード		このドメインに割り当てられているスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 1 の割り当て済みボード		このドメインに割り当てられているスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE

表 6-21 プラットフォーム構成リーダー - ドメイン (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
スロット 0 のアクティブなボード		このドメインでアクティブなスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
スロット 1 のアクティブなボード		このドメインでアクティブなスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE
主入出力ボード		ドメインとシステムコントローラ間の通信に使用されている主入出力ボードの識別子： HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
キースイッチ		仮想キースイッチの位置：ON、STANDBY、OFF、DIAG、SECURE、or UNKNOWN のいずれか
アドレスバスの構成	scBusCfg	アドレスバス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。
データバスの構成	scBusCfg	データバス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。
応答バスの構成	scBusCfg	応答バス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。
アクティブな Ethernet ボード		アクティブな Ethernet コントローラがある入出力ボードの識別子：HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
管理者グループ		ドメインの管理者グループの識別子： dmnxadm の形式で x は a ~ r
再構成グループ		ドメインの再構成グループの識別子： dmnxrcfg の形式で x は a ~ r
作成日時		ドメインが作成された日時、または UNKNOWN

不明なコンポーネント (構成部品)

次の表は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーが認識できないコンポーネントが特定のスロットにあることを示します (表 6-22)。

表 6-22 プラットフォーム構成リーダー - 不明なコンポーネント

スロット ID
不明なシステムボードがあるスロットの識別子: EXBx.SLOTy の形式で、x は拡張ボード番号 (0 ~ 17)、y はスロット番号 (0 ~ 1)

障害イベントテーブル

次の表は、自動障害イベント通知システムによって生成される障害イベントを示します (表 6-23)。同じ情報がアラームテーブルに表示されます。アラームテーブルでアラームに応答すると、障害イベントは障害イベントテーブルから自動的に削除されます。アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

表 6-23 プラットフォーム構成リーダー - 障害イベントテーブル

障害イベント
障害イベントには、警告を示す黄色のアラームとともに示される障害イベントコード、タイムスタンプ、およびシャーシのシリアル番号 (CSN) が含まれています。

検出オブジェクトテーブル

検出オブジェクトテーブルは、検出マネージャーや「トポロジオブジェクトの作成」GUI が Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成したときに使用した情報を提供します。この情報は、主として診断目的に提供され、Sun Management Center ソフトウェアのユーザには直接関係のない情報が含まれます。この情報には、テーブル識別子 (マジックナンバー) の後に、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの一部として作成された各トポロジオブジェクトに関する情報が続きます。マジックナンバー値の 53444f54 は、その後のテーブルが有効な検出オブジェクトテーブルであることを示します。

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの検出オブジェクトの属性をまとめています (表 6-24)。

表 6-24 プラットフォーム構成リーダー - 検出オブジェクトテーブル

属性	規則 (ある場合)	説明
トポロジ ID		符号化されたトポロジの識別子
トポロジ親		このオブジェクトの親のトポロジ ID
検出タイプ		符号化された検出タイプ
IP アドレス		このトポロジオブジェクトの IP アドレス
エージェントポート		このトポロジオブジェクト用のネットワークポート番号
ファミリタイプ		トポロジオブジェクトのファミリタイプ
ラベル		Sun Management Center トポロジに表示されるオブジェクトラベル
説明		オブジェクトの説明 (ある場合)

注 - 「エージェントポート」属性の値の -1 は、そのオブジェクトがプラットフォームグループオブジェクトであることを示します。

プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則

この節では、プラットフォーム構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。これらアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

ボード電流規則 (scBCurrt)

ボード電流規則は、電流プローブポイントが類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲外になった場合に重大アラームを生成します (表 6-25)。このとき SMS ソフトウェアは、適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-25 プラットフォーム構成リーダー - ボード電流規則

電流しきい値	アラームレベル	意味
Good		電流が類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲内。 x はサンが設定します。
Error	重大	電流が類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲外。 x はサンが設定します。

対策 : SMS の `showenvironment(1M)` コマンドを使用して、`showenvironment` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード電源規則 (scBPower)

ボード電源規則は、ボードの電源の状態が OFF になった場合にアラームを生成します (表 6-26)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-26 プラットフォーム構成リーダー - ボード電源規則

電源の状態	アラームレベル	意味
ON		ボードの電源がオン。
OFF	注意	ボードの電源がオフ。

対策 : SMS の `poweron(1M)` コマンドを使用して、ボードの電源をオンにしてください。SMS の `showboards(1M)` コマンドを使用して、`showboards` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード温度規則 (scBTemp)

ボード温度規則は、ボードの温度が表 6-27 に示すしきい値範囲内になった場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します。ボードの電源がオフのとき、温度アラームは生成されません。

表 6-27 プラットフォーム構成リーダー - ボード温度規則

温度しきい値	アラームレベル	意味
Low Critical	重大	温度が、サンの設定した重大の低温範囲内。
Low Warning	警告	温度が、サンの設定した警告の低温警告範囲内。
High Warning	注意	温度が、サンの設定した注意の高温範囲内。
High Critical	警告	温度が、サンの設定した重大の高温範囲内。
Over Limit	重大	温度が、サンの設定したしきい値範囲外。

対策：

- Low Critical、High Critical、Over Limit アラームの場合、SMS は適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。
- Low Warning、High Warning アラームの場合は、サンに温度をしきい値範囲内に戻す方法を問い合わせてください。

SMS の `showenvironment(1M)` コマンドを使用して、`showenvironment` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード電圧規則 (scBVolt)

ボード電圧規則は、ボードの電圧が表 6-28 に示すしきい値範囲内になった場合に重大アラームを生成します。ボードの電源がオフのとき、電圧アラームは生成されません。

表 6-28 プラットフォーム構成リーダー - ボード電圧規則

電圧しきい値	アラームレベル	意味
Low Minimum	重大	電圧が、サンの設定した最低電圧範囲内。
High Maximum	重大	温度が、サンの設定した最高電圧範囲内。

対策：Low Minimum、High Minimum アラームの場合、SMS は適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。SMS の showenvironment(1M) コマンドを使用して、showenvironment コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ドメイン停止および記録停止規則 (scStop)

ドメイン停止および記録停止規則は、ドメインの停止とドメインに関する記録の停止を検査し、いずれかの回数がゼロを超えたときアラームを生成します (表 6-29)。ドメイン停止および記録停止回数は、プラットフォームエージェントが再起動されるか、アラームが確認されるとゼロに設定されます。

表 6-29 プラットフォーム構成リーダー - ドメイン停止および記録停止規則

停止回数	アラームレベル	意味
0		ドメイン停止および記録停止回数のいずれか一方または両方がゼロ。
>0	注意	記録停止回数が 1 回以上
>0	重大	ドメイン停止回数が 1 回以上

対策：

- 記録停止回数が 1 回以上のときの注意アラームは注意を促すだけであり、エラーではありません。ドメインは依然動作を続けています。必要に応じて、適切な記録停止のダンプをサンに提供し、分析を依頼してください。記録停止のダンプは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/dump` にあります。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。
- ドメイン停止エラーが発生し、重大アラームが生成された場合、SMS ソフトウェアは適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。サンにドメイン停止ダンプを提供し、分析を依頼してください。ドメイン停止のダンプは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/dump` にあります。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。

HPCI カセット規則 (scHPCId)

ホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセット規則は、PCI スロットの状態が UNKNOWN、BAD SLOT、BAD CARD のいずれかの場合に注意または重大アラームを生成します (表 6-30)。HPCI カセットの電源がオフの場合、アラームは生成されません。

表 6-30 プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット規則

OK/BAD/UNKNOWN 状態	アラームレベル	意味
GOOD		スロットの状態は良好。
UNKNOWN (不明)	注意	スロットの状態は不明。
BAD SLOT	重大	スロットの状態が不良。
BAD CARD	重大	カードが不良。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。状態が UNKNOWN の理由を確認するには、サンに問い合わせください。
- 重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

フェイルオーバー状態規則 (scFoStat)

フェイルオーバー状態規則は、現在のフェイルオーバーの状態が ACTIVE 以外の場合に注意または重大アラームを生成します (表 6-31)。

表 6-31 プラットフォーム構成リーダー - フェイルオーバー状態規則

フェイルオーバー状態	アラームレベル	意味
ACTIVATING		フェイルオーバーが開始され有効になろうとしている。
ACTIVE		フェイルオーバーが有効
DISABLED	注意	フェイルオーバーが無効
FAILED	重大	問題があり、フェイルオーバーできない。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。フェイルオーバーは、SMS の `setfailover(1M)` コマンドを使って有効にできます。
- 重大アラームは、少なくとも 1 つ問題が発生し、そのためにフェイルオーバーが機能しないことを意味します。問題の詳細情報は、SMS の `showfailover(1M)` を使って入手できます。/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages 内の SMS プラットフォームログファイルで SMS fomd プロセスからのメッセージを調べることができます。

OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 (scOBURul)

OK/BAD/UNKNOWN 状態規則は、コンポーネントが BAD または UNKNOWN 状態の場合に重大または注意アラームを生成します (表 6-32)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフの場合、アラームは生成されません。

表 6-32 プラットフォーム構成リーダー - OK/BAD/UNKNOWN 状態規則

OK/BAD/UNKNOWN 状態	アラームレベル	意味
OK		コンポーネントは正常な動作状態。
BAD	重大	コンポーネントは動作不可能な状態。
UNKNOWN (不明)	注意	コンポーネントの動作状態を判定できない。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。状態が UNKNOWN の理由を確認するには、サンに問い合わせください。
- 重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

OK/FAIL 規則 (scOkFail)

OK/FAIL 規則は、コンポーネントに障害あることが検出された場合に重大アラームを生成します (表 6-33)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフか、FAIL 状態の場合、アラームは生成されません。

表 6-33 プラットフォーム構成リーダー - OK/FAIL 規則

OK/FAIL 状態	アラームレベル	意味
OK		コンポーネントは正常。
FAIL (不良)	重大	コンポーネントに問題あり。

対策：重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

ON/OFF 規則 (scOnOff)

ON/OFF 規則は、コンポーネントの電源がオフの場合に注意アラームを生成します (表 6-34)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフか、FAIL 状態の場合、アラームは生成されません。

表 6-34 プラットフォーム構成リーダー - ON/OFF 規則

ON/OFF 状態	アラームレベル	意味
ON		コンポーネントはオン。
OFF	注意	コンポーネントはオフ。

対策: 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。アラームの理由と対策の取り方は、コンポーネントの種類によって異なります。

- コンポーネントがファントレイか電源装置の場合は、SMS の poweron(1M) コマンドを使ってコンポーネントの電源をオンにすることができます。
- コンポーネントがプロセッサの場合は、ボードの電源がオフである可能性があります。それ以外の場合は、自動システム回復 (ASR) のために、SMS ソフトウェアによって、プロセッサの電源がオフにされています。
- コンポーネントが HPCI カセットの場合は、ボードの電源がオフである可能性があります。それ以外の場合は、カセットが空です (カードが装着されていない)。

POST 状態規則 (scPOST)

電源投入時セルフテスト (POST) 状態規則は、POST 状態が OK 以外の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-35)。

表 6-35 プラットフォーム構成リーダー - POST 状態規則

POST 状態	アラームレベル	意味
OK		POST 状態は問題なし。
UNKNOWN	注意	POST 状態は不明。
BLACKLISTED	注意	コンポーネントは要注意リストに載っている。
REDLISTED	注意	コンポーネントは使用禁止リストに載っている。
NO_LICENSE	注意	コンポーネントに COD ライセンスがない。
DISABLED	警告	コンポーネントが使用不可。
UNDEFINED	警告	コンポーネントは定義されていない。

表 6-35 プラットフォーム構成リーダー - POST 状態規則 (続き)

POST 状態	アラームレベル	意味
MISCONFIGURED	警告	コンポーネントは正しく構成されていない。
FAIL-OBP	重大	コンポーネントの OBP に問題あり。
FAIL	重大	コンポーネントの POST に失敗。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。
- 警告アラームは必ずしも問題があることを示すわけではありませんが、発生した場合は、システム管理者またはサンに問題が発生する可能性があることを伝えてください。
- 重大アラームは問題があることを示します。サンに連絡してください。

詳細は、システムコントローラ上の POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、/var/opt/SUNWSMS/adm/[A-R]/post にあります。

電源装置遮断器規則 (scBreakr)

電源装置遮断器規則は、電源装置の回路遮断器が OPEN の場合に注意アラームを生成します (表 6-36)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-36 プラットフォーム構成リーダー - 電源装置遮断器規則

電源装置の遮断器の状態	アラームレベル	意味
CLOSE		回路遮断器は閉じている。
OPEN	注意	回路遮断器は開いている。

システムボード DR 状態規則 (scDrStat)

システムボード DR 状態規則は、システムボードの動的再構成 (DR) 状態が UNKNOWN の場合に注意アラームを生成します (表 6-37)。

表 6-37 プラットフォーム構成リーダー - システムボードの DR 状態規則

DR 状態	アラームレベル	意味
FREE		ボードは使用されていない。
ASSIGNED		ボードはドメインに割り当てられている。
ACTIVE		ボードはドメインでアクティブになっている。
UNKNOWN (不明)	注意	動的再構成状態は不明。

対策 : 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。UNKNOWN 状態はボードが使用されていないのと同じことです。SMS の `showboards(1M)` コマンドを使用すると、UNKNOWN 状態のボードが**使用可能**になっていることが分かります。

システムボードのテスト状態規則 (scBTest)

システムボードのテスト状態規則は、状態が DEGRADED の場合に注意アラーム、状態が FAILED の場合に重大アラームを生成します (表 6-38)。ボードの電源がオンまたはオフの場合、SMS ソフトウェアが必ず自動的にテスト状態を UNKNOWN に設定します。この状態はまた、ボードがドメインに構成されていないことも意味します。ボードがドメインに構成されると、POST が実行されて適切なテスト状態が返されます。

表 6-38 プラットフォーム構成リーダー - システムボードのテスト状態規則

テストの状態	アラームレベル	意味
PASSED		POST にパス。
UNKNOWN (不明)		POST 状態は不明。
IPOST (in POST)		POST の実行中。
DEGRADED	注意	POST 状態は機能縮小モード。
FAILED	重大	POST に不合格。

対策 : アラームの理由とその対策は、テスト状態の内容によって異なります。

- テスト状態が DEGRADED で注意アラームが生成されても、エラーではありません。単に注意を促すことを目的にしています。

- テスト状態が FAILED で重大アラームが発生した場合は、ボードに何らかの問題があります。サンに連絡してください。

詳細は、POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

ドメインの状態のアラーム規則 (scDmnSt)

ドメインの状態規則は、ドメインの起動、通常稼働、エラー回復中のドメインの上に基づいてアラームを生成します (表 6-39)。

表 6-39 プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則

ドメインの状態	アラームレベル	意味
Booting OBP		ドメインの OpenBoot PROM が起動中
Booting Solaris		ドメインが Solaris ソフトウェアを起動中
Keyswitch Standby		ドメインのキースイッチが STANDBY (スタンバイ) 位置
Loading OBP		ドメインの OpenBoot PROM の読み込み中
Loading Solaris		OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェアの読み込み中
Powered Off		ドメインの電源が切断されている。
Running Domain POST		ドメインの電源投入時セルフテストの実行中
Running OBP		ドメインの OpenBoot PROM の実行中
Running Solaris		ドメインで Solaris ソフトウェアが動作中
Solaris Quiesce In-progress		Solaris ソフトウェアが休止中
Solaris Quiesced		Solaris ソフトウェアが休止
Debugging Solaris	注意	Solaris ソフトウェアのデバッグ中。ハングアップ状態ではない。
Domain Exited OBP	注意	ドメインの OpenBoot PROM が終了した
Exited OBP	注意	OpenBoot PROM が終了した。
In OBP Callback	注意	ドメインが停止し、OpenBoot PROM に戻った。
OBP Debugging	注意	OpenBoot PROM をデバッガとして使用中
OBP in sync Callback to OS	注意	OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェア同期コールバック中
Solaris Halt	注意	Solaris ソフトウェアが停止している

表 6-39 プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則 (続き)

ドメインの状態	アラームレベル	意味
Solaris Halted, in OBP	注意	Solaris ソフトウェアが停止し、ドメインが OpenBoot PROM モード
Solaris Quiesce In-progress	注意	Solaris ソフトウェアが再開中
Domain Down	警告	ドメインが停止し、setkeyswitch が ON、DIAG、SECURE 位置のいずれか
In Recovery	警告	ドメインが自動システム回復中
Solaris Exited	警告	Solaris ソフトウェアが終了した
Solaris Panic	警告	Solaris ソフトウェアでパニックが発生し、パニックフロー処理が開始された。
Solaris Panic Continue	警告	デバッガモードを終了し、パニックフロー処理を続行中
Solaris Panic Debug	警告	Solaris ソフトウェアでパニックが発生し、デバッグモードになろうとしている
Solaris Panic Dump	警告	パニックのダンプが開始された。
Solaris Panic Exit	警告	パニックの結果、Solaris ソフトウェアが終了した。
Booting Solaris Failed	重大	OpenBoot PROM の動作中に起動に失敗した。
Environmental Domain Halt	重大	環境の緊急事態発生のためドメインが停止させられた。
Environmental Emergency	重大	環境の緊急事態が検出された。
In OBP Error Reset	重大	ドメインがエラーによる reset で OpenBoot PROM モード
Loading Solaris Failed	重大	OpenBoot PROM の動作中に読み込みに失敗した。
OBP Failed	重大	ドメインの OpenBoot PROM で問題が発生した
Unknown	重大	ドメインの状態を判定できなかった。また、Ethernet アドレスの場合は、ドメインの idprom イメージファイルが存在しない。サニに連絡してください。

対策：エラーが発生し、アラームが生成されると、SMS ソフトウェアによって適切な自動システム回復 (ASR) 処理が行われます。ただし、ドメインのハードウェアが安全で適切な処理に必要な条件を満たさないことがあり、その場合、回復することはできません。この場合は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。回復できない場合に、ただちに取りべき対策とイベントログファイルの入手先について説明しています。サンに連絡して、必要なログファイル情報を提供してください。

ドメインのバス構成規則 (scBusCfg)

ドメインのバス構成規則は、アドレス、データ、または応答バスが構成されていないか (UNCONFIGURED)、機能縮小モード (CSB0 か CSB1) の場合に警告アラームを生成します。言い替えれば、この規則は、バスが両方の CSB を使用するように構成されていない場合にアラームを生成します (表 6-40)。

表 6-40 プラットフォーム構成リーダー - ドメインのバス構成規則

バス構成	アラームレベル	意味
BOTH		バスは両方の CSB を使用中
CSB0	警告	バスが機能縮小モード
CSB1	警告	バスが機能縮小モード
UNCONFIGURED	警告	バスが構成されていない

対策：サンに連絡して、バスを正しく構成してください。

障害イベント規則 (faultEventRuleProc)

障害イベント規則は、障害イベントテーブルにエントリが追加された場合に警告アラームを生成します (表 6-23)。同じ情報がアラームテーブルに表示されます。アラームテーブルでアラームを確認すると、障害イベントは障害イベントテーブルから自動的に削除されます。アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

ドメイン構成リーダーモジュール

ドメイン構成リーダーモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム用のドメインエージェントの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-2 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire High-End Systems Domain) - を表しています。

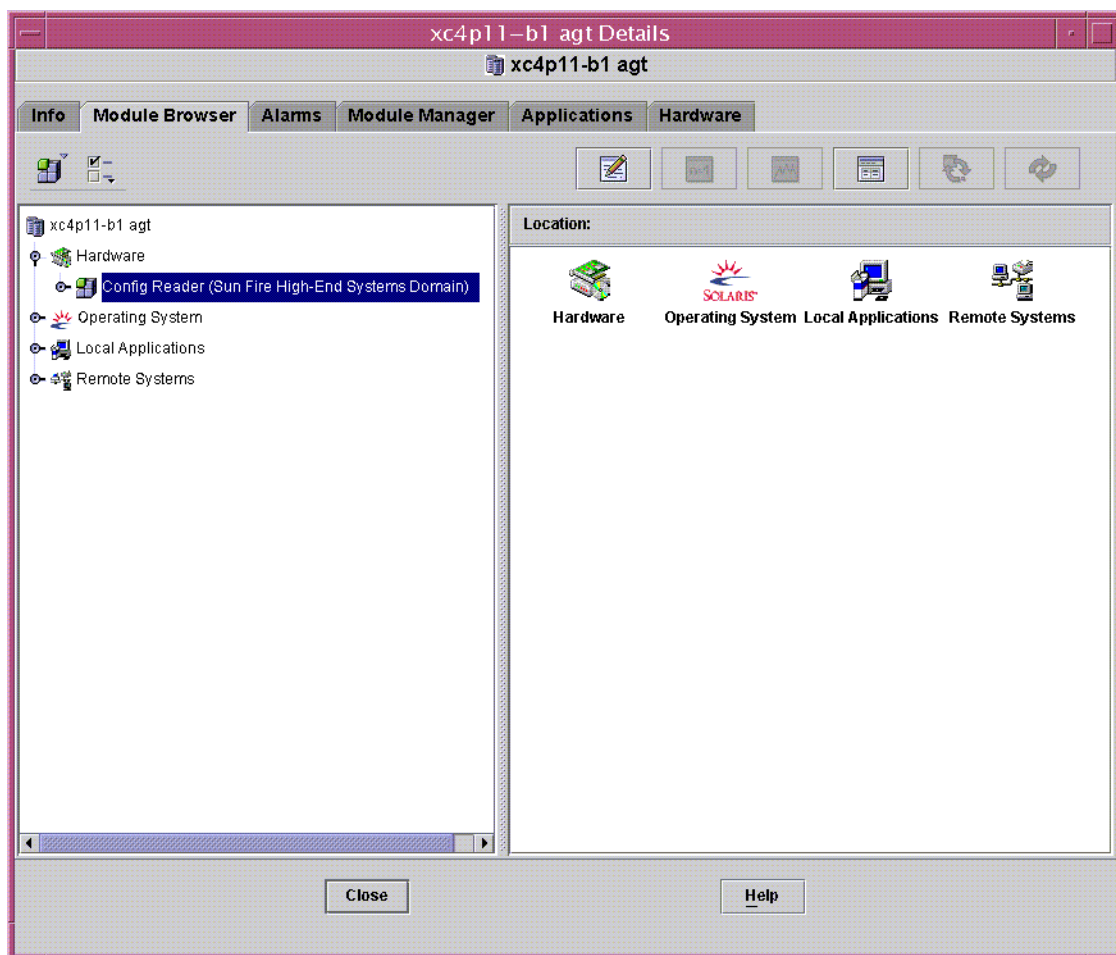


図 6-2 ドメイン構成リーダーモジュール

構成が多数の外部ディスクからなるときの注意事項

多数の外部ディスクからなる構成 (たとえば 5,000 を超えるディスクの構成) の場合に、ドメインエージェントが起動しないことがあります。その場合は、`agent-stats-d.def` ファイルを編集してから、そのドメイン上でドメインエージェントを起動してください。その後で、生成されるアラームに対する属性を変更します。この変更によって、重大アラーム (赤) ではなく、警告アラーム (黄色) が返されるようになります。

その場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインで 2 つの作業が必要になります。

1. `agent-stats-d.def` ファイルの編集
2. そのドメインの Sun Management Center 3.5 グラフィカルユーザインタフェース (GUI) の 2 つのアラーム属性の変更

▼ `agent-stats-d.def` ファイルを編集する

`/var/opt/SUNWsymon/cfg/agent-stats-d.def` ファイルに対して以下の操作をします。

1. `procstats:size:alarmlimit:error-gt` を 500000 に変更します。
2. `procstats:size:alarmlimit:warning-gt` を 250000 に変更します。
3. `procstats:rss:alarmlimit:warning-gt` を 250000 に変更します。

▼ ドメインのアラーム属性を変更する

1. Sun Management Center 3.5 GUI の階層表示で、変更するドメインをダブルクリックします。
2. 「ローカルアプリケーション」をダブルクリックします。
3. 「エージェント統計情報」をダブルクリックします。
4. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」をダブルクリックします。
5. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」テーブル内の「総仮想サイズ (KB)」の値を右クリックします。
6. プルダウンメニューの「属性エディタ」をクリックします。
7. 「アラーム」タブをクリックします。

8. 「重大のしきい値」テキストボックスの値を 500000 に変更します。
9. 「警告のしきい値」テキストボックスの値を 250000 に変更します。
10. 「適用」 ボタンをクリックします。
11. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」 テーブル内の「総仮想セットサイズ (KB)」の値上で右クリックします。
12. プルダウンメニューの「属性エディタ」 をクリックします。
13. 「アラーム」 タブをクリックします。
14. 「重大のしきい値」テキストボックスの値を 500000 に変更します。
15. 「警告のしきい値」テキストボックスの値を 250000 に変更します。
16. 「適用」 ボタンをクリックします。

ドメイン構成リーダーモジュールの再表示間隔

ドメイン構成リーダーモジュールは、30 分おきにすべてのテーブルを完全に再表示します。

また、ドメイン構成リーダーモジュールは、内部キャッシュにプラットフォーム情報を格納します。この情報の収集、再表示方法は以下のいずれかです。

- 定期的な間隔 (現在は 2 分に設定) でディスクハードウェアとソフトウェア、トランスポートエラー回数、プロセッサ状態 (オンラインかオフライン) に変化がないか検査します。ユーザが Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの再表示間隔値を変更することはできません。
- イベントモジュールは、DR 操作が発生するたびにドメイン構成リーダーにそのことを通知します。これは、ボードまたはコンポーネントに変化があり、その情報が内部キャッシュに格納されていることを意味します。

ブラウザでこのモジュールのデータを表示する際は、ただちにデータを再表示するよう要求できます。

▼ ドメイン構成リーダーのデータを再表示する

1. ドメインの詳細ウィンドウを開いて、「モジュールブラウザ」タブを選択します。
2. 「システム」フォルダから任意の属性を選択し、そのデータを再表示します。
ドメイン構成リーダーが内部キャッシュのデータで再表示します。

3. 「システム」フォルダに含まれていない情報を表示するには、「ブラウザ」からその属性を選択し、データを再表示します。

内部キャッシュにあるその属性の最新値でブラウザの表示が更新されます。

ドメイン構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。ドメイン構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- になります。

システム

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-41)。

表 6-41 ドメイン構成リーダー - システム

属性	規則 (ある場合)	説明
ノード名		システム
ホスト名		Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのホスト名
ホスト ID		ホストの識別番号
オペレーティングシステム		Sun Fire ハイエンドシステムのドメインで動作しているオペレーティング環境
OS のバージョン		動作しているオペレーティング環境のバージョン
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャー
最終更新		この構成情報の最終更新日時
総ディスク数		ドメインに存在するディスク数
総メモリ容量		総メモリ容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数		ドメインに割り当てられている全プロセッサを含むプロセッサ数
総テープデバイス数		ドメインに存在するテープデバイス数

CPU/ メモリボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの CPU/メモリボードの属性をまとめています (表 6-42)。

表 6-42 ドメイン構成リーダー - CPU/メモリボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の CPU/メモリボードの識別子: CPU(SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードのタイプ		CPU ボードのタイプの識別子: CPU
メモリサイズ		このボードの全 CPU 用の総メモリ容量
メモリコントローラ		この CPU/メモリボード上のメモリコントローラの識別子の、コンマ区切りのリスト: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
メモリバンク		この CPU/メモリボード上のメモリバンクの識別子の、コンマ区切りのリスト: SBx/Py/Bz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、z はメモリバンク番号 (0 か 1)。
プロセッサリスト		この CPU/メモリボード上のプロセッサの識別子の、コンマ区切りのリスト: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
状態	scStateCheck	cfgadm から報告された CPU/メモリボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

HPCI/HPCI+ ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) またはホットスワップ対応 PCI プラス (HPCI+) ボードの属性をまとめています (表 6-43)。

表 6-43 ドメイン構成リーダー - HPCI/HPCI+ ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
HPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードのタイプ		HPCI ボードのタイプ識別子: HPCI か HPCI+
状態	scStateCheck	cfgadm から報告された HPCI ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN
HPCI カード数		このボード上の HPCI カードの識別子の、コンマ区切りのリスト: IOx/CyVz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1)。

WPCI ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの Sun Fire Link PCI (WPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-44)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-44 ドメイン構成リーダー - WPCI ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
WPCI ID		FRU ID(スロット ID) 形式の WPCI ボードの識別子: WPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードのタイプ		WPCI ボードのタイプの識別子: WPCI

表 6-44 ドメイン構成リーダー - WPCI ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
状態	scStateCheck	cfgadm から報告された WPCI ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN
HPCI/Paroli カード		この WPCI ボード上の HPCI カードと Paroli カードの、コンマ区切りの識別子リスト。HPCI カードの識別子は IOx/Cy/Vz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1) Paroli カードの識別子は IOx/PARy の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y は Paroli カードの番号 (0 か 1)

MaxCPU ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの MaxCPU ボードの属性をまとめています (表 6-45)。

表 6-45 ドメイン構成リーダー - MaxCPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
MCPU ID		FRU ID(スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの識別子: MCPU(IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードのタイプ		ボードのタイプの識別子: MCPU
プロセッサリスト		この MaxCPU ボード上のプロセッサの識別子の、コンマ区切りのリスト: CPU(SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
状態	scStateCheck	cfgadm から報告された MaxCPU ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

HPCI カセット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセットの属性をまとめています (表 6-46)。1 つの HPCI カセットに 2 枚の HPCI カードを装着できます。

表 6-46 ドメイン構成リーダー - HPCI カセット

属性	規則 (ある場合)	説明
CARD ID		FRU ID(スロット ID) 形式の HPCI カードの識別子 : FUI ID は 3.3V カードの場合は c3v、5V カードの場合は c5v。スロット ID は 10x/CyVz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 または 5)、z はカードがある PCI コントローラ番号 (0 か 1)
デバイスタイプ		この HPCI カードのデバイスタイプの識別子 : network、scsi-fcp、fcml など
デバイスクラス		この HPCI カードのデバイスクラス : Mass Storage Controller、SCSI、Network Controller、Ethernet、Network Controller、FDDI、Network Controller、ATM など
状態	scStateCheck	cfgadm から報告された HPCI カードの接続点の状態 : OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN
名前		この HPCI カードのサン名称 : SUNW,q1c、SUNW,qfe、SUNW,hme、network など
メーカー		この HPCI カードのメーカー
モデル		この HPCI カードのモデル識別子
バージョン		この HPCI カードのバージョン
リビジョン ID		この HPCI カードのリビジョン識別子
ベンダー ID		この HPCI カードのベンダー識別子

Paroli カード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの並列光リンク (Paroli) カードの属性をまとめています (表 6-47)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの有無は、ドメインが構成済みの Sun Fire Link クラスタの一部である場合にのみ判定することができます。ドメインが構成済み Sun Fire Link クラスタの一部でない場合には、Paroli カードテーブルには何も表示されません。ドメインに Paroli カードがないという意味ではありません。

表 6-47 ドメイン構成リーダー - Paroli カード

属性	規則 (ある場合)	説明
CARD ID		FRU ID(スロット ID) 形式の Paroli カードの識別子: PARS (IOx/PARy) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y は Paroli カード番号 (0 か 1)。
タイプ		Paroli カードのタイプの識別子: DUAL か SINGLE
リンク番号		Paroli カードのリンク番号: 0、1、2 のいずれか
リンクの妥当性	scLnkVld	Paroli カードリンクの妥当性: VALID か INVALID
リンク状態	scLnkSt	Paroli カードのリンクの状態: LINK UP、LINK DOWN、LINK NOT PRESENT、WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN、WAIT FOR SC LINK UP、SC ERROR WAIT FOR LINK DOWN、UNKNOWN のいずれか
遠隔リンク番号		遠隔リンク番号
遠隔ポート ID		リンクの遠隔側のポート ID
遠隔クラスタメンバー		リンクの遠隔側のドメインのホスト名

プロセッサ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-48)。

表 6-48 ドメイン構成リーダー - プロセッサ

属性	規則 (ある場合)	説明
プロセッサ ID		ID(スロット ID) 形式のプロセッサの識別子: PROC(SBx/Py) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
プロセッサ番号		プロセッサ番号か、このプロセッサに割り当てられているポート ID
モジュールリビジョン		プロセッサモジュールのリビジョン番号
モジュールタイプ		プロセッサモジュールのタイプの識別子
メーカー		プロセッサのメーカーの識別子
SPARC バージョン		SPARC のバージョン識別子
クロック周波数 (MHz)		プロセッサの、メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
I キャッシュサイズ (K バイト)		キロバイト (K バイト) 単位の命令キャッシュサイズ
D キャッシュサイズ (K バイト)		キロバイト (K バイト) 単位のデータキャッシュサイズ
E キャッシュサイズ (K バイト)		キロバイト (K バイト) 単位の外部キャッシュサイズ
状態	scCPUStatus	プロセッサの現在の状態: ONLINE、OFFLINE、POWEROFF、UNKNOWN のいずれか
状態	scStateCheck	cfgadm から報告されたプロセッサの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

メモリコントローラ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのメモリコントローラの属性をまとめています (表 6-49)。

表 6-49 ドメイン構成リーダー - メモリコントローラ

属性	規則 (ある場合)	説明
メモリコントローラ ID		ID(スロット ID) 形式のメモリコントローラの識別子: MEMCTRL(SBx/Py) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
メモリバンクリスト		メモリバンクのスロット ID の、コンマ区切りの識別子リスト: SBx/Py/Bz の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリバンク番号 (0 か 1)。
状態	scStateCheck	cfgadm から報告されたメモリコントローラの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか
最終変更		最終変更の日時、または UNKNOWN

メモリバンク

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのメモリバンクの属性をまとめています (表 6-50)。

注 - このテーブルには、存在しないメモリバンクのエントリが含まれることがあります。その場合、エントリの POST の状態属性は DISABLED になります。

表 6-50 ドメイン構成リーダー - メモリバンク

属性	規則 (ある場合)	説明
メモリバンク ID		ID(スロット ID) 形式のメモリバンクの識別子 : MEMBANK (SBx/Py/Bz) の形式で、 <i>x</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリバンク番号 (0 か 1)
メモリサイズ		このメモリバンクのメガバイト単位のメモリサイズ
DIMM リスト		このメモリバンク上の DIMM の識別子の、コマ区切りのリスト : SBw/Px/By/Dz の形式で、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3)
論理バンク 0 の POST 状態	scPOSTStatus	論理メモリバンク 0 の POST 状態 : UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
論理バンク 1 の POST 状態	scPOSTStatus	論理メモリバンク 1 の POST 状態 : UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
プロセッサ ID		このメモリバンクのプロセッサの識別子 : SBx/Py の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)
SEEPROM ID		SEEPROM の識別子 : 現在は --

DIMM

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの DIMM (Dual Inline Memory Module) の属性をまとめています (表 6-51)。

注 - このテーブルには、存在しない DIMM のエントリが含まれることがあります。その場合、エントリの POST の状態属性は DISABLED になります。

表 6-51 ドメイン構成リーダー - DIMM

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM ID		FRU ID(スロット ID) 形式の DIMM の識別子 : DIMM(SBw/Px/By/Dz) の形式で、 <i>w</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3)
メモリサイズ		DIMM のキロバイト (K バイト) 単位のメモリサイズ
SEEPROM ID		SEEPROM の識別子 : 現在は --
POST 状態	scPOSTStatus	DIMM の POST 状態 : UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか
ECC メモリエラー数	scDimmErrCnt	この DIMM のエラー訂正コード (ECC) メモリエラー数

ディスクデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのディスクデバイスの属性をまとめています (表 6-52)。

表 6-52 ドメイン構成リーダー - ディスクデバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
ディスク ID		ディスクデバイスの識別子: <code>disk(cxydz)</code> の形式で、 <i>x</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)、 <i>y</i> はターゲット番号、 <i>z</i> は論理装置番号 (<code>c0t64d0</code> などディスクがデュアルポートの場合は、コンマで区切った 2 つのディスクデバイス識別子が表示される)。
カード ID		カードの識別子: <code>IOx/Cy/Vz</code> の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はカードの電圧 (3 か 5)、 <i>z</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)。
格納装置名		<code>luxadm</code> から報告された格納装置の識別子か、 <code>--</code> 。詳細は、『Platform Notes: Using luxadm Software』を参照。
バス		ディスクデバイスへの物理的なバス
ブロックサイズ		ディスクをパーティションに分割したときに指定したブロックサイズ
ブロック数		ファイルシステムに割り当てられているブロック数
使用可能なブロック数		ファイルシステムで使用可能なブロック数
ファイル数		ファイルシステムに存在するファイル数
使用可能なファイル数		ファイルシステムで使用可能なファイル数
状態		このディスクの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ
ハードウェアエラー数	<code>scDskErrCnt</code>	ハードウェア関連のエラー数
ソフトウェアエラー数	<code>scDskErrCnt</code>	ソフトウェア関連のエラー数
トランスポートエラー数	<code>scDskErrCnt</code>	トランスポート関連のエラー数

テープデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのテープデバイスの属性をまとめています (表 6-53)。

表 6-53 ドメイン構成リーダー - テープデバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
テープ ID		テープデバイスに対する標準の命名規則に従ったテープデバイスの識別子
カード ID		カードの識別子 : IOx/Cy/Vz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z はこのカードがある PCI コントローラ (0 か 1)
バス		テープデバイスへの物理的なバス
デバイス名		このテープデバイスの識別名 : Exabyte 4mm、QIC 8mm archive など。名前の長さは最大で半角 64 文字。
状態		このテープデバイスの状態 : OK か発生した問題を説明したメッセージ
テープエラー数	scTpeErrCnt	syslog ファイルに記録されたテープエラー数

ネットワークインタフェース

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのネットワークインタフェースの属性をまとめています (表 6-54)。

表 6-54 ドメイン構成リーダー - ネットワークインタフェース

属性	規則 (ある場合)	説明
ネットワーク ID		ネットワークインタフェースの識別子 : network(dman0)、network(qfe0) など
カード ID		カードの識別子 : IOx/Cy/Vz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1)
記号名		このネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名
Ethernet アドレス		このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス

表 6-54 ドメイン構成リーダー - ネットワークインタフェース (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
IP アドレス		このネットワークインタフェースの IP アドレス
状態		このネットワークインタフェースの状態: OK か 空白
ネットワークエラー		このネットワークインタフェースの属性に関する情報を取得できないか、エラーコードを取得したことを示すメッセージ

WCI

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの Sun Fire Link インタフェース (WCI) の属性をまとめています (表 6-55)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-55 ドメイン構成リーダー - WCI

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ID		FRU ID(スロット ID) の形式の Sun Fire Link インタフェースの識別子: <code>wci(I0x/WCI)</code> の形式で、 <code>x</code> は WCI がある拡張スロットの番号。
名前		ドライバまたはデバイス名: <code>SUNW,wci</code>
互換		WCI と互換性があるドライバ: <code>wrsm</code> か <code>wssm</code>
Paroli 数		並列光通信数

ドメイン構成リーダーのアラーム規則

この節では、ドメイン構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。これらアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

CPU 状態規則 (scCPUStatus)

CPU 状態規則は、プロセッサが OFFLINE の場合に注意アラームを生成します (表 6-56)。注意アラームは注意を促すためだけで、エラーではありません。

表 6-56 ドメイン構成リーダー - CPU 状態規則

CPU 状態	アラームレベル	意味
ONLINE		CPU はオンライン。
OFFLINE	注意	CPU はオフライン。
POWEROFF		CPU の電源がオフ。
UNKNOWN		POST 状態は不明。

対策 : psradm(1M) で、必要に応じてプロセッサの動作状態を変更できます。

DIMM エラー数規則 (scDimmErrCnt)

DIMM エラー数規則は、メモリモジュールで発生した誤り訂正コード (ECC) エラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-57)。

表 6-57 ドメイン構成リーダー - DIMM エラー数規則

エラー数	アラームレベル	意味
5	注意	ECC メモリエラー数が 5 個を超えている。
10	警告	ECC メモリエラー数が 10 個を超えている。
15	重大	ECC メモリエラー数が 15 個を超えている。

対策 : 技術者にメモリモジュールのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

ディスクエラー数規則 (scDskErrCnt)

ディスクエラー数規則は、ディスクで発生したハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します

(表 6-58)。

表 6-58 ドメイン構成リーダー - ディスクエラー数規則

エラー数	アラームレベル	意味
5	注意	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 5 個を超えている。
10	警告	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 10 個を超えている。
15	重大	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 15 個を超えている。

対策：技術者にディスクのテストを依頼してください。

POST 状態規則 (scPOSTStatus)

電源投入時セルフテスト (POST) 状態規則は、POST 状態が OKAY 以外の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-59)。

表 6-59 ドメイン構成リーダー - POST 状態規則

POST 状態	アラームレベル	意味
OKAY		POST 状態は問題なし。
UNKNOWN	注意	POST 状態は不明。
BLACKLISTED	注意	コンポーネントは要注意リストに載っている。
REDLISTED	注意	コンポーネントは使用禁止リストに載っている。
DISABLED	警告	コンポーネントが使用不可。
UNDEFINED	警告	コンポーネントは定義されていない。
MISCONFIGURED	警告	コンポーネントは正しく構成されていない。
FAIL-OBP	重大	コンポーネントの OBP に問題あり。
FAIL	重大	コンポーネントの POST に失敗。

対策：

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。
- 警告アラームは必ずしも問題があることを示すわけではありませんが、発生した場合は、システム管理者またはサンに問題が発生する可能性があることを伝えてください。
- 重大アラームは問題があることを示します。サンに連絡してください。

詳細は、システムコントローラ上の POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

状態検査規則 (scStateCheck)

状態検査規則は、`cfgadm(1)` から報告されるボード、CPU、メモリコントローラの接続点の状態が OK 以外の場合に注意アラームを生成します (表 6-60)。

表 6-60 ドメイン構成リーダー - 状態検査規則

状態	アラームレベル	意味
OK		<code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は正常
UNKNOWN	注意	<code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は不明
FAIL	注意	<code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は不良

対策：状態が OK 以外の場合は、`cfgadm(1M)` を実行して、接続点の状態を二重に検査してください。システム管理者に連絡してください。

テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)

テープエラー数規則は、テープドライブで発生したエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-61)。

表 6-61 ドメイン構成リーダー - テープエラー数規則

エラー数	アラームレベル	意味
10	注意	テープエラー数が 10 を超えている。
20	警告	テープエラー数が 20 を超えている。
30	重大	テープエラー数が 30 を超えている。

対策：技術者にテープドライブのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

リンクの状態規則 (scLnkSt)

リンク状態規則は、リンクの状態が LINK UP の場合にアラームを生成します (表 6-62)。

表 6-62 ドメイン構成リーダー - リンク 状態規則

リンク状態	アラームレベル	意味
LINK UP		リンクが動作中
LINK DOWN	重大	リンクが停止中
LINK NOT PRESENT	注意	リンクが存在しない。
WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN	警告	SC のリンク停止待ち状態
WAIT FOR SC LINK UP	警告	SC のリンク起動待ち状態
WAIT ERRORFOR SC LINK UP	警告	SC エラーで、SC のリンク停止状態
UNKNOWN	重大	リンク状態は不明

対策：技術者を派遣して、問題を分析・解決してください。syslog に詳細情報が含まれています。

リンクの妥当性規則 (scLnkVld)

リンクの妥当性規則は、リンクの妥当性が INVALID の場合に警告アラームを生成します (表 6-63)。

表 6-63 ドメイン構成リーダー - リンクの妥当性規則

リンクの妥当性	アラームレベル	意味
VALID		リンクの設定が正当
INVALID	警告	リンクの設定が不正

対策：導入時のトポロジによって異なりますが、設定上の問題は、ストライプ化やスイッチノード、コンピュータノード、パーティションで発生することがあります。技術者を派遣して、問題を分析・解決してください。syslog に詳細情報が含まれています。

SC 構成リーダーモジュール

Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステム上の CP1500 または CP2140 システムコントローラのハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-3 は、ホスト (SC) の詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire High-End Systems SC) - を表しています。

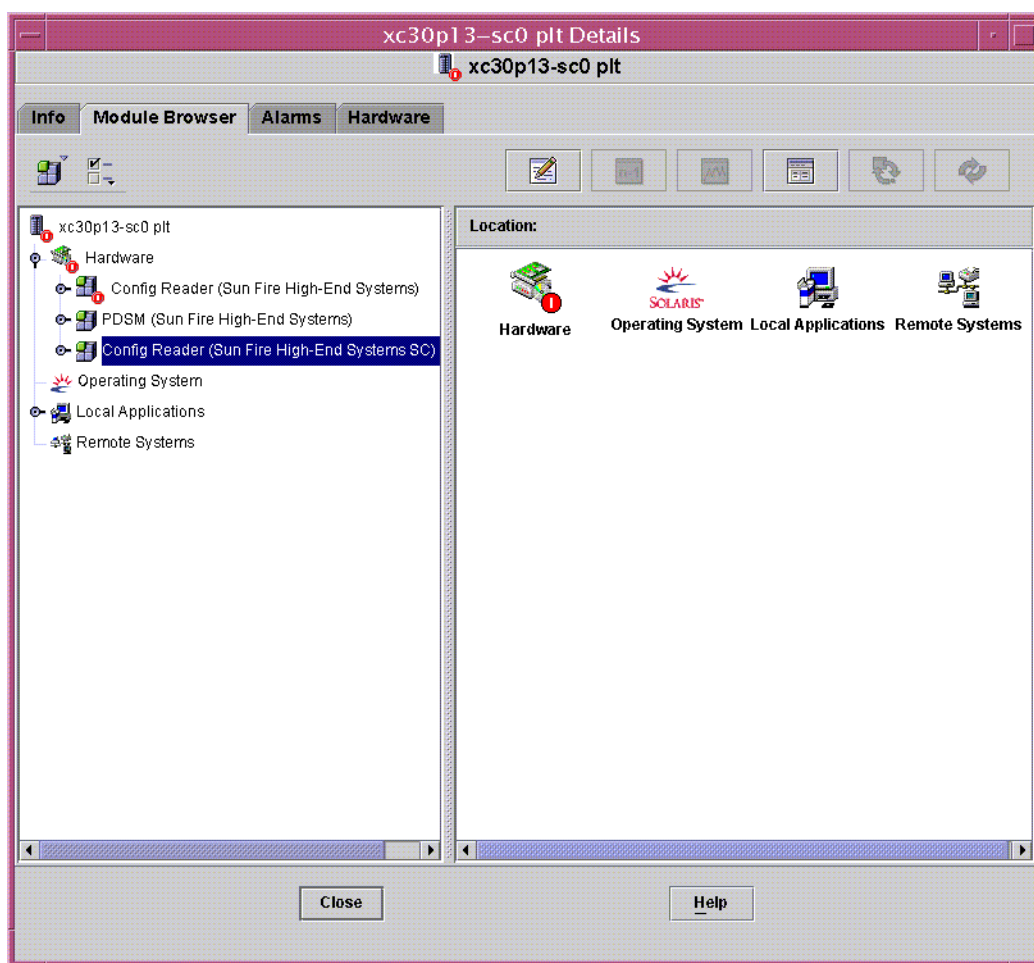


図 6-3 SC 構成リーダーモジュール

SC 構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。SC 構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- になります。

システム

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-64)。

表 6-64 SC 構成 リーダー - システム

属性	規則 (ある場合)	説明
ノード名		システム
ホスト名		システムコントローラのホスト名
ホスト ID		システムコントローラのシリアル番号
オペレーティングシステム		システムコントローラ上で動作しているオペレーティング環境
OS のバージョン		動作しているオペレーティング環境のバージョン
システムクロック周波数 (MHz)		システムタイミングを供給しているクロックのメガヘルツ (MHz) 単位の周波数
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャー
最終更新		最後に更新が行われた日時
総ディスク数		このシステムコントローラに存在するディスク数
総メモリ容量		このシステムコントローラに存在するメモリモジュールの、メガバイト (M バイト) 単位の総メモリ容量
総プロセッサ数		このシステムコントローラに存在するプロセッサ数: 1
総テープデバイス数		このシステムコントローラに接続されているテープデバイス数

SC ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの CP1500 ボードか CP2140 ボード (システムコントローラ) 関連の属性をまとめています (表 6-65)。

表 6-65 SC 構成リーダー - CP1500/CP2140 ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
SC ID		FRU ID (ボード ID) 形式のシステムコントローラボードの識別子: CP1500 (CP31) か CP2140 (CP31) など
ボードのタイプ		CP1500 or CP2140
電圧の状態	cpBrdVolt	CP1500 ボードに対する入力電圧の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか。CP2140 ボードへの入力電圧の状態は UNKNOWN。
メモリモジュールリスト		このボード上の 1 または 2 枚のメモリモジュールの識別子: CP31/P0/MM0 など
プロセッサリスト		このボード上のプロセッサの識別子: CP31/P0 など
リセット理由		前回ハードウェアリセットのリセットタイプ: S-POR など
POST の結果		電源投入時セルフテストの結果。前回リセット中に POST が実行されたかどうかを示されます。

プロセッサ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-66)。

表 6-66 SC 構成リーダー - プロセッサ

属性	規則 (ある場合)	説明
プロセッサ ID		FRU ID(CPU ID) の形式のプロセッサの識別子: PROC (CP31/P0) など
プロセッサ番号		プロセッサの UPA (UltraSPARC Port Architecture) ポート ID
温度 (°C)	cpCPUTemp	プロセッサの温度。温度を検出できない場合は -1
モジュールリビジョン		このモジュールタイプのリビジョン番号

表 6-66 SC 構成 リーダー - プロセッサ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
モジュールタイプ		プロセッサのタイプ : SUNW、UltraSPARC-III など
メーカー		メーカー番号
SPARC バージョン		SPARC プロセッサアーキテクチャーのバージョン番号
クロック周波数 (MHz)		このプロセッサのメガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
I キャッシュサイズ (K バイト)		このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位の命令キャッシュサイズ
D キャッシュサイズ (K バイト)		このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位のデータキャッシュサイズ
E キャッシュサイズ (K バイト)		このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位の外部キャッシュサイズ
状態	cpCPUStatus	現在のプロセッサの状態 : ONLINE か OFFLINE

メモリモジュール

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのメモリモジュールの属性をまとめています (表 6-67)。

表 6-67 SC 構成リーダー - メモリモジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
MEMMOD ID		FRU ID(メモリモジュール ID) 形式のメモリモジュールの識別子 : MEMMOD(CP31/P0/MM0) など
メモリサイズ (M バイト)		メモリモジュールのメガバイト (M バイト) 単位のメモリサイズ

PCI デバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの PCI デバイスの属性をまとめています (表 6-68)。

表 6-68 SC 構成リーダー - PCI デバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
デバイス ID		FRU ID(デバイスドライバ ID) 形式の PCI デバイスの識別子: PCI(yyy) の形式で、yyy は eri、glm、hci 1394、hme、usb のいずれか。
デバイスタイプ		使用されているデバイスの入出力プロトコルタイプ: pci、sbus、network、scsi-2 など
デバイスクラス		必要な PCI クラスコード: Network Controller, Ethernet, Mass Storage Controller, SCSI, Serial Bus Controller など
クロック周波数 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数
名前		デバイスドライバの共通または記号名: network、scsi、firewire、usb など
メーカー		メーカー番号
モデル		デバイスドライバのモデル番号: SUNW、pci-eri、Symbios、53C875 など
バージョン		ドライバのバージョン
リビジョン ID		ドライバのリビジョン
ベンダー ID		ベンダー番号

ディスクデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの ディスクデバイスの属性をまとめています (表 6-69)。

表 6-69 SC 構成リーダー - ディスクデバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
ディスク ID		ディスクデバイスの識別子: <code>disk(cxydz)</code> の形式で、 <i>x</i> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)、 <i>y</i> はターゲット番号、 <i>z</i> は論理装置番号 (<code>c0t4d0</code>) などディスクがデュアルポートの場合は、コンマで区切った 2 つのディスクデバイス識別子が表示される。
パス		ディスクデバイスへの物理的なパス: <code>/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/sd@0,0, ...1,0,6,0</code> など
ブロックサイズ		ディスクをパーティションに分割したときに指定したブロックサイズ
ブロック数		ファイルシステムに割り当てられているブロック数
使用可能なブロック数		ファイルシステムで使用可能なブロック数
ファイル数		ファイルシステムに存在するファイル数
使用可能なファイル数		ファイルシステムで使用可能なファイル数
状態		このディスクの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ
ハードウェアエラー数	<code>cpDskErrCnt</code>	ハードウェア関連のエラー数
ソフトウェアエラー数	<code>cpDskErrCnt</code>	ソフトウェア関連のエラー数
トランスポートエラー数	<code>cpDskErrCnt</code>	トランスポート関連のエラー数

テープデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの テープデバイスの属性をまとめています (表 6-70)。

表 6-70 SC 構成リーダー - テープデバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
テープ ID		テープデバイスに対する標準の命名規則に従ったテープデバイスの識別子: tape (0) など
パス		テープデバイスへの物理的なパス: /devices/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/st@4,0 など
デバイス名		テープデバイスを識別する名前: HP DDS-3 4MM DAT など
状態		このテープデバイスの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ
テープエラー数	cpTpeErrCnt	syslog ファイルに記録されたテープエラー数

ネットワークインタフェース

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのネットワークインタフェースの属性をまとめています (表 6-71)。

表 6-71 SC 構成リーダー - ネットワークインタフェース

属性	規則 (ある場合)	説明
ネットワーク ID		ネットワークインタフェースの識別子: network(hme0)、network(scman1)、 network(scman1:1) など
記号名		このネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名
Ethernet アドレス		このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス
IP アドレス		このネットワークインタフェースの IP アドレス
状態		このネットワークインタフェースの状態: OK か空白
ネットワークエラー		このネットワークインタフェースの属性に関する情報を取得できないか、エラーコードを取得したことを示すメッセージ

SC 構成リーダーのアラーム規則

この節では、SC 構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。アラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

ボード電圧規則 (scBVolt)

ボード電圧規則は、電圧が公称値の 5% の範囲外になった場合にアラームを生成します (表 6-72)。ボードの電源がオフのとき、電圧アラームは生成されません。

表 6-72 SC 構成リーダー - ボード電圧規則

電圧しきい値	アラームレベル	意味
OK		電圧は適正範囲内。
UNKNOWN	注意	電圧が不明。CP2140 システムコントローラの唯一の応答。
FAIL	重大	電圧値は適正範囲外。

対策：

- 重大アラームの場合は、購入先に連絡してください。



注意 - 電圧が公称値の 5% の範囲外になった場合は、システムコントローラを停止してください。電圧が公称値の 10% の範囲外になると、自動的に電源投入リセット (POR) が行われます。

詳細については『SPARCengine ASM Reference Manual』を参照してください。

- CP2140 の注意アラームは通常の状態です。何も行う必要はありません。CP1500 SC の注意アラームは、i2c デバイスドライバが読み込まれていないために、モジュールが電圧値を取得できないことを意味します。システムコントローラエージェントの設定を再実行して、必要な i2c デバイスドライバを読み込んでください。詳細は、15 ページの「Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定」を参照してください。

CPU 状態規則 (cpCPUStatus)

CPU 状態規則は、プロセッサが OFFLINE の場合に注意アラームを生成します (表 6-73)。

表 6-73 SC 構成リーダー - CPU 状態規則

CPU 状態	アラームレベル	意味
ONLINE		CPU はオンライン。
OFFLINE	注意	CPU はオフライン。
POWERED OFF		CPU の電源がオフ。

対策：注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。psradm(1M) で、必要に応じてプロセッサの動作状態を変更できます。

CPU 温度規則 (cpCPUTemp)

CPU 温度規則は、温度がデフォルトのしきい値を超えた場合にアラームを生成します (表 6-74)。ボードの電源がオフのとき、温度アラームは生成されません。

表 6-74 SC 構成リーダー - CPU 温度規則

温度しきい値	アラームレベル	意味
Warning	警告	温度がデフォルトのしきい値の摂氏 69 度を超えている。
	注意	温度の判定不能 (プロセッサテーブルの「温度」プロパティに -1 と表示)。
Error	重大	温度がデフォルトのしきい値の摂氏 74 度を超えている。

対策：重大アラームの場合は、サンに連絡してください。

注 - デフォルトのしきい値は、OpenBoot PROM の設定で指定します。詳細については、『SPARCengine ASM Reference Manual』を参照してください。これらのしきい値を変更した場合は、ruleinit ファイルの値も変更する必要があります。

ディスクエラー数規則 (cpDskErrCnt)

ディスクエラー数規則は、ディスクで発生したハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-75)。

表 6-75 SC 構成リーダー - ディスクエラー数規則

エラー数	アラームレベル	意味
5	注意	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 5 個を超えている。
10	警告	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 10 個を超えている。
15	重大	ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 15 個を超えている。

対策：技術者にディスクのテストを依頼してください。

テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)

テープエラー数規則は、テープドライブで発生したエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-76)。

表 6-76 SC 構成リーダー - テープエラー数規則

テープエラー数	アラームレベル	意味
10	注意	テープエラー数が 10 を超えている。
20	警告	テープエラー数が 20 を超えている。
30	重大	テープエラー数が 30 を超えている。

対策：技術者にテープドライブのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

プラットフォーム/ドメインの状態管理 モジュール

プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュールは、SMS ではコマンド行インタフェース (CLI) を使って行っていたプラットフォームとドメインの管理、システムボードの動的再構成 (DR) 操作を、Sun Management Center 3.5 の GUI だけで行うことを可能にします。

このモジュールは、Sun Management Center ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、自分で読み込む必要があります。このモジュールは、プラットフォームの詳細ウィンドウ (プラットフォーム構成リーダーが自動的に読み込まれるウィンドウ) から手動で読み込む必要があります。また、このモジュールは読み込み解除できますが、読み込んだままにしておくことを推奨します。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

図 6-4 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - PDSM (Sun Fire High-End Systems) - を表しています。

注 - PDSM モジュールが不明なボードスロットを表示することはありませんが、プラットフォーム構成リーダー (PCR) は不明なボードスロットを表示します (127 ページの「不明なコンポーネント (構成部品)」)。

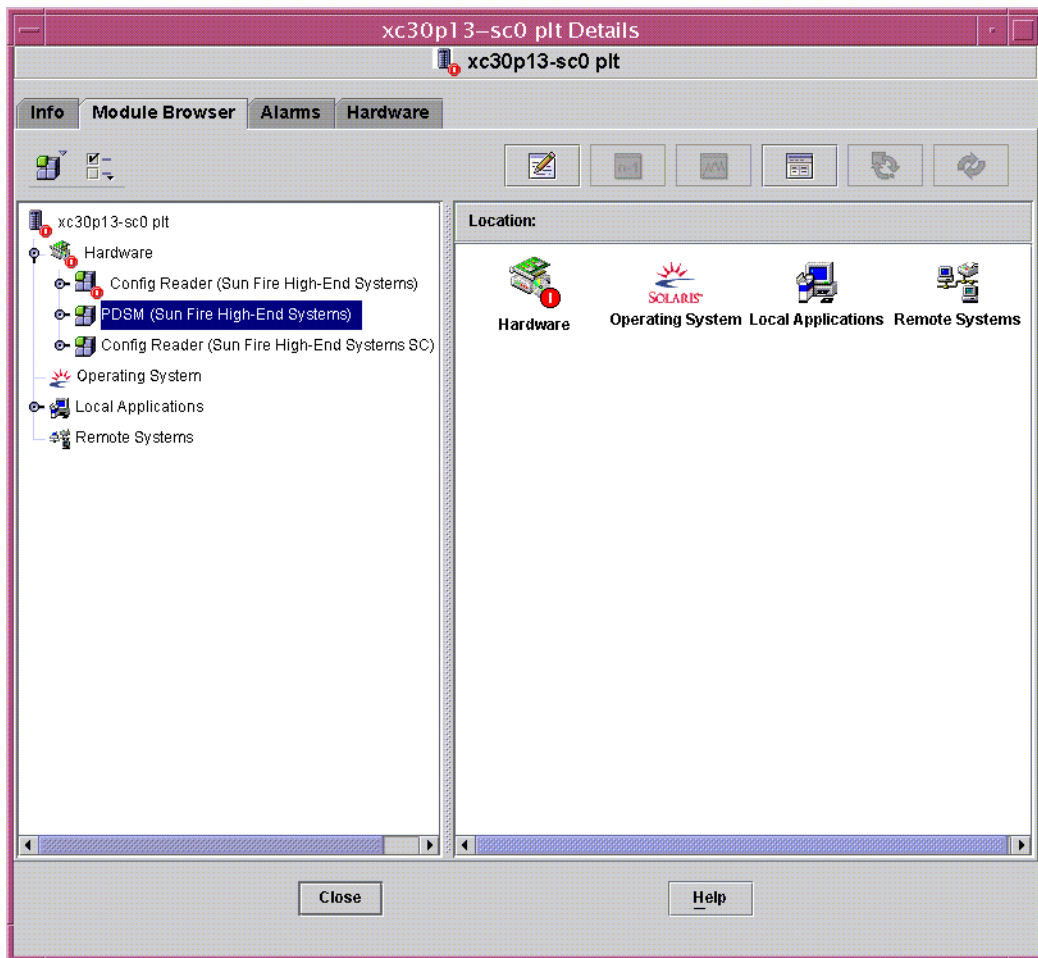


図 6-4 プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュール

PDSM モジュールには、2通りの表示があります。

- プラットフォーム表示
- ドメイン表示 (A から R のドメインごとに1つ)

プラットフォーム表示

プラットフォーム表示には、以下のテーブルがあります。

- プラットフォーム情報
- プラットフォームのスロット 0 のボード
- プラットフォームのスロット 1 のボード

- プラットフォームの空きスロット
- プラットフォームの拡張ボード
- 電源装置
- ファントレイ

プラットフォーム情報

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォーム情報の属性をまとめています (表 6-77)。

表 6-77 PDSM モジュール - プラットフォーム情報

属性	規則 (ある場合)	説明
プラットフォーム ID		プラットフォームの識別子
プラットフォームタイプ		プラットフォームのタイプ
最大ドメイン数		最大ドメイン数 (18)
アクティブなドメイン数		この Sun Fire ハイエンドシステム上のアクティブなドメイン数
SC の電源		システムコントローラの電源状態 : ON か OFF

プラットフォームのスロット 0 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームのスロット 0 のボードの属性をまとめています (表 6-78)。

表 6-78 PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 0 のボード

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		FRU ID(スロット ID) 形式のスロット 0 のボードの識別子 : CPU (SBx) か V3CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。
ボードの状態		スロット 0 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 0 のボードの電源の状態 : ON か OFF

表 6-78 PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 0 のボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
テストの状態		CPU のテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 0 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 0 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

プラットフォームのスロット 1 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームのスロット 1 のボードの属性をまとめています (表 6-79)。

表 6-79 PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 1 のボード

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		FRU ID(スロット ID) 形式のスロット 1 のボードの識別子 : HPCI (IOx) か MCPU (IOx)、WPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		スロット 1 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 1 のボードの電源の状態 : ON か OFF
テストの状態		ボードのテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 1 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 1 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

プラットフォームの空きスロット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームの空きスロットの属性をまとめています (表 6-80)。

表 6-80 PDSM モジュール - プラットフォームの空きスロット

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		使用可能なボードの識別子: 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		使用可能なボードの状態: FREE か ASSIGNED
電源の状態		使用可能なボードの電源状態: OFF か --
テストの状態		使用可能なボードのテスト状態: UNKNOWN か --
テストレベル		このボードに対する POST テストレベル
ドメイン ID		使用可能なボードに割り当てられているドメインの識別子: A ~ R か UNASSIGNED

拡張ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供する拡張ボードの属性をまとめています (表 6-81)。

表 6-81 PDSM モジュール - 拡張ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
EXB ID		FRU ID(スロット ID) 形式の拡張ボードの識別子: EXB (EXx) の形式で、x は拡張ボード番号 (0 ~ 17)
電源の状態	scBPower	拡張ボードの電源状態: ON か OFF
Slot 0 (スロット 1)		スロット 0 を占有しているシステムボードの識別子: CPU (SBx) か V3CPU (SBx) の形式、または NOT_PRESENT で、x はボードがあるセンターブレインスロットの番号 (0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。
Slot 1 (スロット 1)		スロット 1 を占有しているシステムボードの識別子: HPCI (IOx), MCPU (IOx) の形式か NOT_PRESENT で、x は 0 ~ 17

電源装置

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームの電源装置の属性をまとめています (表 6-82)。

表 6-82 PDSM モジュール - 電源装置

属性	規則 (ある場合)	説明
電源装置 ID		FRU ID(スロット ID) 形式の電源装置の識別子 : PS (PSx) の形式で、x は電源装置番号 (0 ~ 5)
電源の状態		DC 0 か DC 1 のいずれかがオンの場合 ON。DC 0 および DC 1 の両方がオフの場合 OFF。

ファントレー

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するファントレーの属性をまとめています (表 6-83)。

表 6-83 PDSM モジュール - ファントレー

属性	規則 (ある場合)	説明
ファントレー ID		FRU ID(スロット ID) 形式のファントレーの識別子 : FT (FTx) の形式で、x はファントレー番号 (0 ~ 7)
電源の状態		ファントレーの電源状態 : ON か OFF
ファンの速度		ファンの速度 : OFF、NORMAL、HIGH のいずれか

ドメイン X 表示

ドメイン X 表示 (X は A から R の範囲のドメイン識別子) には、そのドメインに関する次のテーブルがあります。

- ドメイン X の情報
- ドメイン X のスロット 0 のボード
- ドメイン X のスロット 1 のボード
- ドメイン X の空きスロット

ドメイン X の情報

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X 情報の属性をまとめています (表 6-84)。

表 6-84 PDSM モジュール - ドメイン X 情報

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの識別子 : A ~ R
ドメインのタグ		ドメインのタグ : domainX の形式で、X は A ~ R
ドメインの状態		SMS の showplatform コマンドから報告されたドメインの状態 : Running Solaris、Powered Off など 詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の showplatform(1M) を参照。
Solaris ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードのホスト名
キースイッチ		仮想キースイッチの位置 : ON、STANDBY、OFF、DIAG、SECURE、or UNKNOWN のいずれか
ドメイン ACL		ドメインのアクセス制御リスト - コンマ区切りのリスト : 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
主入出力ボード		ドメインとシステムコントローラ間の通信に使用されている主入出力ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
内部 Ethernet ボード		アクティブな Ethernet コントローラがある入出力ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)

ドメイン X のスロット 0 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X スロット 0 のボードの属性をまとめています (表 6-85)。

表 6-85 PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 0 のボード

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		スロット 0 のボードの識別子 : CPU (SB x) か V3CPU (SB x) の形式で、 x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。
ボードの状態		スロット 0 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 0 のボードの電源の状態 : ON か OFF
テストの状態		CPU のテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 0 のボードに対する POST テストのレベル
ドメイン ID		スロット 0 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED

ドメイン X のスロット 1 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X スロット 1 のボードの属性をまとめています (表 6-86)。

表 6-86 PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 1 のボード

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		スロット 1 のボードの識別子 : HPCI (IO x) か MCPU (IO x)、WPCI (IO x) の形式で、 x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)
ボードの状態		スロット 1 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか
電源の状態		スロット 1 のボードの電源の状態 : ON か OFF

表 6-86 PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 1 のボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
テストの状態		CPU のテスト状態： UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、 PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか
テストレベル		スロット 1 のボードに対する POST テストのレ ベル
ドメイン ID		スロット 1 内のこのボードに割り当てられてい るドメインの識別子：A ~ R か UNASSIGNED

ドメイン X の空きスロット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X の
空きスロットの属性をまとめています (表 6-87)。

表 6-87 PDSM モジュール - ドメイン X の空きスロット

属性	規則 (ある場合)	説明
ボード ID		使用可能なボードの識別子：入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式 で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)。
ボードの状態		使用可能なボードの状態：FREE か ASSIGNED
電源の状態		使用可能なボードの電源状態：OFF か --
テストの状態		使用可能なボードのテスト状態：UNKNOWN か --
テストレベル		このボードに対する POST テストレベル
ドメイン ID		使用可能なボードに割り当てられているドメイ ンの識別子：A ~ R か UNASSIGNED

動的再構成 (DR) モジュール

動的再構成 (DR) モジュールの詳細は、第 8 章を参照してください。

SC 監視モジュール

SC 監視モジュールは、アクティブまたはメインのシステムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。Sun Fire ハイエンドシステムの SC 監視モジュールは、システムコントローラにエージェントをインストールしたときに自動的に読み込まれ、必要ならば、後で読み込み解除できます。

図 6-5 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ローカルアプリケーション」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - SC 監視 (Sun Fire High-End Systems) - を表しています。

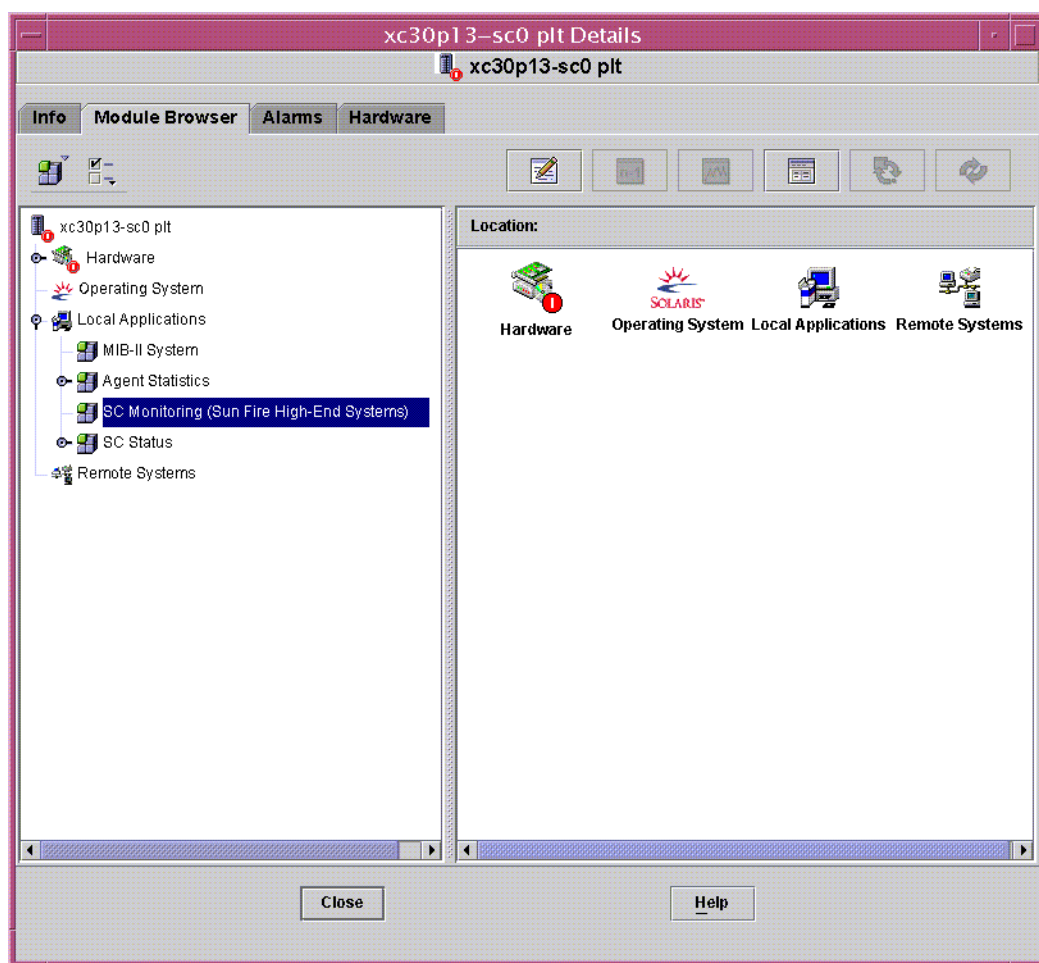


図 6-5 SC 監視モジュール

SMS デーモンの多くは Sun Fire ハイエンドシステムの動作にきわめて重要です。SC 監視モジュールは、SMS デーモンに問題が発生したとき (再起動を含む)、割り当てられている優先順位に従ってアラームを生成します。SMS デーモンについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。現在のプロセスの状態の表示については、ps(1) コマンドを参照してください。

このモジュールは、以下の SMS デーモンを監視します。

- Capacity-on-Demand デーモン
- ドメイン構成管理 (dca) - ドメインごとに 1 つ
- ドメインサービス監視デーモン (dsmd)
- ドメイン X サーバ (x/dxs, x は a ~ r の範囲)
- イベントフロントエンドデーモン (efe)
- Error and Fault handling デーモン (efhd)
- イベントログアクセスデーモン (elad)
- イベントレポートデーモン (erd)
- 環境状態監視デーモン (esmd)
- フェイルオーバー管理デーモン (fomd)
- FRU アクセスデーモン (frad)
- ハードウェアアクセスデーモン (hwad)
- キー管理デーモン (kmd)
- 管理ネットワークデーモン (mand)
- メッセージログ記録デーモン (mld)
- OpenBoot PROM サポートデーモン (osd)
- プラットフォーム構成デーモン (pcd)
- SMS 起動デーモン (ssd)
- タスクマネージャデーモン (tmd)

SC 監視属性 - SC デーモンプロセス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC デーモンプロセスの属性をまとめています (表 6-88)。

表 6-88 SC デーモンプロセス

属性	規則 (ある場合)	説明
コマンド		このデーモンのコマンド名
プロセス ID		このデーモンのプロセス識別番号
親プロセス ID		このデーモンの親のプロセス識別番号
ユーザ ID		このデーモンが管理下にあるユーザ識別子
ユーザ名		ユーザ ID に関連付けられているユーザ名

表 6-88 SC デーモンプロセス (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
実効ユーザ ID		実行ユーザ識別子
グループ ID		ユーザのグループ識別子
実効グループ ID		ユーザの実効グループ識別子
セッション ID		セッションリーダーのプロセス識別子
プロセスグループ ID		プロセスグループリーダーのプロセス識別子
TTY		このデーモン用の制御端末 (つねに空白)
開始時刻		プロセスが起動された時刻 (24 時間以内の場合) か 日付け (24 時間を超える場合)
CPU 使用時間		このプロセスが動作している CPU 時間
状態		デーモンの状態: 動作中のとき R、休眠中のとき S など
待ちチャンネル		プロセスが休眠しているイベントのアドレス。空白の場合、プロセスは動作中。
スケジューリングクラス		このプロセスのスケジューリングクラス名 (使用可能な 3 つのスケジューリングアルゴリズムのいずれかを示す): <ul style="list-style-type: none"> • SYS - カーネルが所有するシステムプロセス (最高の優先順位) • RT - リアルタイムプロセス (スケジューラによって変更されることのない一定の優先順位のプロセス) • TS - タイムシェアリングプロセス (大量の CPU 時間を消費する場合は低い優先順位、大量の CPU 時間を消費しない場合は高い優先順位が動的に割り当てられるプロセス)
アドレス		このプロセスのメモリアドレス
サイズ		スワップ可能なプロセスのイメージのメインメモリ上のサイズ (ページ単位)
優先順位		プロセスの優先順位
nice		プロセスのシステムスケジューリング優先順位の 10 進値 (該当する場合)
CPU 使用時間率		使用可能な CPU 時間に対する割合で表した、このデーモンの現在の CPU 使用量
メモリ使用率		マシンの全物理メモリに対する割合で表した、このデーモンの現在のメモリ使用量
コマンド行	rDownProc	このデーモンの起動に使用された完全なコマンド文字列

SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)

この節では、SC 監視モジュールのアラーム規則について説明します。このアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

プロセス停止規則は、dca または dxs 以外の SMS デーモンが停止した場合に重大アラームを生成します。SC 監視モジュールテーブルの「コマンド行」欄が -- の場合、プロセスは停止しているとみなされます。

対策：システム管理者に連絡してください。

SC 状態モジュール

SC 状態モジュールは、システムコントローラがメインまたは予備のどちらの状態であるかを監視し、どのシステムコントローラがアクティブ、すなわちメインのシステムコントローラであるかを簡単に判定できます。システムコントローラの状態についての詳細は、SC 構成リーダーのテーブルを参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムの SC 状態モジュールは、システムコントローラにエージェントをインストールしたときに自動的に読み込まれ、必要ならば、後で読み込み解除できます。

このモジュールを見つけるには、最初に SC の詳細ウィンドウを開きます。SC の詳細ウィンドウの表示の詳細は、160 ページの「SC 構成リーダーモジュール」を参照してください。

図 6-6 は、ホスト (SC) の詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコンを表しています。図 6-6 は「SC Status」アイコンの下にある「SC Information」アイコンを表しており、このアイコンをクリックすると、SC 情報テーブルを見ることができます。

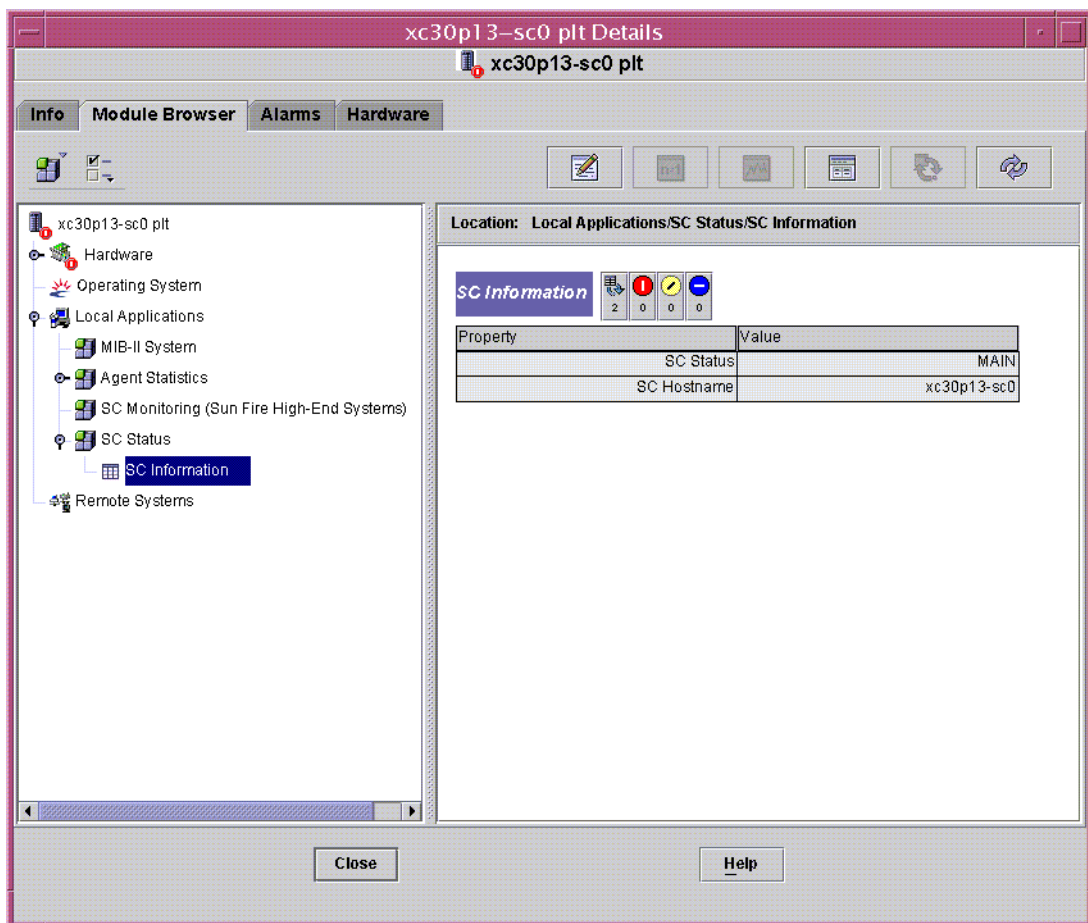


図 6-6 SC 情報 (MAIN の状態であることが示されている)

SC 状態属性

SC 状態属性値は、以下の 3 つのうちのいずれかです。

- MAIN - このシステムコントローラはメインとして機能している (図 6-6)。
- SPARE - このシステムコントローラは予備として機能している。
- UNKNOWN - このシステムコントローラの役割は不明です。

SC 状態のアラーム規則 (rscstatus)

SC 状態アラーム規則は、システムコントローラの状態が MAIN 以外の場合に使用不可アラームを生成します。

プラットフォームおよびドメインログファイルの表示

エラーの診断のためにプラットフォームおよびドメインログファイルを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-run ccat /var/opt/SUNWsymon/log/platform.log
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-run ccat /var/opt/SUNWsymon/log/agent.log
```

システムコントローラからのプラットフォーム/ドメインの状態管理

この章では、Sun Management Center 3.5 コンソールと PDSM モジュールを使って Sun Fire ハイエンドシステムに対する動的再構成 (DR) 操作とその他の管理操作を行う方法を説明します。DR 操作とは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインに対するボードの追加や、ドメインからのボードの削除、ドメイン間のボードの移動などの操作のことです。こうした DR 操作の一部または他の操作の一部として、ボードのテストや ACL の更新、ボードの電源のオンまたはオフなどのその他の管理操作を行うことができます。

Sun Fire ハイエンドシステム専用の 2 つのモジュールには、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとドメインを管理するための機能が含まれています。

- プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) — システムコントローラ上で動作するモジュールです (この章の後の節で説明)。
- 動的再構成 (DR) - Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン上で動作するモジュールです。このモジュールの使用方法については、第 8 章を参照してください。

Sun Management Center コンソールからの PDSM 監視および管理機能には、1 つのプラットフォーム表示と最高 18 個のドメイン表示が用意されています。このモジュールがある場所と表示可能なテーブルについては、170 ページの「プラットフォーム/ドメインの状態管理モジュール」を参照してください。

前提条件

Sun Management Center 3.5 の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解する必要があります。Sun Fire ハイエンドシステムにおける DR 操作については、以下のマニュアルを参照してください。

- 『System Management Services (SMS) 1.4.1 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - この章で取り上げる PDSM モジュールの基礎となる操作について解説
- 『Sun Fire High-End Systems Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーマニュアル』 - 第 8 章で取り上げている、ドメイン用 DR モジュールの基礎となる操作について解説
- `cfgadm` のマニュアルページ - 第 8 章で取り上げている ドメイン DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説

DR 操作に関する一般的な事項と判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。

PDSM がサポートする SMS のコマンド

プラットフォーム/ドメインの状態管理モジュールは、System Management Services (SMS) のコマンド行インタフェース (CLI) コマンドの一部をサポートしています。言い換えれば、SMS の CLI コマンドを利用しなくても、Sun Management Center のグラフィカルユーザインタフェース (GUI) を使って同様にシステムコンポーネントを監視・管理することができます。Refer to the SMS コマンドについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』を参照してください。

表 7-1 は、PDSM がサポートしている SMS の CLI コマンドの一覧です。

表 7-1 PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド

SMS の CLI コマンド	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
<code>addboard</code>	ボードを追加	ドメインにボードを割り当て、接続、構成します。
<code>addtag</code>	タグを追加	ドメインにドメイン名 (タグ) を割り当てます。
<code>deleteboard</code>	ボードを削除	ドメインからボードを構成解除、切断、割り当て解除します。
<code>deletetag</code>	タグを削除	ドメインに割り当てられているドメイン (タグ) を削除します。
<code>moveboard</code>	ボードを移動	別のドメインにボードを移動します。
<code>poweroff</code>	電源オフ	ボードの電源をオフにします。

表 7-1 PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド (続き)

SMS の CLI コマンド	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
poweron	電源オン	ボードの電源をオンにします。
rcfgadm -t	ボードのテスト	ボードをテスト
reset	ドメインのリセット	指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信します。
setkeyswitch	キースイッチ	仮想キースイッチの位置を変更します。
setupplatform -a -r	アクセス制御リスト	既存の ACL に対するボードの追加と削除

システムコントローラからのプラットフォーム管理操作

この節では、システムコントローラからプラットフォーム全体の管理操作を行う方法を説明します。具体的には、以下の DR 操作手順を説明します。

- 「ボードの追加」
- 「ボードの削除」
- 「ボードの移動」

またこの節では、以下の DR 操作手順も説明します。

- 「ボードまたは周辺装置の電源オン」
- 「ボードまたは周辺装置の電源オフ」
- 状態の表示

注 – DR 操作を中止しても、必ずしも処理が中止されることがあります。「中止」ボタンをクリックするタイミングによっては、DR 処理が中止できないところまで進んでしまっているためです。DR 操作の中止を選択すると、その操作に関するプロセス ID が終了しますが、そのことによって、コンポーネントの以前の状態が維持されることが保証されるわけではありません。

プラットフォーム情報の表示

システムコントローラからプラットフォーム全体の管理操作を行うには、「ハードウェア」タブにある PDSM モジュールのプラットフォーム表示関係のテーブルを使用します。プラットフォーム表示のテーブルについての詳細は、171 ページの「プラットフォーム表示」を参照してください。

ボードの追加

ボードの追加機能は、プラットフォーム上のドメインにボードを割り当て、接続、または構成します。ボードの追加についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `addboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを追加する

注 – 空きスロットのみ割り当てることができます。

1. `platadmn` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボード、あるいは空きスロットのテーブル内の、追加するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを追加」をクリックします。
「ボードの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ドロップダウンリストボックスからボードの追加先のドメインを選択します。
5. 追加後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを追加」ボタンをクリックします。
パネルにボードの追加処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの削除

ボードの削除機能は、プラットフォーム上のドメインからシステムボードを構成解除、切断、または割り当て解除します。ボードの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `deleteboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを削除する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、削除するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを削除」をクリックします。
「ボードの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認します。
5. 削除後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを削除」ボタンをクリックします。
パネルにボードの削除処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの移動

ボードの移動機能は、プラットフォーム上の別のドメインにボードを移動します。移動するボードは、関係する両方のドメインの ACL に登録されている必要があります。ボードの移動の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `moveboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを移動する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。

2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、移動するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを移動」をクリックします。
「ボードの移動」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ドロップダウンリストボックスから、ボードの移動先のドメインを選択します。
5. 移動後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを移動」ボタンをクリックします。
パネルにボードの移動処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードまたは周辺装置の電源オン

電源オン機能は、プラットフォーム上のボード、電源装置、ファントレーの電源をオンにします。ボードまたは周辺装置の電源オン操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の poweron(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードまたは周辺装置の電源をオンにする

1. platoper グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. 対応するプラットフォーム表示テーブル内の、電源をオンにするボード、電源装置、またはファントレーを右クリックします。
操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。
「電源オン」パネルが表示されます。
4. 適切なボードまたは周辺装置を選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードまたは周辺装置の電源オフ

電源オフ機能は、プラットフォーム上のボード、電源装置、ファントレーの電源をオフにします。Refer to the ボードまたはボードの電源オフ操作の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の poweroff(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードまたは周辺装置の電源をオフにする

1. platoper グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. 対応するプラットフォーム表示テーブル内の、電源をオフにするボード、電源装置、またはファントレーを右クリックします。
操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
「電源オフ」パネルが表示されます。
4. 適切なボードまたは周辺装置を選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。コマンドがエラーで停止した場合は、エラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されません。

注 – 許可されていない DR 操作を行おうとすると、状態メッセージが返されます。今回のリリースにおける DR 操作の制限事項については、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。

▼ 状態を表示する

1. platadm または platoper グループのメンバーとしてログインします。

2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットを右クリックします。

ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。

3. メニューにある「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が示されます (コマンドが実行されている場合)。最新の状態が表示されるまでに、少し時間 (最長で 1 分) がかかることがあります。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、223 ページの図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、223 ページの図 8-7 に示すようなメッセージが表示されます。

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

システムコントローラからのドメイン管理操作

この節では、システムコントローラから Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン管理操作を行う方法を説明します。具体的には、以下の DR 操作手順を説明します。

- 「ボードの追加」
- 「ボードの削除」
- 「ボードの移動」

またこの節では、以下の DR 操作手順も説明します。

- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 「タグの追加」
- 「タグの削除」
- 「キースイッチ位置の変更」
- アクセス制御リスト (ACL) の更新
- ドメインのリセット
- 状態の表示

システムコントローラからのドメイン情報の表示

システムコントローラから Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン管理操作を行うには、「ハードウェア」タブにある PDSM モジュールのドメイン表示関係のテーブルを使用します。ドメイン表示のテーブルについての詳細は、175 ページの「ドメイン X 表示」を参照してください。

ボードの追加

ボードの追加機能は、特定のドメインにボードを追加します。ボードの追加についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `addboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを追加する

1. `platadm` か `dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。`x` は追加するボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン `X` のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、追加するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを追加」をクリックします。
「ボードの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ボードの追加先のドメインを選択します。
5. 追加後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを追加」ボタンをクリックします。
パネルにボードの追加処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの削除

ボードの削除機能は、特定のドメインからシステムボードを構成解除、切断、または割り当て解除します。ボードの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の deleteboard(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを削除する

1. platadmн か dmnxadmn、dmnxrcfg グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。x は、削除するボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、削除するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードを削除」をクリックします。
「ボードの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認します。
5. 削除後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。
6. 「ボードを削除」ボタンをクリックします。
パネルにボードの削除処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの移動

ボードの移動機能は、別のドメインにボードを移動します。移動するボードは、関係する両方のドメインの ACL に登録されている必要があります。ボードの移動の詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の moveboard(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを移動する

1. Sun Management Center コンソールにログインします。

platadmн グループのメンバーとしてログインした場合は、追加のアクセス権限は必要ありません。dmnxadmн または dmnxrcfg グループ (x はドメイン) のメンバーとしてログインした場合は、操作に関係する両方のドメインに対するアクセス権が必要です。

2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、移動するボードを右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「ボードを移動」をクリックします。

「ボードの移動」パネルが表示されます。

4. 適切なボードを選択したことを確認して、ボードの移動先のドメインを選択します。

5. 移動後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンをクリックします。

6. 「ボードを移動」ボタンをクリックします。

パネルにボードの移動処理の進行状況が表示されます。

7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。

パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、特定のドメインにあるボードの電源をオンにします。ボードの電源オン操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の poweron(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードの電源をオンにする

ボードの電源をオンにするには、そのボードの電源状態が OFF である必要があります。

1. platadmн か platoper、dmnxadmн、dmnxrcfg グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、電源をオンにするボードが存在するドメインの ID です。

2. 適切なドメイン X 表示のテーブル内の、電源をオンにするボードを右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「電源オン」をクリックします。
「電源オン」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、特定のドメインにあるボードの電源をオフにします。ボードの電源オフ操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `poweroff(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードの電源をオフにする

ボードの電源をオフにするには、そのボードの電源状態が ON である必要があります。

1. `platadm` か `platoper`、`dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、電源をオフにするボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、電源をオフにするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
「電源オフ」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードのテスト

ボードのテスト機能は、特定のドメイン内のボードをテストします。ボードのテストについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `rcfgadm(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードをテストする

1. `dmnxadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、テストするボードがあるドメインの ID です。

2. ドメイン X 表示テーブル内の、テストするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ボードのテスト」をクリックします。
「ボードのテスト」パネルが表示されます。
4. テストオプション横のラジオボタンをクリックします。
5. テストを強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスをクリックします。このオプションを選択すると、メニューに注意書きが表示されます。テストを強制的に行わない場合は、必ずチェックボックスを空白にしておいてください。
6. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認して、「テスト開始」ボタンをクリックします。
パネルにボードのテスト処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ドメインのタグの追加/変更

ドメインのタグの追加/変更機能は、ドメインに指定されたドメインタグ名を追加するか、ドメインタグ名を変更します。ドメインには、名前タグを1つだけ割り当てることができ、そのタグはすべてのドメイン間で一意である必要があります。ドメインタグの追加または変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `addtag(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインのタグを追加または変更する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、タグを追加または変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「タグを追加」をクリックします。
「タグの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なドメインを選択したことを確認して、「新規タグの設定」のテキストボックスに新しいドメインタグ名を入力します。

5. 「了解」 ボタンをクリックします。

タグの削除

タグの削除機能は、ドメインに割り当てられているタグ名を削除します。タグの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `deletetag(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインのタグを削除する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、タグを削除するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「タグを削除」をクリックします。
「タグの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なドメインを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

キースイッチ位置の変更

キースイッチ位置の変更機能は、ドメインの仮想キースイッチ位置を以下のいずれかの値に変更します。

- オン
- オフ
- 診断
- 保護
- スタンバイ

仮想キースイッチとそれぞれの位置についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `setkeyswitch(1M)` の説明を参照してください。

▼ キースイッチ位置を変更する

1. `dmnxadmin` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、キースイッチ位置を変更するドメインの ID です。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、キースイッチ位置を変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「キースイッチ」をクリックします。
「キースイッチ」パネルが表示されます。
4. 設定する位置のラジオボタンをクリックします。



注意 – キースイッチ位置をオンからオフに直接変更しようとする、エラーメッセージが返されることもなく、単にその操作が失敗します。キースイッチ位置をオンからオフに変更するには、まずスタンバイ位置に変更します。つまり、オンからスタンバイに変更し、それからオフに変更します。

5. 「了解」ボタンをクリックします。

アクセス制御リスト (ACL) の設定/変更

アクセス制御リストの設定/変更機能は、特定のドメインのアクセス制御リストを設定または変更します。デフォルトではドメインの ACL リストは空です。このため、最初に ACL リストを設定して、ドメインに割り当てるすべてのボードを追加する必要があります。ドメインの ACL リストに登録されていないボードをドメインに割り当てることはできません。ACL の設定/変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `setupplatform(1M)` の説明を参照してください。

注 – Sun Management Center 3.5 GUI のアクセス制御リストは、Systems Management Services (SMS) の `setupplatform(1M)` コマンドで Available Component List (使用可能な構成要素リスト) と呼ばれているリストと同じものです。

▼ アクセス制御リストを設定または変更する

1. `platadmin` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。

2. ドメイン X 情報テーブル内の、ACL を設定または変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「アクセス制御リスト」をクリックします。
「アクセス制御リスト」パネルが表示されます。
4. ドメインの ACL にスロットを追加する場合は、左の「追加先の ACL リスト:」リストボックスからスロットを選択し、「追加」をクリックします。ドメインの ACL からスロットを削除する場合は、右の「ACL 内のスロット:」リストボックスからスロットを選択し、「削除」をクリックします。
5. ACL リストの内容を確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ドメインのリセット

ドメインのリセット機能は、特定のドメインのすべての CPU ポートのリセットして、ドメインのハードウェアをクリーンな状態に戻します。ドメインのリセットについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `reset(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインをリセットする

ドメインをリセットするには、仮想キースイッチが `secure` (保護) 以外の位置である必要があります。キースイッチが `secure` 位置の状態ではドメインをリセットしようとすると、エラーメッセージが返されます。キースイッチ位置の変更方法については、198 ページの「キースイッチ位置の変更」を参照してください。

1. `dmmxadmin` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。`x` は、リセットするドメインの ID です。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、リセットするドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「ドメインのリセット」をクリックします。
「ドメインのリセット」パネルが表示されます。
4. ドメインをリセットしてもよいことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。コマンドがエラーで停止した場合は、エラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されません。

注 – 許可されていない DR 操作を行おうとすると、状態メッセージが返されます。今回のリリースにおける DR 操作の制限事項については、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。

▼ 状態を表示する

1. platadmн か platoper、dmnxadmн、dmnxrcfg グループのメンバーとしてログインします。 x は、状態を表示するシステムボードまたはスロットが存在するドメインの ID です。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットを右クリックします。
ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。
3. メニューにある「状態の表示」をクリックします。
「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が示されます (コマンドが実行されている場合)。最新の状態が表示されるまでに、少し時間 (最長で 1 分) がかかることがあります。
このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、223 ページの図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。
構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、223 ページの図 8-7 に示すようなメッセージが表示されます。
4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

DR 操作に失敗した場合の対処方法

動的再構成 (DR) 操作に失敗する原因はいくつか考えられます。

- ユーザがその操作を行う権限を持っていない。多くの場合、操作はコンソールレベルでは行うことができません。しかし、コンソールに問い合わせないと操作権限を判定できないケース (特にボードの移動操作) もあります。この場合は、ユーザはその操作を行うことができますが、「Generic data request error」というエラーで、操作は失敗します。
- **Sun Management Center** サーバとエージェント間のグループ設定の矛盾、あるいは 16 個のグループ数制限を超えているという問題があるために、ユーザがその操作に対する適切な権限を持っていない。この場合は、「Insufficient security privilege」または「Not writable error」というエラーで、操作は失敗します。セキュリティアクセス権に関する詳細は、第 3 章を参照してください。具体的には、55 ページの「1 つのユーザ ID に対するグループ ID 数の制限」にグループ数制限 (16) に関する詳しい説明があります。
- プラットフォームエージェントとのネットワーク接続が停止している。この場合は、「Timeout error」というエラーで操作は失敗します。

「Timeout error」以外のエラーメッセージが返された場合は、以下のファイルを参照して、エラーの詳細情報を入手してください。

- platform.log および /var/opt/SUNWsymon/log の pdsm.log
- /tmp/pdsm.log ファイル
- コンソールログファイル
- /var/opt/SUNWSMS/SMS *version*/adm/platform/messages (SMS *version* は、SMS1.4.1 などの動作中の SMS のバージョン)

ドメインからの動的再構成 (DR)

この章では、Sun Management Center 3.5 のコンソールと動的再構成モジュールを使って Sun Fire のハイエンドシステムおよびミッドレンジシステムのドメインから動的再構成 (DR) 操作を行う方法を説明します。DR 操作は、Sun Fire ドメインに対するボードのアタッチ、ドメインからのボードのデタッチ、Sun Fire ドメインへのボードの構成などの操作です。DR 操作やその他の操作の一部として、ボードのテスト、ボードの電源のオンまたはオフなどの、その他の管理操作を行うことができます。

前提条件

Sun Management Center 3.5 の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解している必要があります。Sun Fire システムにおける DR 操作については、以下のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire ハイエンドシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - Sun Fire ハイエンドシステムに対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。Sun Fire ハイエンドシステムでの DR 操作に関する一般的な注意事項と判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。
- 『Sun Fire ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - Sun Fire ミッドレンジシステムに対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。
- cfigadm(1M) のマニュアルページ - DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説しています。

DR モジュール

DR モジュールでは、ドメインの表に示されている接続点を通じて、ドメインに対する DR 操作を行うことができます。これらの操作は、**Sun Management Center 3.5** のコンソールを使用してのみ、**cfgadm(1M)** コマンドのときと同じ方法で行うことができます。このモジュールは、**Sun Fire** のハイエンドシステムおよびミッドレンジシステムで機能します。

このモジュールは、**Sun Management Center** ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、自分で読み込む必要があります。また、このモジュールは、必要に応じて読み込み解除することができます。**Sun Management Center** のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『**Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド**』を参照してください。

図 8-1 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示される、このモジュールのアイコン (**DR Sun Fire** ハイエンドシステムおよびミッドレンジシステム) を表しています。図 8-1 はまた、**DR** データテーブル例と使用可能な **DR** コマンドも示しています。

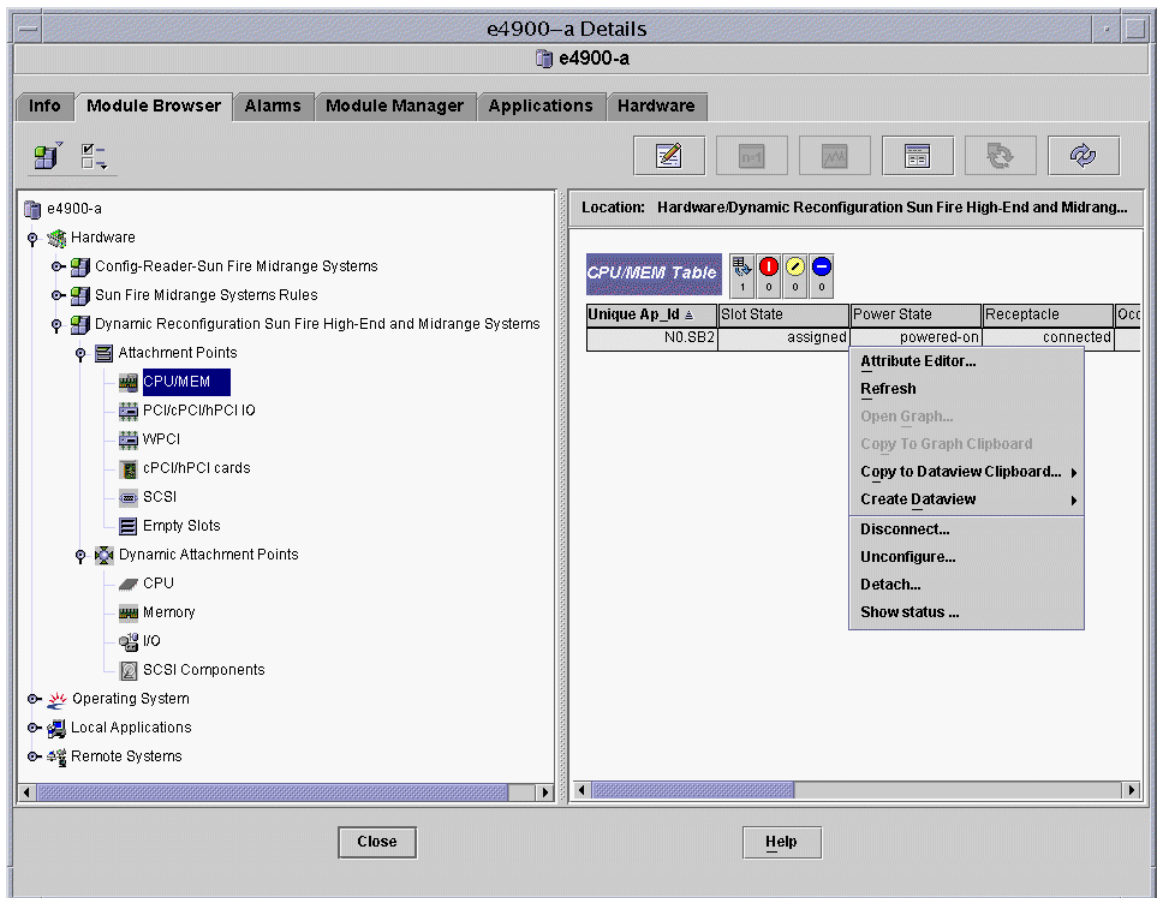


図 8-1 DR の機能

DR の属性

動的に再構成可能なボードまたはデバイスの最新の状態は、詳細ウィンドウの右側にある DR 関係のデータテーブルを使用して調べます。

DR モジュールが提供するテーブルは、以下の 2 つのセクションに分かれています。

- 接続点 - システムボードや入出力ボードなどの大きなコンポーネントの単一接続点
- 動的接続点 - CPU モジュール、DIMM、SCSI ドライブなどの、個別デバイスとコンポーネントの動的接続点

接続点

接続点はボードとそのスロットの総称です。接続点テーブルは、以下のタイプのボードスロットに関する情報を提供します。

- CPU/メモリ
- PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボード
- WPCI
- cPCI/hPCI カード
- SCSI
- 空きスロット
- MaxCPU (Sun Fire ハイエンドシステムのみ)

CPU/メモリ

表 8-1 は、CPU/メモリボードの接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-1 CPU/メモリボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。SBx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ: CPU
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。 powered-on、assigned など

表 8-1 CPU/メモリボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。/devices/pseudo/dr@0:SBx の形式で、x はボードが装着されているセンターブレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボード

表 8-2 は、PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire ミッドレンジシステムの場合、このテーブルには、PCI、PCI+、および cPCI 入出力ボードの属性のみ示されます。Sun Fire ハイエンドシステムの場合は、hPCI および hPCI+ 入出力カードの属性のみ表示されます。

表 8-2 PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。IOx の形式で、x はボードが装着されているセンターブレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードの種別。PCI_I/O_Boa、PCI+_I/O_Bo、HPCI、HPCI+ など
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など

表 8-2 PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

WPCI

表 8-3 は、WPCI ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 8-3 WPCI ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ: WPCI
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など

表 8-3 WPCI ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、x はボードが装着されているセンターブレイクのスロットの番号 (0 ~ 17)

cPCI/hPCI カード

次の表は、cPCI/hPCI カードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-4)。Sun Fire ミッドレンジシステムの場合は、hPCI カードの属性のみ表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムの場合は、hPCI カードの属性のみ表示されます。

注 - SCSI カードは、システムによって cPCI/hPCI カードともみなされます。このため、構成済みの SCSI カードは、DR モジュール内の 2 つのにテーブル (SCSI および cPCI/hPCI) に現れます。SCSI カードを構成解除すると、その時点でカードの種類が不明になるため、表示されるのは cPCI/hPCI テーブルだけになります。

表 8-4 cPCI/hPCI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pci_pci0:e05b1slot0、 pcisch2:e04b1slot3 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、 empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		タイプ。pci-pci/hp など
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		一般的な情報。unknown など

表 8-4 cPCI/hPCI の接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,7000000:e04b1slot3 など

SCSI

表 8-5 は、SCSI の接続点属性を簡単にまとめています。

注 - この SCSI テーブルから SCSI カードを構成解除すると、テーブルからそのカードエントリが消えます。ただし、SCSI カードはシステムによって cPCI/hPCI カードともみなさるため、構成済みの SCSI カードは、DR モジュール内の 2 つのテーブル (SCSI および cPCI/hPCI) に現れます。SCSI カードを構成解除すると、その時点でカードの種別が不明になるため、表示されるのは cPCI/hPCI テーブルだけになります。

表 8-5 SCSI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch3:e04b1slot2
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		タイプ。scsi/hp など
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このコンポーネントの一般的な情報。unknown など

表 8-5 SCSI の接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,600000:e04b1slot2 など

空きスロット

表 8-6 は、空きスロットの接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-6 空きスロットの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch0:e17b1slot1 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、 empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。unknown
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。assigned または unknown
構成日時		このスロットがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,6000000:e17b1slot1 など

MaxCPU

表 8-7 は、MaxCPU ボードの接続点属性を簡単にまとめています。この属性テーブルは、Sun Fire ハイエンドシステムの場合にだけ表示されます。

表 8-7 Sun Fire ハイエンドシステムの MaxCPU ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた MaxCPU ボードの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ : MCPU
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		MaxCPU ボードの物理的な接続点 ID

動的接続点

動的接続点とは、システムボード上の、CPU、メモリ、入出力デバイスなどのコンポーネントを意味します。こうした動的接続点は、DR ドライバによって作成されます。DR ドライバについての詳細は、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の dr(7D) マニュアルページを参照してください。動的接続点テーブルは、以下のタイプのコンポーネントに関する情報を提供します。

- CPU
- メモリ
- 入出力
- SCSI コンポーネント

CPU コンポーネント

表 8-8 は、CPU コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-8 CPU コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。CPU
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		この CPU タイプの一般的な情報。cpuid 2、speed 750 MHz、ecache 8 MBytes など。このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y 、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3)

メモリアンポート

表 8-9 は、メモリアンポートの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-9 メモリアンポートの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::memory の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。memory
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、 failed、unusable のどれか
情報		このメモリアンポートの一般的な情報。base address 0x0、2097 152 KBytes total、 420920 KBytes permanent など。このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマ ニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操 作が進行中のときは y、そのような操作が進行中 でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::memory の形式 で、x はボードが装着されているセンタープレー ンスロットの番号 (0 ~ 17)

入出力コンポーネント

表 8-10 は、入出力コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-10 入出力コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 NO.IBx::pciy の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> は PCI 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。io
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		この io タイプの一般的な情報。 device/pci@23d,700000 referenced など。このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:IOx::pciy の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> は PIC 番号 (0 ~ 3)

SCSI コンポーネント

表 8-11 は、SCSI コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-11 SCSI コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた SCSI コンポーネントの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。disk、CD-ROM、tape のどれか
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このタイプの一般的な情報
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		SCSI コンポーネントの物理的な接続点 ID

ドメインからの DR 操作

この節では、Sun Management Center 3.5 の DR モジュールを使って、Sun Fire ドメインから DR 操作を行う方法を説明します。ドメインからのすべての DR 操作は、cfgadm(1M) コマンドに依存しています。cfgadm(1M) コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

Sun Fire のドメインには、論理的な側面と物理的な側面の両方があります。

- 「論理」ドメインは、特定のドメインに所属するものとしてグループ化されたスロットの集まりです。スロットには、システムボードが存在することもあれば、存在しないものもあります。

- 「物理」ドメインは、物理的に相互接続された、論理ドメイン内のボードの集まりです。

占有されているか空いているかに関係なく、スロットは論理ドメインのメンバーになることができますが、物理ドメインの構成要素になることはありません。起動後、ボードまたは空きスロットは、論理ドメインに割り当てたり、論理ドメインから割り当て解除したりできます。Solaris オペレーティング環境からの要求があると、ボードは物理ドメインの構成要素になります。空きスロットが物理ドメインの構成要素になることはありません。

この節では、以下に挙げる、ドメインからの DR およびその他の管理操作について説明します。

- ボードの割り当て
- ボードの割り当て解除
- ボードのアタッチ
- ボードのデタッチ
- ボードの接続
- ボードの切断
- ボードまたはコンポーネントの構成
- ボード、コンポーネント、メモリの構成解除
- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 状態の表示

サポートされている `cfgadm` のオプション

表 8-12 は、DR モジュールがサポートする `cfgadm(1M)` のオプションの一覧です。`cfgadm(1M)` コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

表 8-12 DR がサポートする `cfgadm` のオプション

<code>cfgadm</code> のオプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
<code>-c configure</code>	アタッチ	ボードをアタッチ
<code>-c disconnect</code>	デタッチ	ボードをデタッチ
<code>-x assign</code>	割り当て	ボードを割り当て
<code>-c disconnect</code> <code>-x unassign</code>	割り当て解除	ボードを割り当て解除
<code>-c connect</code>	接続	ボードを接続
<code>-c disconnect</code>	切断	ボードを切断

表 8-12 DR がサポートする cfigadm のオプション (続き)

cfgadm のオプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
-c configure	構成	ボードまたはコンポーネントを構成
-c unconfigure	構成解除	ボードまたはコンポーネントを構成解除
-x poweron	電源オン	ボードの電源をオンにする
-x poweroff	電源オフ	ボードの電源をオフにする
-t	テスト	ボードをテスト

ドメインからのドメイン情報の表示

Sun Fire のドメインから DR 操作を行うときは、「ハードウェア」タブにある DR モジュールの接続点と動的接続点テーブルを表示します。

ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認

ドメインからシステムボードに対して DR 操作を行うには、そのボードがドメインの ACL リストに登録されている必要があります。

ボードの割り当て

この操作により、システムボードが論理ドメインに追加されます。

▼ ボードを割り当てる

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの割り当て先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、割り当てるボードの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「割り当て」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て」確認ボックスが表示されます。

```
Assign a slot.  
Are you sure you want to assign?
```

4. 選択したボードを割り当てる場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当てない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、割り当て操作を取り消します。

ボードの割り当て解除

この操作により、システムボードが論理ドメインから削除されます。

▼ ボードを割り当て解除する

1. esadm グループのメンバーとして、割り当て解除するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、割り当て解除するボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「割り当て解除」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て解除」確認ボックスが表示されます。

```
Unassign.  
Are you sure you want to unassign?
```

4. 選択したボードを割り当て解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当て解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、割り当て解除操作を取り消します。

システムボードのアタッチ

ボードのアタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティング環境に指定されたシステムボードをアタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て

- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- システムコントローラ経由でのドメインへのシステムボードの物理的な接続
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボード上のコンポーネントの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できるようになります。

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってアタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをアタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードのアタッチ先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、アタッチするシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「アタッチ」をクリックします。

次のメッセージの入った「アタッチ」確認ボックスが表示されます。

```
Attach a board.
Attach will connect and configure the selected board.
Are you sure you want to attach?
```

4. 選択したボードをアタッチする場合は、「了解」ボタンをクリックします。アタッチしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、アタッチ操作を取り消します。

システムボードのデタッチ

ボードのデタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティング環境から指定されたシステムボードをデタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボード上のコンポーネントの構成解除。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できなくなります。
- システムコントローラとの通信を通じての、ドメインからのシステムボードの物理的な切断。これ以降、システムボードは論理ドメインの構成要素ではありませんが、物理ドメインの構成要素ではなくなります。
- システムボードの電源オフ

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってデタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをデタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、デタッチするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、デタッチするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「デタッチ」をクリックします。
「デタッチ」確認ボックス (図 8-2) が表示されます。

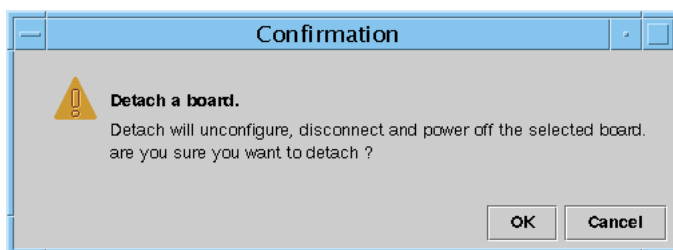


図 8-2 「デタッチ」確認ボックス

4. 選択したボードをデタッチする場合は、「了解」ボタンをクリックします。デタッチしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、デタッチ操作を取り消します。

ボードの接続

この操作により、以下の処理が行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て (ボードが使用可能で、論理ドメインの構成要素でない場合)
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- 物理ドメインへのシステムボードの接続

▼ システムボードを接続する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの接続先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、接続するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「接続」をクリックします。
次のメッセージの入った「接続」確認ボックスが表示されます。

Connect
Are you sure you want to connect?

4. 選択したボードを接続する場合は、「了解」ボタンをクリックします。接続しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、接続操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

ボードの切断

この操作により、以下の処理が行われます。

- システムボードの構成解除 (必要な場合)
- 物理ドメインからのシステムボードの切断

▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する

1. esadm グループのメンバーとして、切断するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、切断するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「切断」をクリックします。
「切断」パネル (図 8-3) が表示されます。

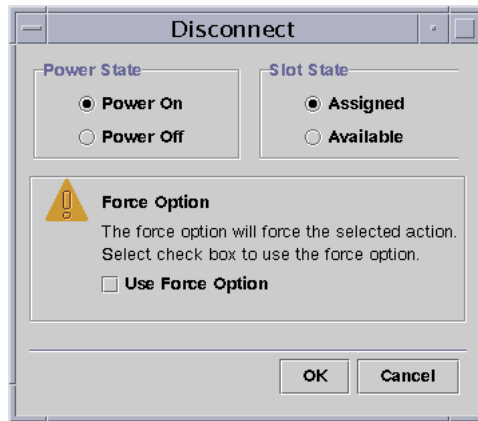


図 8-3 「切断」 パネル

- 適切な「電源の状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
- 適切な「スロットの状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
- 切断操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスをクリックします。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
- 選択したボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

▼ SCSI ボードを切断する

esadm グループのメンバーとして、切断する SCSI ボードがあるドメインにログインします。

- 適切なボードテーブル内の、切断する SCSI ボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。

9. メニューから「切断」をクリックします。

次のメッセージの入った「切断」パネルが表示されます。

```
Disconnect
Are you sure you want to continue?
```

10. 選択した SCSI ボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

ボード、コンポーネント、メモリの構成

この操作により、以下の処理が行われます。

- システムボードの接続 (必要な場合)
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボードまたはボード上のコンポーネントかメモリの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションがボード、ボード上のコンポーネント、またはボード上のメモリを利用できるようになります。

▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリを構成する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードかコンポーネント、メモリの構成先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成するシステムボード、コンポーネント、またはメモリの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード、コンポーネント、またはメモリ操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「構成」をクリックします。
次のメッセージの入った「構成」確認ボックスが表示されます。

```
Configure
Are you sure you want to configure?
```

4. 選択したボード、コンポーネント、またはメモリを構成する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

ボード、コンポーネント、メモリの構成解除

構成解除機能は、システムコントローラ、またはボード上のコンポーネント、メモリを構成解除します。この処理により、ドメイン上で動作するアプリケーションは、ボード、コンポーネント、またはメモリを利用できなくなります。

▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボードまたはコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。
次のメッセージの入った「構成解除」パネルが表示されます。

```
Select Force Option
The force option will force the selected action.
Select check box to use the force option.
```

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. 選択したボードまたはコンポーネントを構成解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

▼ メモリを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するメモリがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するメモリコンポーネントの一意的接続点 ID を右クリックします。
メモリコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。
「メモリの構成解除」パネル (図 8-4) が表示されます。

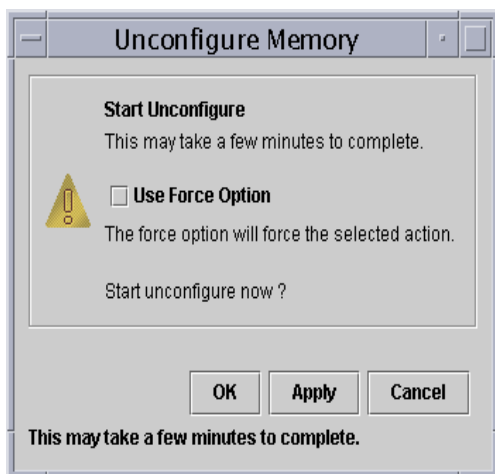


図 8-4 「メモリの構成解除」パネル

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. メモリの構成解除を開始する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、システムボードの電源をオンにします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオンにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオンにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオンにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。
次のメッセージの入った「電源オン」確認ボックスが表示されます。

```
Power On a board.  
Are you sure you want to power on?
```

4. システムボードの電源をオンにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オンにしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、電源オン操作を取り消します。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、システムボードの電源をオフにします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオフにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオフにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオフにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
次のメッセージの入った「電源オフ」確認ボックスが表示されます。

```
Power Off a board.  
Are you sure you want to power off?
```

4. システムボードの電源をオフにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オフにしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、電源オフ操作を取り消します。

ボードのテスト

ボードのテスト機能は、システムボードをテストします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられ、電源が投入されている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードをテストする

1. esadm グループのメンバーとして、テストするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、テストするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「テスト」をクリックします。
「ボードのテスト」パネル (図 8-5) が表示されます。

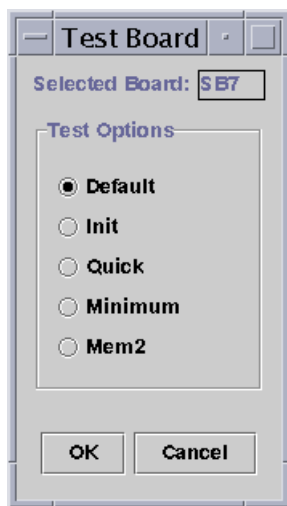


図 8-5 「ボードのテスト」パネル

4. テストオプション横のラジオボタンをクリックします。

5. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認したら、「了解」ボタンをクリックして、テストを開始します。テストしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、テストを取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。実行中のコマンドがエラーで停止した場合は、`cfgadm(1M)` プログラムからエラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

▼ 状態を表示する

1. `esadm` グループのメンバーとして、状態を表示するシステムボードまたはスロットがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。

3. メニューにある「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が表示されます (コマンドが実行されている場合)。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。



図 8-6 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 8-7 に示すメッセージが表示されます。

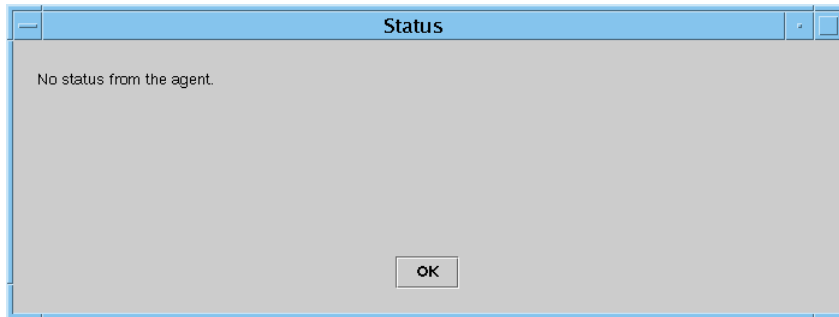


図 8-7 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

CLI によるインストールと設定

CLI による Sun Fire ハイエンドシステム 用アドオンソフトウェアのインストール

Sun Management Center サーバとシステムコントローラ、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン、コンソールには、Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアと Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをインストールします。



注意 – システムコントローラが CP2140 ボードの場合は、そのサポートのために、システムコントローラと Sun Management Center サーバの両方にシステムコントローラ用エージェントソフトウェアを再インストールする必要があります。

詳細なインストール方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B の「es-inst による Solaris プラットフォームへのインストール」を参照してください。

インストール作業の過程で、各追加製品の一覧が表示され、製品をインストールするかどうか問い合わせがあります。以下の 2 つは、Sun Fire ハイエンドシステムに固有の製品です。

- Sun Fire High-End Systems Monitoring
- Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのプラットフォーム用動的再構成 (ドメインで動的再構成を使用する場合)

インストールが完了すると、インストールされた製品の一覧が表示され、Sun Management Center コンポーネントを設定するかどうか、問い合わせがあります。

注 – Sun Management Center ソフトウェアのインストールまたはセットアップでは、**y** (はい)、**n** (いいえ)、**q** (終了) のいずれかを入力します。

CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定

Sun Management Center サーバとシステムコントローラ、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン、コンソールで、Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアと Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定をします。

詳細な設定方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B の「es-setup による Solaris プラットフォーム上の設定」を参照してください。

インストールで追加製品を選択していて、主要製品の設定を完了すると、選択された製品ごとにセットアップスクリプトが実行されます。Sun Management Center サーバまたはコンソールの場合、Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定は特に必要ありません。システムコントローラと Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの場合は、Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定が必要になります。

システムコントローラの設定

ここでは、システムコントローラに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法を説明します。このソフトウェアのインストールと設定は、両方のシステムコントローラで行う必要があります。手順は同じです。システムコントローラに Sun Management Center ソフトウェアを再インストールする場合は、その前に、そのシステムコントローラから Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールしてください (34 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照)。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定が開始されると、以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire High-End Systems Platform Setup  
-----  
  
....  
  
Is this Sun Fire High-End Systems platform configured with a spare SC? [y|n|q]
```

1. Sun Fire ハイエンドシステムに予備のシステムコントローラが構成されている場合は、y (はい)、予備のシステムコントローラがない場合は n (いいえ) を入力します。y を選択した場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Enter the alternate SC hostname (not 主ホスト名) for this platform.  
Alternate SC hostname: 代替ホスト名
```

2. 予備 (または代替) のシステムコントローラがある場合は、そのシステムコントローラのホスト名を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
The Platform agent will create a composite object that includes Sun Management  
Center agents loaded on Sun Fire High-End Systems domains.  
  
The default port to be checked for Sun Fire High-End Systems Domains is: 161.  
  
Do you want to change the port that will be checked? [y|n|q]
```



注意 – すべての Sun Fire ハイエンドシステムのドメインについて、ドメインエージェントのセットアップで指定したのと同じポート番号を指定してください。ポート番号が異なると、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが機能しません。

3. デフォルトのポートを変更しない場合は n、変更する場合は y を入力します。y を入力すると、新しいデフォルトのポート番号を指定するよう求められます。新しいポート番号を入力してください。

Sun Management Center Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのエージェントの設定が開始されると、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire High-End Systems System Controller Agent  
Setup  
-----
```

SC 用に使用されているマシンに従って、次のメッセージのうちのいずれかが表示されます。

■ CP1500 が使用されていることが検出された場合

```
Proper setup requires loading the drivers i2c, i2cadc, i2cgpio.  
This will enable us to collect voltage and temperature data for the CP1500.  
Please refer to the SPARCengine ASM Reference Manual for more information.
```

```
Would you like to continue?[y|n|q]
```

注 - **y** を入力して続行すると、`es-start` スクリプトによって、CP1500 上で以下に示すドライバが自動的に読み込まれます。

■ CP2140 が使用されていることが検出された場合

```
Proper setup requires loading the Solaris Management Console software and  
patches for CP2140 support.  
This will enable us to collect temperature data for the CP2140.
```

```
Would you like to continue?[y|n|q]
```

■ CP1500 と CP2140 のどちらも使用されていないことが検出された場合

```
Error, an unsupported SC type has been detected.  
SC is neither CP1500 nor CP2140.
```

```
Would you like to continue?[y|n|q]
```


4. `y` を入力して、システムコントローラのエージェントの設定をします。設定をしない場合は `n`、終了する場合は `q` を入力します。

`y` と入力すると、システムコントローラのエージェントの設定が最後まで行われて、次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to start Sun Management Center agent now?[y|n|q]
```

5. ここで Sun Management Center の主要エージェントと Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントとシステムコントローラエージェントを起動する場合は、`y` を入力します。これらのソフトウェアを起動しない場合は、`n` を入力します。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定

ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントの設定方法を説明します。このための手順は、監視するすべてのドメインで同じです。ドメインに Sun Management Center ソフトウェアを再インストールする場合は、その前に、そのドメインから Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをアンインストールしてください (34 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照)。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定が開始されると、以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire High-End Systems Domain Setup  
-----
```

```
....
```

```
The Domain Config Reader for Sun Fire High-End Systems will collect  
configuration and status information for your tape drives at regular polling  
intervals.This can be disruptive to tape drive controllers that do not allow  
concurrent access.
```

```
Would you like to disable this feature?[y|n|q]
```

1. テープドライブに対するポーリングを無効にする場合は y、無効にしない場合は n を入力します。

テープドライブコントローラによって同時並行アクセスが禁止されている場合は、この機能を無効にできます。

いずれの場合も、以下のメッセージが表示されます。

Do you want to start Sun Management Center agent now [y|n|q]

2. ここで Sun Management Center の主要エージェントと Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントを起動する場合は、y を入力します。これらのソフトウェアを起動しない場合は、n を入力します。

用語集

この用語集では、このマニュアル、および Sun Fire ハイエンドシステム専用のモジュール用の Sun Management Center コンソールで使用されている略語と頭文字語をまとめています。

数字・記号

°C 摂氏

A

- ABUS** address bus (アドレスバス) の略語
- AC** Alternating Current (交流) の略語で、電源装置からの入力交流電流を意味します。
- ACL** アクセス制御リスト (Access Control List)。 (Sun Management Center の GUI で使用されているこの用語は、System Management Services (SMS) で使用されている Available Component List (使用可能なコンポーネントリスト) と同じものです。
- AMX** Address Multiplexer (アドレスマルチプレクサ) ASIC を意味します。
- AR** Address Register (アドレスレジスタ) ASIC を意味します。
- ASIC** Application-specific integrated circuit の略語
- ASM** Advanced System Monitoring の略語
- ASR** Automatic System Recovery (自動システム回復) の略語

AXQ system address controller (システムアドレスコントローラ) ASIC を意味します。

C

CBH console bus hub (コンソールバスハブ) の略語

CLI command-line interface (コマンド行インタフェース) の略語

COD Capacity on Demand オプションを意味します。

codd Capacity-on-Demand デーモンを意味します。

CP Centerplane (センタープレーン) の略語で、Sun Fireplane インターコネクトともいいます。

CPU central processing unit (中央演算処理装置) の略語

CS または CSB centerplane support board (センタープレーンサポートボード) の略語

CSN シャーシのシリアル番号

D

DARB Data Arbiter (データアービター) ASIC を意味します。

DAT digital audio tape (デジタルオーディオテープ) の略語

DBUS data bus (データバス) の略語

DC Direct Current (直流) の略語で、施設の電源からの直流電流を意味します。

dca Domain Configuration Administration (ドメイン構成管理) の略語

DCR Domain Config Reader (ドメイン構成リーダー) の略語

D キャッシュ データキャッシュのことです。

DDS digital data storage (デジタルデータ記憶装置) の略語

DIMM dual inline memory module の略語

DMX Data Multiplexer (データマルチプレクサ) ASIC を意味します。

DNS Domain Name Service (ドメインネームサービス) の略語

DR Dynamic Reconfiguration (動的再構成) の略語

dsmd Domain Service Monitoring Daemon (ドメインサービス監視デーモン) の略語

- DX Data Extract (データ抽出) ASIC を意味します。
- x/dxs Domain X Server (ドメイン X サーバ) のことで、X は a ~ r の範囲の英字です。

E

- E キャッシュ 外部キャッシュのことです。
- ECC Error-Correcting Code (誤り訂正コード) の略語
- efe Event Front-end Daemon (イベントフロントエンドデーモン) の略語
- efhd Error and Fault handling デーモンの略語
- elad イベントログアクセスデーモンの略語
- erd イベントレポートデーモンの略語
- esmd Environmental Status Monitoring Daemon (環境状態監視デーモン) の略語
- EX または EXB 拡張ボードの略語

F

- fomd Failover Management Daemon (フェイルオーバー管理デーモン) の略語
- frad FRU Access Daemon (FRU アクセスデーモン) の略語
- FRU field-replaceable unit (現場交換可能ユニット) の略語
- FT Fan tray (ファントレー) の略語

G

- GUI graphical user interface (グラフィカルユーザインタフェース) の略語

H

- HK housekeeping (ハウスキーピング) の略語
- HPCI、hPCI、hsPCI Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) 集合部品のことです。
- HPCI+、hPCI+、hsPCI+ Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) プラス組立部品のことです。
- HUP Hang-up (ハングアップ) 信号を意味します。
- hwad Hardware Access Daemon (ハードウェアアクセスデーモン) の略語

I

- I キャッシュ 命令キャッシュのことです。
- ICMP Internet Control Message Protocol の略語
- ID identifier (識別子) を意味します。
- IO Input/Output (入出力) の略語で、MaxCPU ボードや hsPCI ボードなどを意味します。
- IOA Input/Output Adapter (入出力アダプタ) の略語
- IP Internet Protocol (インターネットプロトコル) の略語

J

- JDK Java Development Kit の略語

K

- kmd Key Management Daemon (キー管理デーモン) の略語

M

- mand Management Network Daemon (管理ネットワークデーモン) の略語
- MB または M バイト megabyte (メガバイト) を意味します。
- MHz megahertz (メガヘルツ) を意味します。
- MIB management information base の略語
- mlsd Message Logging Daemon (メッセージログ記録デーモン) の略語

N

- NIC network interface card (ネットワークインタフェースカード) の略語
- NIS Network Information Services の略語

O

- OBP OpenBoot PROM の略語
- OID object identifier (オブジェクト識別子) を意味します。
- osd OpenBoot PROM Support Daemon (OpenBoot PROM サポートデーモン) の略語

P

- Paroli 並列光リンクのことです。
- pcd Platform Configuration Daemon (プラットフォーム構成デーモン) の略語
- PCI peripheral component interconnect の略語
- PCR プラットフォーム構成リーダーを意味します。
- PDSM プラットフォーム / ドメインの状態管理
- PFA predictive failure analysis (予測障害分析) の略語

- POR Power-on Reset (電源投入リセット) の略語
- POST Power-On Self-Test (電源投入時セルフテスト) の略語
- PROC プロセッサを意味します。
- PROM programmable read-only memory の略語
- PS power supply (電源装置) の略語

R

- RBUS response bus (応答バス) を意味します。
- RIO Read Input/Output (入出力読み取り) ASIC を意味します。
- RMX Response Multiplexer (応答マルチプレクサ) ASIC を意味します。
- RSM remote shared memory (遠隔共有メモリ) の略語
- RT Real-time process (リアルタイムプロセス) を意味します。

S

- SAN storage area network (ストレージエリアネットワーク) の略語
- SB system board (システムボード) の略語で、CPU ボードなどのことです。
- SBBC Sun Fire Boot Bus Controller の略語
- SC system controller (システムコントローラ) の略語
- SCM System Controller Monitoring (システムコントローラの監視) の略語
- SCSI small computer system interface の略語
- SDC Sun Fire Data Controller (Sun Fire データコントローラ) ASIC を意味します。
- SDI System Data Interface (システムデータインタフェース) ASIC のことで、拡張ボードには、この ASIC が 6 つあります。
- SDI0 System Data Interface (システムデータインタフェース) のマスター ASIC のことで、5 つあるシステムデータインタフェース ASIC のマスターです。
- SDI3 5 つあるシステムデータインタフェース ASIC の 3 つ目です。
- SDI5 5 つあるシステムデータインタフェース ASIC の 5 つ目です。
- SEEPROM serially electrically erasable PROM の略語

SIMM	dual inline memory module の略語
SMS	System Management Services の略語
SNMP	Simple Network Management Protocol の略語
ssd	SMS Startup Daemon (SMS 起動デーモン) を意味します。
SSM	scalable shared memory (スケーラブル共有メモリ) の略語
SYS	System process (システムプロセス) を意味します。

T

tmd	Task Manager Daemon (タスクマネージャデーモン) の略語
TNG	the next generation (次世代) を意味します。
TS	Time-sharing process (タイムシェアリングプロセス) を意味します。

U

UPA	UltraSPARCa Port Architecture の略語
-----	-----------------------------------

V

V	Volts (ボルト) または Voltage (電圧) の略語
VDC	直流電圧を意味します。

W

WCI	Sun Fire Link Interface ASIC のことです。
WcApp	Sun Fire Link および Sun Fire High-End の SMS インタフェースデーモンのことです。
WPCI	Sun Fire Link PCI のことです。

wrsm Sun Fire Link Remote Shared Memory 用のドライバ
wssm Sun Fire Link Scalable Shared Memory 用のドライバ

ふ

プロセッサリスト MaxCPU ボード

索引

C

CP1500

- ドライバ、インストール, 234
- ボード、属性, 162

CPU コンポーネント、属性

- 動的接続点, 213

CPU ボード、属性, 108

CPU/メモリボード、属性

- 接続点, 206
- ドメイン, 144

D

DIMM、属性

- プラットフォーム, 124
- ドメイン, 152

H

hPCI、属性

- カード, 147
- 接続点, 209
- カセット, 120
- ボード
- ドメイン, 145
- 入出力, 207
- プラットフォーム, 110, 112

M

MaxCPU ボード、属性

- 接続点, 212
- ドメイン, 146
- プラットフォーム, 117

N

NIS ネームサーバ, 47

P

Paroli カード、属性

- ドメイン, 148
- プラットフォーム, 121

PCI デバイス、属性, 164

S

SCSI コンポーネント、属性

- 動的接続点, 216

SCSI、属性

- 接続点, 210

SC 構成 リーダー

- アイコン, 160
- アラーム規則, 167

CPU

- 温度 (cpCPUTemp), 168

- 状態 (cpCPUStatus), 168
- エラー数
 - ディスク (cpDskErrCnt), 169
 - テープ (cpTpeErrCnt), 169
- ボードの電圧 (cpBrdVolt), 167
- 属性, 161
 - PCI デバイス, 164
 - SC ボード, 162
 - システム, 161
 - ディスクデバイス, 165
 - テープデバイス, 166
 - ネットワークインタフェース, 166
 - プロセッサ, 162
 - メモリモジュール, 163
- SC デーモンプロセス、属性, 180
- SC の監視
 - アイコン, 179
 - アラーム規則
 - プロセスの停止 (rDownProc), 182
 - 監視対象の SMS デーモン, 180
 - 属性
 - SC デーモンプロセス, 180
- SC の状態
 - アイコン, 182
 - アラーム規則
 - SC の状態 (rscstatus), 184
 - 属性, 183

W

- WCI、属性, 155
- Web インタフェース, 43
- WPCI ボード、属性
 - ドメイン, 145
 - ドメインの DR, 208
 - プラットフォーム, 115

あ

- 空きスロット、属性
 - 接続点, 211
 - ドメイン, 178
 - プラットフォーム, 174
- アクセス制御 (ACL)

- ACL の設定または変更, 199
- ボードがドメインの ACL に登録されていること
の確認, 218

アラーム規則

- CPU
 - 温度 (cpCPUTemp), 168
 - 状態
 - システムコントローラ (cpCPUStatus), 168
 - ドメイン (scCPUStatus), 156
- hPCI カード (scHPCId), 131
- OK/BAD/UNKNOWN (scOBURul), 133
- OK/FAIL 規則 (scOkFail), 133
- ON/OFF 規則 (scOnOff), 134
- POST の状態
 - POST の状態 (scPOST), 134
 - ドメイン (scPOSTStatus), 157
- SC の状態 (rscstatus), 184
- エラー数
 - DIMM (scDimmErrCnt), 156
 - ディスク
 - システムコントローラ (cpDskErrCnt), 169
 - ドメイン (scDskErrCnt), 157
 - テープ
 - システムコントローラ (cpTpeErrCnt), 169
 - ドメイン (scTpeErrCnt), 158
 - リンク
 - 状態 (scLnkSt), 159
 - 妥当性 (scLnkVld), 159

システムボード

- DR の状態 (scDrStat), 136
- テストの状態 (scBTest), 136
- 状態の検査 (scStateCheck), 158
- 電源装置の遮断器 (scBreakr), 135
- ドメイン停止と記録停止 (scStop), 131
- フェイルオーバー状態 (scFoStat), 132
- プロセスの停止 (rDownProc), 182

ボード

- 温度 (scBTemp), 130
- 電圧
 - システムコントローラ (cpBrdVolt), 167
 - 電圧 (scBVolt), 130
- 電源 (scBPower), 129
- 電流 (scBCurr), 129

い

- インストール
 - CP1500 のドライバ, 234
 - 概要, 10
 - 図, 10
 - スクリプト, 3
 - 注意事項, 3
 - ホストと対応する階層, 13

お

- オブジェクト
 - 検出、属性, 127
 - プラットフォーム
 - 作成, 66
 - ポート番号, 67
- 温度
 - アラーム規則
 - システムコントローラ, 168
 - プラットフォーム, 130
 - しきい値, 168
 - 摂氏, 98

か

- 拡張ボード、属性, 101, 174

き

- キースイッチ、位置の変更, 198

く

- グループ、管理
 - Sun Fire ハイエンドシステムのモジュール, 53
 - Sun Management Center, 48
 - System Management Services
 - PDSM 操作, 53
 - デフォルト, 50
 - スーパーユーザ, 46
 - 制限, 55

け

- 検出オブジェクト、属性, 127

こ

- 構成解除、ドメインからの
 - コンポーネント, 225
 - ボード, 225
 - メモリ, 226
- 構成、ドメインからの
 - コンポーネント, 224
 - ボード, 224
 - メモリ, 224
- コンソール
 - 起動, 39
 - 終了, 40
 - セットアップ, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28

さ

- サーバ
 - 起動, 39
 - 再構成, 42
 - 最小メモリ容量, 12
 - 選択, 12
 - 停止, 40, 42
 - ホスト名, 43
- 再インストール
 - System Management Services ソフトウェア, 41
- 再構成
 - サーバ, 42
 - システムコントローラ, 41
 - データの退避, 42
 - ドメイン, 43
 - プラットフォーム, 41
- 削除
 - タグ、ドメイン, 198
 - ボード
 - ドメイン, 194
 - プラットフォーム, 189

し

- システムコントローラ
 - CP1500 のドライバのインストール, 234
 - インストール, 232
 - エージェント, 5
 - 再構成, 41
 - 周辺装置、属性, 105
 - 状態, 183
 - 属性, 104
 - デーモンプロセス, 180
 - ハードウェアの概要, 84
 - 物理表示, 85
 - 予備, 233
 - 論理表示, 89
- システム、属性
 - システムコントローラ, 161
 - ドメイン, 143
 - プラットフォーム, 98
- 詳細ウィンドウ
 - システムコントローラ, 83
 - ハードウェアの概要, 84
 - 物理表示, 85
 - 論理表示, 89
 - ドメイン, 78
 - ハードウェアの概要, 79
 - 物理表示, 80
 - 論理表示, 82
 - 「ハードウェア」タブ, 70
- ハードウェアの概要、概略, 70
- 物理表示、概略, 70
- プラットフォーム, 71
 - ハードウェアの概要, 72
 - 物理表示, 74
 - 論理表示, 76
- モジュール、Sun Fire ハイエンドシステムの
 - エージェント, 69
- 論理表示、概略, 71
- 状態の表示
 - PDSM
 - ドメイン, 201
 - プラットフォーム, 191
 - ドメインの DR, 229

す

- スーパーユーザのアクセス権, 46
- スクリプト
 - インストール (es-inst), 3
 - セットアップ (es-setup), 3, 41
 - 注意事項, 3
- スロット 0 のボード、属性
 - ドメイン, 177
 - プラットフォーム, 172
- スロット 1 のボード、属性
 - ドメイン, 177
 - プラットフォーム, 173
- スロット、定義, 217

せ

- 切断、ドメインからの
 - SCSI, 223
 - ボード, 222
- セットアップ
 - ACL, 199
 - 概要, 10
 - 図, 10
 - スクリプト, 3, 41
 - ネットワーク上の共通の場所, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28
 - ワークステーション, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28
- センタープレーンサポートボード、属性, 103
- センタープレーン、属性, 100
- 前提条件, xxiii, 185, 203

そ

- ソフトウェアの起動, 38
 - コンソール, 39
 - サーバ, 39
 - システムコントローラ, 38
 - ドメイン, 38
- ソフトウェアの終了、コンソール, 40
- ソフトウェアの停止, 39
 - コンソール, 40

サーバ, 40, 42
システムコントローラ, 40, 42
ドメイン, 40, 42

つ

追加

タグ、ドメイン, 197
ボード
ドメイン, 193
プラットフォーム, 188
追加製品 (ライセンス契約の下に使用許可)
Web インタフェース, 43
概略, 3

て

停止回数

記録 (rstop), 66
ドメイン (dstop), 66
ディスクデバイス、属性
システムコントローラ, 165
ドメイン, 153
データの退避, 42
テープデバイス、属性
システムコントローラ, 166
ドメイン, 154

電圧

アラーム規則
システムコントローラ, 167
プラットフォーム, 130
注意, 167

電源オフ

周辺装置
SC からの
プラットフォーム, 191
ボード
SC からの
ドメイン, 196
プラットフォーム, 191
ドメインからの, 227

電源オン

周辺装置
SC からの

プラットフォーム, 190
ボード
SC からの
ドメイン, 195
プラットフォーム, 190
ドメインからの, 226

電源装置、属性, 107, 175

と

ドメイン

インストール, 235
起動, 38
再構成, 41, 43
情報、属性, 176
属性, 125
停止, 40, 42
ハードウェアの概要, 79
表示へのアクセス, 54
物理表示, 80
リセット, 200
論理表示, 82

ドメイン構成リーダー

アイコン, 140
アラーム規則, 155
CPU の状態 (scCPUStatus), 156
DIMM エラー数 (scDimmErrCnt), 156
POST の状態 (scPOSTStatus), 157
状態の検査 (scStateCheck), 158
ディスクエラー数 (scDskErrCnt), 157
テープエラー数 (scTpeErrCnt), 158
リンクの状態 (scLnkSt), 159
リンクの妥当性 (scLnkVld), 159

再表示, 142

属性, 143

CPU/メモリボード, 144
DIMM, 152
hPCI カード, 147
hPCI ボード, 145
MaxCPU ボード, 146
Paroli カード, 148
WCI, 155
WPCI ボード, 145
システム, 143
ディスクデバイス, 153
テープデバイス, 154

- ネットワークインタフェース, 154
 - プロセッサ, 149
 - メモリコントローラ, 150
 - メモリバンク, 151
- ドメインの動的再構成 (DR)
 - SCSI の切断, 223
 - アイコン, 204
 - サポートされている `cfgadm` のオプション, 217
 - 状態の表示, 229
 - 接続点, 205
 - 属性
 - CPU コンポーネント, 213
 - CPU/メモリ, 206
 - hPCI カード, 209
 - hPCI 入出力ボード, 207
 - MaxCPU, 212
 - SCSI, 210
 - SCSI コンポーネント, 216
 - WPCI, 208
 - 空きスロット, 211
 - 入出力コンポーネント, 215
 - メモリコンポーネント, 214
 - 動的接続点, 205, 212
 - 物理、定義, 217
 - ボードのアタッチ, 219
 - ボードの構成、コンポーネント、メモリ, 224
 - ボードの接続, 221
 - ボードの切断, 222
 - ボードのテスト, 228
 - ボードのデタッチ, 220
 - ボードの電源オフ, 227
 - ボードの電源オン, 226
 - ボードの割り当て, 218
 - ボードの割り当て解除, 219
 - ボードまたはコンポーネントの構成解除, 225
 - メモリの構成解除, 226
 - 論理、定義, 216
- ドメインのリセット, 200

に

- 入出力コンポーネント、属性
 - 動的接続点, 215

ね

- ネームサービススイッチ, 47
- ネットワークインタフェース、属性
 - ドメイン, 154
 - システムコントローラ, 166

は

- 「ハードウェア」タブ, 70
- ハードウェアの概要
 - 概略, 70
 - システムコントローラ
 - 表示, 84
 - ドメイン
 - 表示, 79
 - プラットフォーム
 - 情報, 73
 - ハードウェア資源, 73
 - 表示, 72
- パッケージ
 - Sun Fire ハイエンドシステム, 4
 - 最小ディスク容量, 4

ひ

- 表示
 - ドメイン、アクセス, 54
 - 物理, 70
 - プラットフォーム、アクセス, 54
 - 論理, 71

ふ

- ファントレー、属性, 106, 175
- 複合
 - 作成, 60
 - 障害の追跡, 64
- 複合オブジェクト
 - アイコン, 58
 - 検出, 62
 - 更新, 62
 - プラットフォーム, 57
- 物理表示

- 概略, 70
- システムコントローラ
 - 表示, 85
 - ドメイン
 - 表示, 80
 - プラットフォーム
 - 表示, 74
- プラットフォーム
 - オブジェクト
 - 作成, 66
 - システムコントローラ, 66
 - 再構成, 41
 - 情報、属性, 172
 - ハードウェアの概要, 72
 - 表示へのアクセス, 54
 - 複合オブジェクト, 57
 - 物理表示, 74
 - 論理表示, 76
- プラットフォーム/ドメインの状態管理
 - 属性
 - プラットフォーム
 - 電源装置, 175
- プラットフォーム構成リーダー
 - アイコン, 96
 - アラーム規則, 128
 - hPCI カード (scHPCId), 131
 - OK/BAD/UNKNOWN (scOBURul), 133
 - OK/FAIL 規則 (scOkFail), 133
 - ON/OFF 規則 (scOnOff), 134
 - POST の状態 (scPOST), 134
 - システムボード
 - DR の状態 (scDrStat), 136
 - テストの状態 (scBTest), 136
 - 電源装置の遮断器 (scBreakr), 135
 - ドメイン停止と記録停止 (scStop), 131
 - フェイルオーバー状態 (scFoStat), 132
 - ボード
 - 温度 (scBTemp), 130
 - 電圧 (scBVolt), 130
 - 電源 (scBPower), 129
 - 電流 (scBCurr), 129
 - 再表示, 97
 - 属性, 98
 - CPU ボード, 108
 - DIMM, 124
 - Paroli カード, 121
 - hPCI カセット, 120
 - hPCI ボード, 112
 - MaxCPU ボード, 117
 - WPCI ボード, 115
 - 拡張ボード, 101, 174
 - 検出オブジェクト, 127
 - システム, 98
 - システムコントローラ, 104
 - システムコントローラの周辺装置, 105
 - センタープレーン, 100
 - センタープレーンサポートボード, 103
 - 電源装置, 107
 - ドメイン, 125
 - ファントレー, 106
 - hPCI ボード, 110
 - プロセッサ, 122
 - メモリバンク, 123
- プラットフォーム/ドメインの状態管理
 - ACL の設定または変更
 - ドメイン, 199
 - アイコン, 170
 - キースイッチ位置の変更
 - ドメイン, 198
 - グループ権限、要件, 53
 - サポートされる SMS コマンド, 186
 - 状態の表示
 - ドメイン, 201
 - プラットフォーム, 191
 - 属性
 - ドメイン
 - 空きスロット, 178
 - 情報, 176
 - スロット 0 のボード, 177
 - スロット 1 のボード, 177
 - プラットフォーム
 - 空きスロット, 174
 - 情報, 172
 - スロット 0 のボード, 172
 - スロット 1 のボード, 173
 - ファントレー, 175
 - タグの削除
 - ドメイン, 198
 - タグの追加/変更
 - ドメイン, 197
 - ドメイン表示, 175
 - アクセス, 54
 - プラットフォーム表示, 171
 - アクセス, 54
 - ボードの移動

- ドメイン, 194
 - プラットフォーム, 189
- ボードの削除
 - ドメイン, 194
 - プラットフォーム, 189
- ボードの追加
 - ドメイン, 193
 - プラットフォーム, 188
- ボードのテスト
 - ドメイン, 196
- ボードの電源オフ
 - ドメイン, 196
- ボードの電源オン
 - ドメイン, 195
- ボードまたは周辺装置の電源オフ
 - プラットフォーム, 191
- ボードまたは周辺装置の電源オン
 - プラットフォーム, 190
- リセット
 - ドメイン, 200
- プロセッサ、属性
 - システムコントローラ, 162
 - ドメイン, 149
 - プラットフォーム, 122

へ

- 変更
 - ACL, 199
 - キースイッチ位置, 198
 - タグ、ドメイン, 197

ほ

- ボードのアタッチ、ドメインからの, 219
- ボードの移動
 - ドメイン, 194
 - プラットフォーム, 189
- ボードの接続、ドメインからの, 221
- ボードのテスト
 - SC からの, 196
 - ドメインからの, 228
- ボードのデタッチ、ドメインからの, 220
- ボードの割り当て解除、ドメインからの, 219

- ボードの割り当て、ドメインからの, 218
- ポート番号
 - エージェント, 41, 67
 - 確認, 63
 - サーバホスト, 41
 - 注意事項, 233
 - デフォルト, 5
 - トラップエージェント, 41

- ホスト
 - 監視対象, 59
 - 対応する階層, 13
 - 名前
 - サーバ, 43
 - 非監視対象, 59

め

- メモリコントローラ、属性, 150
- メモリコンポーネント、属性
 - 動的接続点, 214
- メモリバンク、属性
 - ドメイン, 151
 - プラットフォーム, 123

も

- モジュール
 - Sun Fire ハイエンドシステムエージェント, 2
 - SC 構成 リーダー, 160
 - SC の監視, 179
 - SC の状態, 182
 - Sun Fire ハイエンドシステムのエージェント, 69, 93
 - アラーム規則, 96
 - 属性, 95
 - 読み込み解除可能, 93
 - 読み込み可能, 93
 - ドメイン構成リーダー, 140
 - ドメインの動的再構成 (DR), 204
 - プラットフォーム
 - 使用不可, 94
 - 必須の SMS デーモン, 95
 - プラットフォーム構成リーダー, 96

プラットフォーム/ドメインの状態管理, 170

よ

要件

各パッケージの最小ディスク容量, 4

サーバの最小メモリ容量, 12

ネットワークポートの設定, 5

ろ

ログファイル, 44, 184

論理表示

概略, 71

システムコントローラ

表示, 89

ドメイン

表示, 82

プラットフォーム

表示, 76

